太宰府市の文化財　第117集

# 宝満山遺跡群 7

－第 42・43 次調査－

平成 24 (2012) 年

太宰府市教育委員会

太宰府市の文化財　第117集

# 宝満山遺跡群 7

－第 42・43 次調査－

平成 24 (2012) 年

太宰府市教育委員会

第 42 次調査第 2 面全景（上が北）

# 序

本書は、宝満山の西麓の大字内山で行われた文化財調査報告書です。

調査地は太宰府市の北東、宝満山の西麓に位置します。宝満山は古来より信仰の山として知られていますが、近年は絶好の展望地点として登山客で賑わっています。

今回の調査では、石組みの基壇を伴う平安時代の礎石建ち建物跡が見つかり、宝満山が全盛だった大山寺（有智山寺）の堂舎のひとつと考えられ、宝満山の歴史を知る上で貴重な所見を得ることが出来ました。現在歴史と自然が詰まった宝満山は、保存に向けた準備を進めており、今回の発見は、その動きを後押しするものとなっています。

本書が学術研究はもとより文化財への理解と認識を深める一助となり、広く活用され、ひいては文化財愛護の精神が高揚することを心より願っております。

最後になりましたが、本調査に対しご理解ご協力いただきました、関係各位ならびに諸機関の方々に心からお礼申し上げます。

平成24年12月
太宰府市教育委員会
教育長　關　敏治

# 例言

1. 本書は太宰府市大字内山で行われた宝満山遺跡群の文化財調査報告書である。
2. 遺構の実測には、国土調査法第Ⅱ座標系を利用した。したがって本書に示される方位は特に注記のない限りG.N.（座標北）を示し、本文中に記される遺構の角度もこれを基準としたものである。
3. 調査対象地の表土除去および埋め戻しは㈲松田造園土木に委託した。
4. 遺構の実測及び写真撮影は山村、宮崎が行った。
5. 遺構全体図のデジタルトレースは、瀬戸口みな子、市川晴美、中原順子、宮崎が行った。
6. 遺構の空中写真撮影は㈱空中写真企画（代表諫山広宣）が行った。
7. 出土した鉄製品の保存処理は㈱タクトが行った。
8. 遺物の実測は、福井円、吉富千春、今岡一恵、山村、宮崎が行った。
9. 表入力・写真整理は瀬戸口みな子、市川晴美が行った。
10. 遺物の整理接合・復元作業は馬場由美、住山景子、末永亜由子が行った。
11. 遺物の写真撮影は㈲文化財写真工房（代表 岡紀久夫）が行った。
12. 図の浄書は、福井円、吉富千春、今岡一恵、山村、宮崎が行った。
13. 本書に用いた分類は以下のとおり。
    須恵器 ……『宮ノ本遺跡Ⅱ　－窯跡篇－』（太宰府市の文化財第10集）1992
    陶磁器 ……『大宰府条坊跡XV　－陶磁器分類－』（太宰府市の文化財 第49集）2000
    土器 ……『大宰府条坊跡Ⅱ』（太宰府市の文化財第7集）1983
    瓦 ……『宝満山遺跡群4』（太宰府市の文化財第79集）2005
14. 執筆は第42次調査を宮崎、第43次調査を山村、編集は宮崎が担当した。

# 目次


Ⅰ、遺跡の位置と歴史 …… 1

Ⅱ、調査体制 …… 5

Ⅲ、調査および整理方法 …… 6

Ⅳ、調査報告
1、第42次調査 …… 7
(1) 調査に至る経過 …… 7
(2) 基本層位 …… 7
(3) 検出遺構 …… 8
(4) 出土遺物 …… 22
(5) 調査まとめ …… 51
2、第43次調査 …… 68
(1) 調査に至る経過 …… 68
(2) 基本層位 …… 68
(3) 出土遺物 …… 68
(4) 調査まとめ …… 72

写真図版 …… 主な遺構および遺物写真

付録 …… CD（遺構および遺物写真）

# I、遺跡の位置と歴史

太宰府市は、北に四王寺山、北東に宝満山、南に脊振山地東端の天拝山に囲まれ、さながら盆地的な様相を示している。これらの山々が途切れている北西に福岡平野が、南東に筑後平野が広がっている。

二つの平野には弥生から古墳時代にかけての遺跡が多く存在し、その勢力に挟まれた太宰府には、弥生から古墳時代にかけての集落や古墳が造られるものの、大規模といえるものは少ない。

古代になると大宰府政庁が置かれ、政庁の博多側には水城跡の土塁が築造されたほか、大野城・基肄城・阿志岐城などの古代山城が周囲の山々に築造されるなど、いわゆる羅城を形成していたと考えられる。大宰府政庁の前面には、いわゆる大宰府条坊と呼ばれる都市が整備された。その規模は南北22条、東西12坊におよび、南辺部は筑紫野市まで広がっている。

今回の調査地である宝満山は大宰府政庁の北東に位置し、標高829mの山頂からは福岡平野や筑後平野を一望でき、遠く雲仙岳を望むこともできる。この山は信仰の山に相応しく美しい円錐形をしていて、古くは御笠山や竈門山とも呼称された。

宝満山が最初に登場するのは天智天皇の時代で、大宰府の鬼門除けのために宝満山頂に八百万神を祀ったといわれている（『竈門山旧記』）。天武2（673）年には僧心蓮が山中で修行中に玉依姫が示現し、これに感嘆した心蓮が奏聞し、上宮を建てたとしている（『竈門山宝満宮伝記』『竈門山旧記』）。7世紀代の遺物については内山下宮地区、東院谷や辛野地区などで確認されているが、その量は僅かである。

奈良時代になると、辛野地区や山頂南東斜面、大南窟など山中各所で祭祀遺物や製塩土器がまとまって出土し始める。特に山頂の屋下からは8～9世紀の皇朝銭や奈良三彩などの祭祀遺物が出土しており、遣唐使派遣の安全祈願などの国家的祭祀を行ったと推測される。その後も山頂付近での祭祀は出土遺物から12世紀まで行われたと考えられる。

平安時代になると、最澄が入唐する前年の延暦22（803）年に竈門山寺において、遣唐使の航海の無事を祈り、薬師仏を4躰造ったと伝えられている（『扶桑略記』『叡山大師伝』）。承平3（933）年には沙彌證覚が宝塔を建立し、現在その跡と推測される妙見祠礎石群が残されている（第34次調査）。その後も多くの高僧たちが訪れることとなり宝満山は最盛期を迎え、応徳2（1085）年には白河上皇が「竈門山大神の社は九州総鎮守」という綸旨を下している。鎌倉時代初めの『元亨釈書』にも「有智山寺は西州の大講肆也」といわれるほど勢力を持っていた。12世紀初頭の長治年間に、宝満山をめぐって石清水八幡宮と比叡山が争い、宝満山は比叡山の末山となった。鎌倉時代末頃には宝満山を金剛界、彦山を胎蔵界とする修験の霊場が確立したと考えられ、盛時には行者方70坊、衆徒方300坊、合わせて370坊あったといわれている。平安時代後期には山中で広く遺物の散布が確認され、竈門神社下宮のところには5×7間の大型礎石建物が造られている。内山・南谷・北谷地区の山麓部での発掘調査では、12世紀～14世紀の石組で区画された建物遺構（第29次調査）、礎石建物（第26次調査）など坊跡や石垣などが見つかっている。

南北朝期から戦国時代にかけては、宝満山にあった有智山城や宝満城が戦史に登場することとなる。建武3（1336）年、有智山城の留守を預かっていた少弐貞経が、菊池武敏らに攻められた際、山中の社殿や坊舎が悉く焼失している。天文21(1552)年に高橋鑑種が宝満城の城主になってから、天正14(1586)年に岩屋城の戦いで高橋紹運が敗れるまで、宝満山は戦乱の舞台となっている。これらの戦乱の中で、山中は荒れ果てていった。さらに、弘治3（1557）年には大友宗麟が有智山、中堂、原で検地を行い、堂舎は破壊され耕作地化することとなり、残った坊は内山・南谷・北谷の山麓から山中の西院谷や東院谷に移っている。16世紀末、小早川隆景によって講堂や鐘楼などの社殿が再建されたが、寛永18（1641）

年には焼失している。その後黒田長政や忠之らが神領の寄進や社殿の建立を行ったが、かつての勢いはなく、寛文5(1665)年には京都聖護院の末山となった。盛時には行者方70坊、衆徒方300坊あった坊も、寛永の頃には衆徒方も2坊にみとなり、結局行者方25坊のみが残り、俗に「宝満二十五坊」といわれる山伏となり、明治を迎えることとなる。明治になると神仏分離令や廃仏毀釈、修験道の廃止などにより、山中の堂塔や仏像など仏教色の強いものは悉く廃され、山伏たちは下山することとなった。現在では内山九重原に有智山城跡があり、山中には16世紀以降の坊跡や墓地、廃仏毀釈で破壊された石造物を見ることができる。

なお、最澄が訪れた寺院は「竈門山寺」と記され、平安時代後期から鎌倉時代にかけての文献には「大山寺」が用いられ、12世紀以降になると「有智山寺」の名もみられ、南北朝以降は専ら「有智山寺」が用いられている。

参考文献


太宰府市『太宰府市史　考古資料編』1992

太宰府市教委『宝満山遺跡群4』2005

太宰府市教委『宝満山遺跡群5』2006

太宰府市教委『宝満山遺跡群6』2010

森弘子『宝満山歴史散歩』葦書房　2000

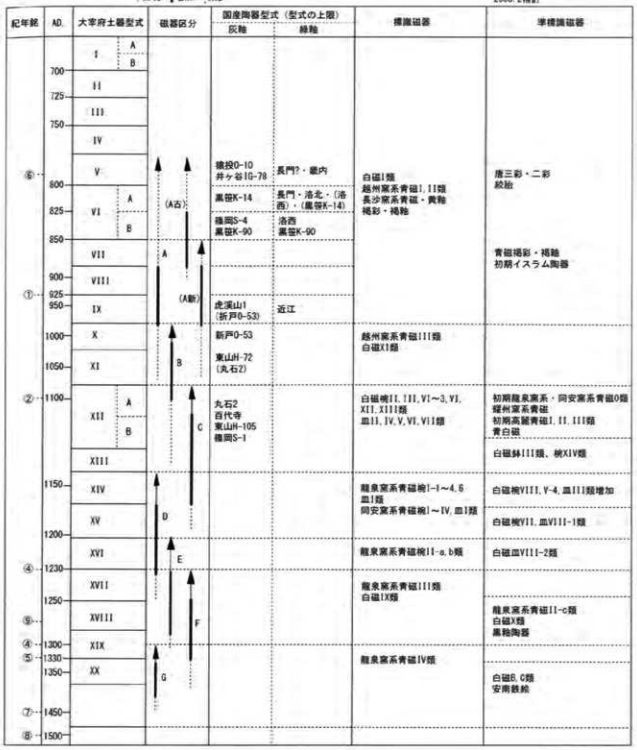
森弘子「大宰府の鎮山　宝満山」『都府楼39号』(財)古都大宰府保存協会　2007

山村信榮「発掘調査からみた宝満山について」『都府楼39号』(財)古都大宰府保存協会　2007




↑出現 ▌増加 ↓減少

2000.2補訂




紀年銘資料

①A.D.927　延長5年, 大宰府74次SD205A溝
②A.D.1091　寛治5年, 平安京左京4条1坊SE8井戸
③A.D.1224　貞応3年, 大宰府33次SD605溝
④A.D.1304　嘉元2年, 大宰府109, 111次SD3200溝
⑤A.D.1330　元徳2年, 大宰府45次SX1200池
⑥A.D.784　延暦3年, 長岡京102次SD10201溝
⑦A.D.1459・1465　長禄3・寛正5年, 福岡市井相田C11・SG16池
⑧A.D.1501　文亀元年, 大宰府70次SD1805溝
⑨A.D.1265　文永2年, 博多62次713土壙

文献


①九州歴史資料館　「大宰府史跡昭和56年度発掘調査概報」1982
②鋤柊昭三・吉川義彦「平安京跡発掘調査報告左京四条一坊」1975 平安京調査会
③九州歴史資料館「大宰府史跡昭和49年度発掘調査概報」1975
④九州歴史資料館「大宰府史跡昭和63年度発掘調査概報」1989
⑤九州歴史資料館「大宰府史跡昭和52年度発掘調査概報」1978
⑥長岡京市埋蔵文化財センター「長岡京市埋蔵文化財調査報告書第1集」1988
⑦福岡市教育委員会「井相田C遺跡II」「福岡市埋蔵文化財調査報告書179」1988
⑧九州歴史資料館「大宰府史跡昭和56年度発掘調査概報」1982
⑨福岡市教育委員会「博多48」「福岡市埋蔵文化財調査報告書307」1995


Fig.1　大宰府貿易陶磁編年

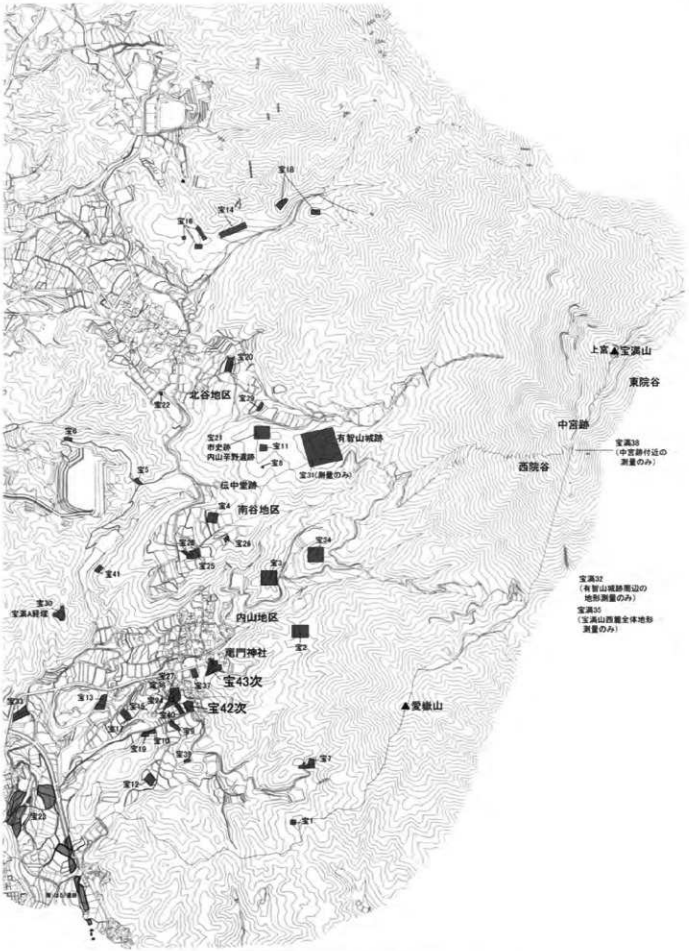



Fig. 2　宝満山遺跡群調査地位置図（1/15000）



## Ⅱ、調査体制

（平成 21 ／ 2009 年度）・・・第 42 次調査

| | | |
|---|---|---|
| 総括 | 教育長 | 關　敏治 |
| 庶務 | 教育部長 | 山田純裕 |
| | 文化財課長 | 井上　均 |
| | 保護活用係長 | 菊武良一 |
| | 調査係長 | 池本義彦 |
| | 主任主査 | 吉原慎一 |
| | 事務主査 | 橋川史典 |
| 調査 | 主任主査 | 城戸康利（都市整備課併任） |
| | | 山村信榮 |
| | | 中島恒次郎 |
| | | 井上信正 |
| | 技術主査 | 高橋　学 |
| | | 宮崎亮一（調査担当） |
| | 技師 | 遠藤　茜 |
| | 技師（嘱託） | 白石渓冴 |

（平成 23 ／ 2011 年度）・・・第 43 次調査

| | | |
|---|---|---|
| 総括 | 教育長 | 關　敏治 |
| 庶務 | 教育部長 | 齋藤廣之 |
| | 文化財課長 | 井上　均 |
| | 保護活用係長 | 菊武良一 |
| | 調査係長 | 池本義彦 |
| | 主任主査 | 橋川史典 |
| | 主事 | 古川あや |
| 調査 | 主任主査 | 山村信榮（調査担当） |
| | | 中島恒次郎 |
| | | 井上信正 |
| | 技術主査 | 高橋　学 |
| | | 宮崎亮一 |
| | 技師 | 遠藤　茜 |
| | 技師（嘱託） | 白石渓冴 |
| | 事務取扱 | 城戸康利（景観・歴史のまち推進係長・文化財課併任） |

（平成 24 ／ 2012 年度）・・・報告書発行

| | | |
|---|---|---|
| 総括 | 教育長 | 關　敏治 |
| 庶務 | 教育部長 | 古野洋敏 |
| | 文化財課長 | 井上　均（～ 6 月 30 日） |

| | | |
|---|---|---|
| | | 菊武良一（7月1日～） |
| | 文化財副課長 | 城戸康利（7月1日～） |
| | 保護活用係長 | 菊武良一（～6月30日） |
| | | 友添浩一（7月1日～） |
| | 調査係長 | 山村信榮 |
| | 事務主査 | 橋川史典 |
| | 主事 | 古川あや |
| 調査 | 主任主査 | 中島恒次郎（～6月30日） |
| | | 井上信正 |
| | 技術主査 | 髙橋　学 |
| | | 宮崎亮一 |
| | 主任技師 | 遠藤　茜 |
| | 事務取扱 | 中島恒次郎（景観・歴史のまち推進係長・文化財課併任）（7月1日～） |

なお、調査に際して、次の方々から有益なご教示を得た。記して感謝いたします。（順不同・敬省略）
小田富士雄（福岡大学名誉教授）、森弘子（福岡県文化財保護審議会専門委員）、宮本雅明（故人．都市・建築遺産保存支援機構理事長）、河上信行（河上信行建築事務所）、吉田東明（福岡県文化財保護課）、江上智恵（久山町教委）

## Ⅲ、調査および整理方法

調査および整理方法については、『佐野地区遺跡群 I』（太宰府市の文化財第 14 集　1989）、『太宰府市における理蔵文化財調査指針』（太宰府市教育委員会 2001 年 9 月改訂）に基づいている。

第 42 次調査では、表土剥ぎはバックホーによって行い、調査後は真砂土で埋め戻している。遺構図や土層図は適時 1/20 等で記録し、遺構全体図は人力によって 1/20 の縮尺で実測を行い、整理段階でデジタルトレースを行った。

第 43 次調査では、バックホーによる試掘調査や工事立会調査を中心に行い、関係文化財の実測調査や資料調査を行った。

整理報告に際し、国内からの搬入品については形状が確認できるものは極力報告することに努めたが、整理報告作業の効率化と報告書のスリム化のため、規格性が強い輸入陶磁器については『太宰府条坊跡 XV －陶磁器分類－』を基に分類し、出土遺物一覧表に分類と破片数を掲載したのみで、実測作業は基本的に行っていない。しかし、未分類のものや稀な陶磁器などについては実測し報告している。よって、遺構時期の検証については、出土遺物一覧表も同時に確認して頂きたい。

これらの調査で得られた出土遺物や実測図は太宰府市文化ふれあい館に保管している。



## Ⅳ、調査報告

### 1、第 42 次調査

#### (1) 調査に至る経過

調査地は太宰府市大字内山字大門 919-1、920-1、1642-2 の一部で、宝満山の南西麓にある竈門神社の南方 150m に位置する。この土地については、前地権者の楠林家に昔お堂があったという伝承が残り、昭和 50 年代までは礎石が露出していたというが、その話も想像できない程の穏やかな田園風景となっており、その話も風化しつつある状況であった。

確認調査は平成 21（2009）年 5 月 7 日に実施し、耕作土直下で遺構が確認された。工事計画と照らし合わせ検討したところ遺構の削平は免れないと分かったため、本調査を実施することとなった。調査は平成 22（2010）年 4 月 8 日～7 月 31 日に実施した。調査は宮崎亮一が担当した。開発対象面積は 980m$^2$、調査面積は 877m$^2$ である。

調査進行する中、基壇や礎石が検出され、遺構の重要性が増してきたため、6 月 21 日地権者である木本国雄氏と保存についての協議がもたれ、6 月 24 日に木本国雄氏から保存の意向が示された。6 月 25 日に文化庁近江俊秀調査官が現場を視察、重要な遺跡であるとの認識を示された。7 月 13 日井上保廣市長に保存処置について説明し快諾される。7 月 16 日にはマスコミ発表、翌日記事が掲載される。7 月 19 日に現地説明会を実施し、猛暑の中約 80 名の参加があった。

調査は基壇を伴う礎石建物の検出面で終了し、それより下位については、一部トレンチを設定したのみで、ほとんど調査は行っていない。また、埋め戻しについては、全面真砂土を搬入し、遺構面からおよそ 20 ～ 30cm 前後の厚さで覆い遺構を保護した。その後は地権者の意向に沿う形で、行政による遺構保存が確定するまでの間、遺構に影響ない形での利用が行われている。

#### (2) 基本層位

調査直前まで調査区は 3 段の田圃が残され、周辺住民や元地権者によると、この地形は昭和以降変わ

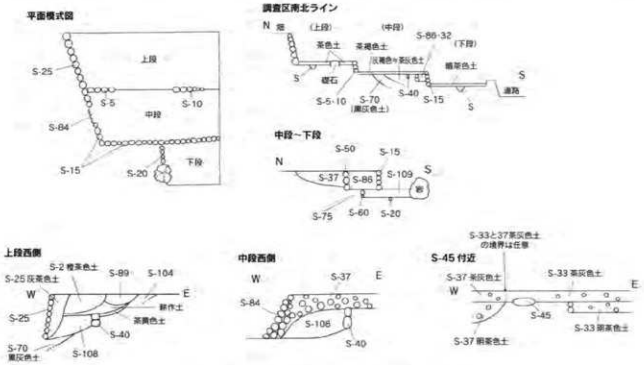



Fig. 3　第 42 次調査区および土層模式図

らないという。耕作土は調査前に地権者によって除去されていたが、上段・中段の遺構面は共に厚さ0.3mの耕作土直下に存在するという極めて浅い状況であった。下段については0.7m前後とやや深い位置に遺構面が確認された。上段の田圃では、むかし大石が露出していたため、4個ほど動かしたという。1個は南側の法面に置き、他は西側の枇杷の木の所に動かしたといわれ、法面に置かれた大石は現在も残っていた。太宰府顕彰会刊行の『宝満山及び竈門神社周辺の遺跡分布調査報告書』でも礎石が2基あったことが報告されている。

また、石垣の近くは田圃の水が抜けて陥没することがあったため、その穴にビニールシートなどを入れ込んで塞いだことがあったらしい。それを物語るように表土めくりではテントのシートやビニールが出てきた。それだけ隙間があり流れ込みや陥没が起こる地盤状況であったということは、現代物が流れ込むことは容易であったということであり、遺物が年代決定の直接的な証拠とは必ずしもなり得ないということを感じた。

遺構面の基盤層は、土地の形状通り、北東から南西方向に向かう堆積状況が確認でき、北東端に近いほど遺構面に地山が露出している状況であった。地盤堆積層で現在確認できる最も古い土層は、9世紀中頃前後の炭混じりの堆積層（SX070）である。地山は礫混じりの茶褐色土で安定しているが、この礫混じりの地山が調査全般にわたって、自然か人為的かで判断を惑わす結果となった。

### (3) 検出遺構

**建物関連遺構**

**建物**

**42SB001**（Fig.5・6、巻頭図版）

上段で検出された礎石建物跡である。原位置を保っている礎石は3基のみである。それ以外は礎石抜き取り痕であった。礎石は大きさ0.6～1m前後で、上面には明確な柱座などはないが、全体的に上面は平坦面を造り出しているようで、礎石dに関しては、上面中央に径18cm前後の僅かな窪みがある。礎石下には根石が僅かに確認できたが、遺構検出面には殆んど露出していなかった。礎石抜き取り痕については、埋土に現代の遺物が見られたため、当初は撹乱とみていたが、この撹乱坑が礎石と等間隔で並んでいたことと、元地権者が田畑の耕作面から頭を出していた礎石4個ほどを、重機で除去したという話から、この撹乱坑は礎石の抜き取り痕と推測した。よって、埋土に現代物が混入するのは当然ということになる。礎石抜き取り痕については、大きさ1m前後、深さは0.1～0.4m程の土坑で、掘り込みの浅いもの（b・c・e）については、その中で検出した礫が根石であろうことは明らかであったが、深いもの（f・m）は、掘り方周囲は礫が比較的多く集まり根石のように見えるが、地山が礫層であることから、この抜き取り痕がどれだけ撹乱されずに当時の痕跡を残しているのかは確証が得にくい状況であった。また、礎石や礎石抜き取り痕がその溝状土坑の埋土上に載っているもしくは掘り込んでいる状態である。これは建物の建て替えの際に礎石を掘り返したものと推測している。よって、建て替え前の建物については同規模の可能性が高い。

以上のように上段で検出された礎石や抜き取り痕跡で推測される建物跡は、西側と南側が耕地造成により削平されているが、身舎は桁行3間（12.3m前後）×梁行2間（6.4m前後）と推測される。現存礎石dとjの間に礎石があった痕跡がないため中央に柱はなく、桁行の柱間は約4.1m、梁行の柱間は約3.2mとやや広い柱間を有していたと推測される。また、身舎の周囲には礎石抜き取り痕のような浅い土坑と集石などが5ヶ所確認されたため庇が巡っていたと考えられる。しかし、南側と西側が削平されているため遺構として確認できるのは東側と北側のみである。これら遺構状況から考えた場合、建物規

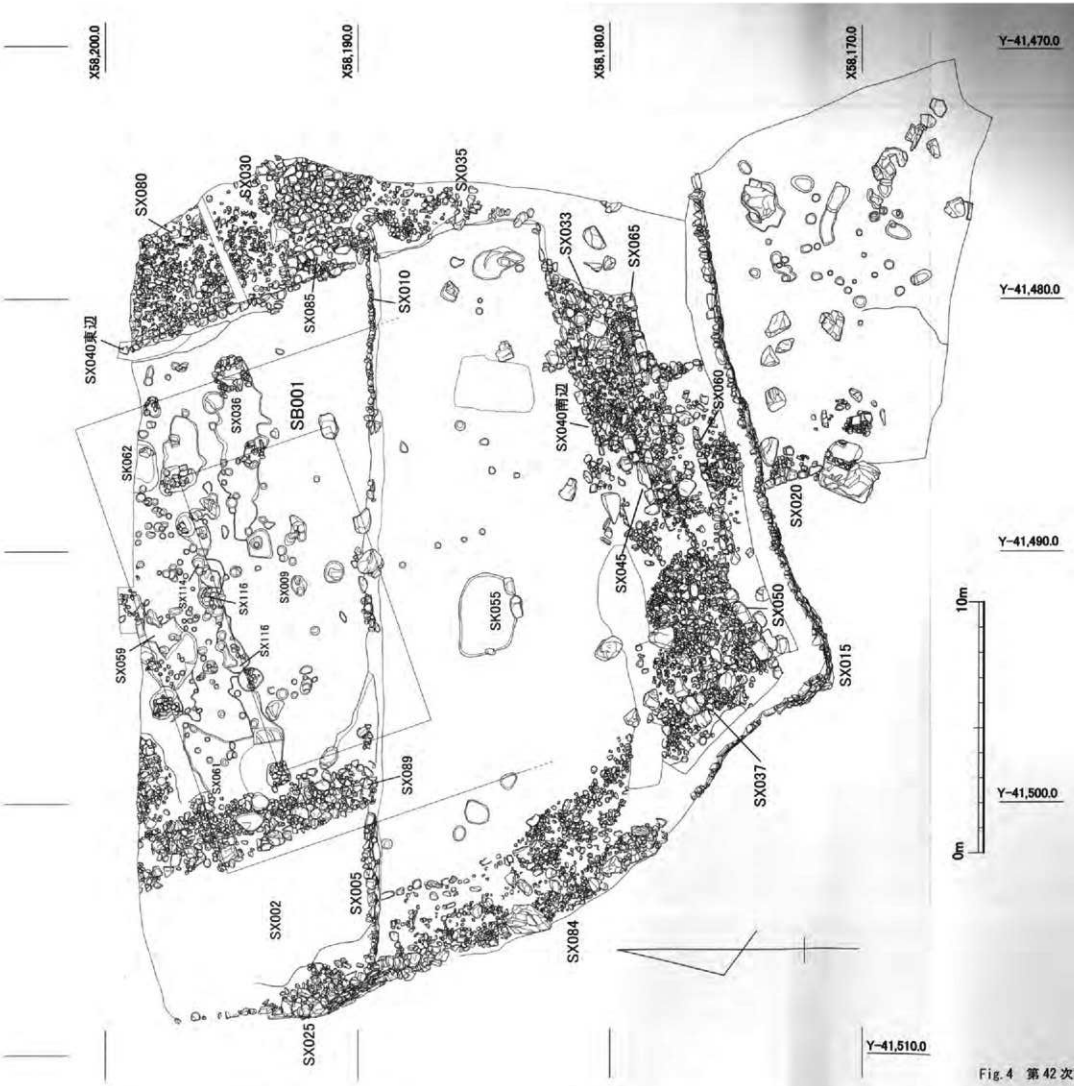



Fig.4 第42次調査（第1面）遺構全体図（1/150）

模は東西5間（18.7m前後）、南北4間以上と推測される。北西側の庇の礎石抜き取り痕（SB001s）については、SX089の礫敷に根石が混ざっていたことに調査中気付かず除去してしまい、現在は掘り方のみを残している。

また、建物南側の中段では大石が2個（S-119a・b）残されている。身舎と石段との間に10m程の空間があることから、身舎の南側正面に礼堂のような建物が取り付いていた可能性が考えられる。しかし、大石の周囲を精査したものの、根石や掘り方のようなものは確認できなかった。また、身舎の礎石の上面レベルより約0.8m低い位置に大石がある。SX035の状況から基壇の石列は存在したことは間違いないだろうから、基壇が一様に上段と同レベルだったとすると大石は完全に埋もれてしまう。少なく見積もって基壇の石積みが1段だったとしても、大石はほとんど埋もれてしまう。このことから、この大石を礎石とするのはかなり難しい。逆に0.8m前後の落差があるということは、南側に礼堂など建物が続いていた場合、それらの礎石や根石などは削平され、消失した可能性が十分考えられるということになる。

そして、建物の屋根については、瓦葺かそれ以外の有機物を用いたもの（板葺、柿葺、檜皮葺など）かについてであるが、表4のとおり、調査区全体で総重量582kgの瓦が出土した。丸瓦・平瓦での分類を行っていないが、丸瓦（2kg）で約291枚、平瓦（3kg）で約194枚に相当する量である。その内容は横長斜格子叩きの出土が多いが、縄目叩きも比較的多いことがわかる。また、劣化が目立ち叩き目不明の瓦が全体の46.9%を占めている。現存礎石の建物をSX030埋没以降のものと推測している現段階では、SX030・035から全体の約53%の瓦が出土していることを考えると、現存礎石の建物については、一部瓦葺という可能性はあるにしても、完全な瓦葺ではなかったとするのが妥当である。これらの瓦は、建て替え前の建物に葺かれていたものか、瓦の劣化具合から、上方の建物の瓦などが流出し堆積したものである可能性が考えられる。

**基壇**

**42SX040**（Fig.5・7・8・巻頭図版）

礎石建物（SB001）を囲むように検出された石積みで、北側こそ調査区外となるが、それ以外の東・南・西側で確認され、現状でコ字形を示している。南西隅は17世紀に大量の礫を投じた整地によって分断されている。

基壇の規模は東西24.3m、南北22m以上で、基壇の石積みには、長さ0.3～0.5m、高さ0.2m程の花崗岩礫を使用し、現状では3辺とも1～2段分（高さ40cm前後）が残っている。西辺の基壇設置レベルが東辺より0.4m低いことや現存する礎石の高さなどから考え合わせると、当初基壇の高さは西側と南側で約6段分（1m前後）、東側で約4段分（高さ0.6m前後）ほどであったと推測される。西辺については石積みが崩落したような痕跡は確認できなかったが、東辺ではSX030内に基壇と同様の礫が埋没している状況が確認された。また、基壇の正面と両側面それぞれに階段状の石列（42SX045・85・90）が検出されている。このことについては後述する。

西側の石列付近で、炭混じりの堆積層（SX070）が確認され、その直上に石列が造られている。この堆積層から出土する遺物は9世紀中頃前後のものである。また、北側は畑地の高石垣で埋没しているが、遺構は残っているものと推測される。

**階段状遺構**

**42SX045**（Fig.8）

基壇（SX040）の南辺の中間に横長の花崗岩礫が並んで検出されたため、基壇に伴う石段と考えられ、その位置からも正面の階段と考えられる。西側を近世～近代の削平を受けているが、幅は約4.3mで、

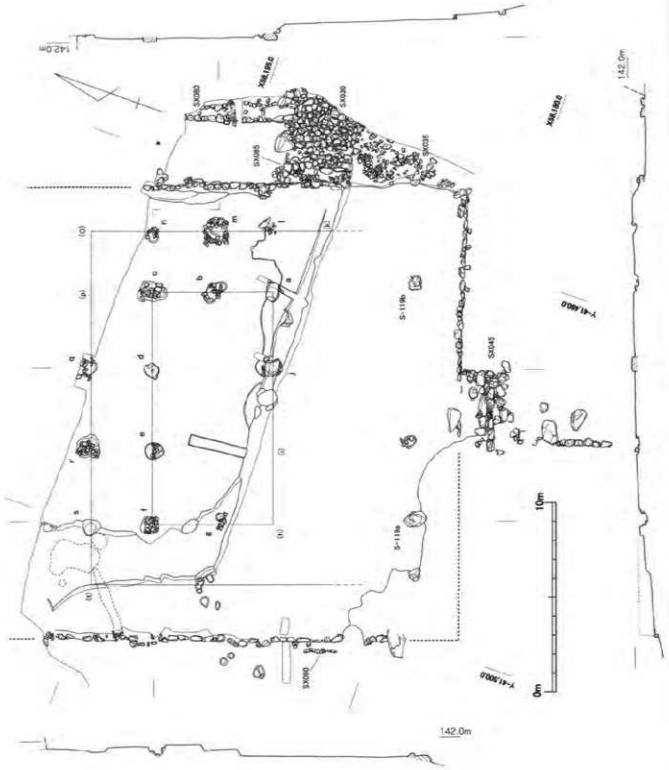



Fig.5　第42次調査第2面（42SB001）遺構実測図（1/200）



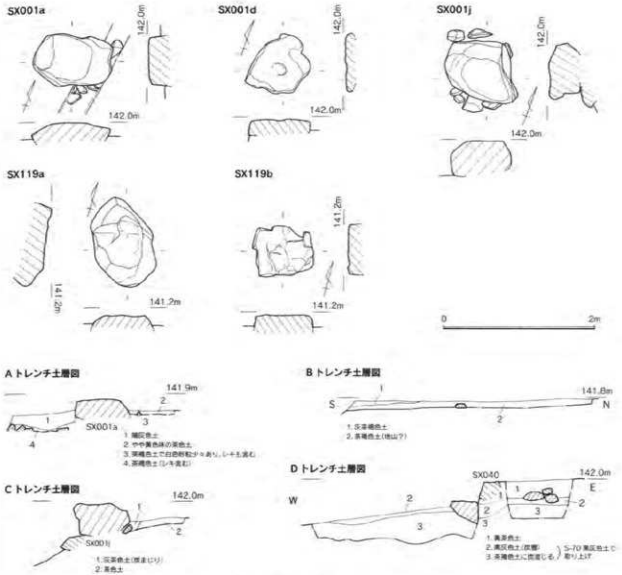



Fig.6　42SB001 礎石およびトレンチ土層実測図（1/50）

現存する高さは約0.4mで、確実なものとして2段分は確認できる。不安定要素ではあるが、残存している大石の状況から、さらに南側に2段程石段があった可能性が考えられる。また、最上段の石列東端と基壇との間には、0.2～0.3mほどの礫を並べる。石段と平行して基壇の石列も確認できるため、基壇の施工後に石段が施工されたと考えられる。ちなみに石段上面と現存礎石周囲の地盤との高低差は約0.8mである。

その石段南側付近には同じような大きな礫が多く検出された。これらは安定していなかったことと、SX050やSX065の延長上にあたるため、近世以降の改変で石段の大石が移動された可能性が高い。

**42SX085**（Fig.9・10）

基壇（SX040）の東辺にあるSX030の石敷に埋もれて、基壇から1m程離れたところに平行する石列がある。石列の長さは3.65mで、他の石敷に一列に並べたものがなく、明らかに異なる敷き方から基壇に伴う石段と推測した。現状では1段分が明確だが、この上面にも礫が部分的に残っており、数段あった可能性がある。また、後述するようにSX030の石敷は2層あり、下層の石敷が石段のちょうど下位にあるため、同一時期の可能性が考えられる。

**42SX090**（Fig.7）

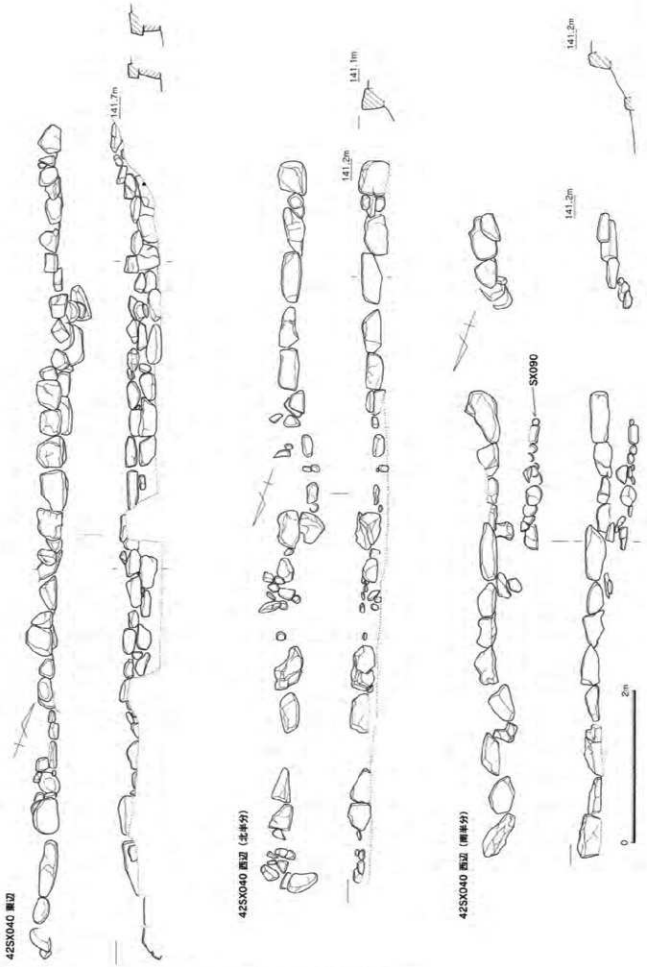



Fig. 7　42SX040 遺構実測図（1/50）



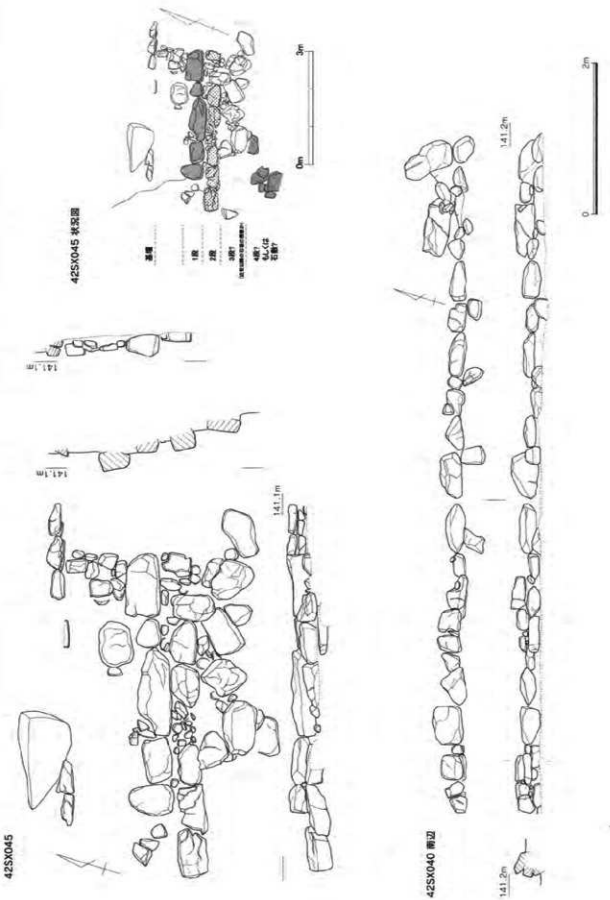



Fig. 8　42SX040・045 遺構実測図（1/50）

基壇（SX040）の西辺に沿って、0.5mほど離れた所に、礫が長さ1.7m程並んでいる。礫の大きさは0.1～0.3mとバラツキがあり、石段であったとすればその残骸となるが、これだけでは明確に石段とは言い難い。しかし、対面の東側にSX085があることから、石段は可能性のひとつと考えたい。

**基壇東側の遺構**

**42SX030・035**（Fig.9・10）

基壇（SX040）の上段部の東側で検出した一段低い土地と石敷をSX030とし、SX030南側の中段で検出した礫群をSX035として調査した。現況が耕地の段差で高低差があるが、平面的には基壇の東側に直線的に続いているため同一遺構と考えた。SX030は幅3.4m、長さ4.8m以上の規模で、表土を除去した段階では、水気の多い灰色の粘質土が広がっている状況であった。これらの埋土を掘り下げると礫が検出されたが、南北で礫の状況に違いが確認された。

北半分は灰色粘土に混じって、大きさ0.1～0.2m程の礫が広がっていて、それに混じって多量の土師器片が出土した。この礫群に人為性は見出せず、自然に堆積したものと考えた。基壇に近い所では0.3mを越える礫が検出され、基壇の石列が転落したものであることは明確であった。

南半分は大きさ0.3～0.5m程の花崗岩礫を使用した石敷である。検出時上面には灰色砂質土が覆っていた。石敷は南側の段差部分の観察から2層になっていることが分かる。上層は南北3.1m、下層まで含めると南北3.8mあり、さらに南側はちょうど耕地の段差で途切れているように見えるが、すぐ下のSX035に瓦敷がある状況から、石敷の範囲は、残存範囲に近いものと推測される。石敷の下層がどのように展開するかは、上層を残しているため不明であるが、東端に並ぶSX080の石列と同レベルにあるため、それと繋がっているものと推測される。前述したように石段と推測されるSX085と下層の石敷は同時期の可能性が考えられるため、下層の石敷は基壇が造られた初期のものと推測される。同じ場所に石敷を造っていることから、石敷のかさ上げを行ったと推測される。この石敷の西側では一列に並ぶ石列が2列混ざっている。これは基壇側が石段（SX085）と考えられることは前述したとおりで、その東側に並ぶもうひとつの石列とはおよそ0.75mの間隙があるため、北側の水が抜ける水路をなしていた可能性も考えられる。

SX035では礫は散在していたが、目立った石敷は検出されなかったが、一部平瓦が敷かれている部分があった。SX030の石敷下層のレベルより瓦敷が0.2m程低いため、元々SX030のような石敷はなかった可能性が高く、礫群はSX030北側と同様に転落堆積したものと考えられる。SX035は基壇南辺部まで続いているが、南端付近の切り合いは不明瞭で、作業上基壇屈曲部までとし、それより南はSX032として分けた。

**42SX080**（Fig.9）

SX030の底面で検出された2列に並んだ石列。石列の幅は0.8～1.2mと一定の幅ではない。北側は調査区外に続いていく。石材はそれぞれ外側に面を合わせているようで溝とは考えがたい。しかし、溝間の埋土は暗灰色粘土で埋没時の堆積土のようでもあった。年代は不明だが石列間に樹木の根があり、埋土に木質が多くみられたことから、花壇のような植栽帯のようなものも可能性のひとつであるが、現状では不明と言わざるを得ない。

**石垣（石積み）**

**42SX005**（Fig.11）

上段の耕作地南側法面の西側に造られた石垣で、検出長5.8m、高さ0.8m前後である。下部に0.6m前後の大石を据え、その上に0.3m前後の礫を用いている。施工範囲がSX002橙茶色土の範囲のみに限られているため、その整地の際に築いたものと推測される。



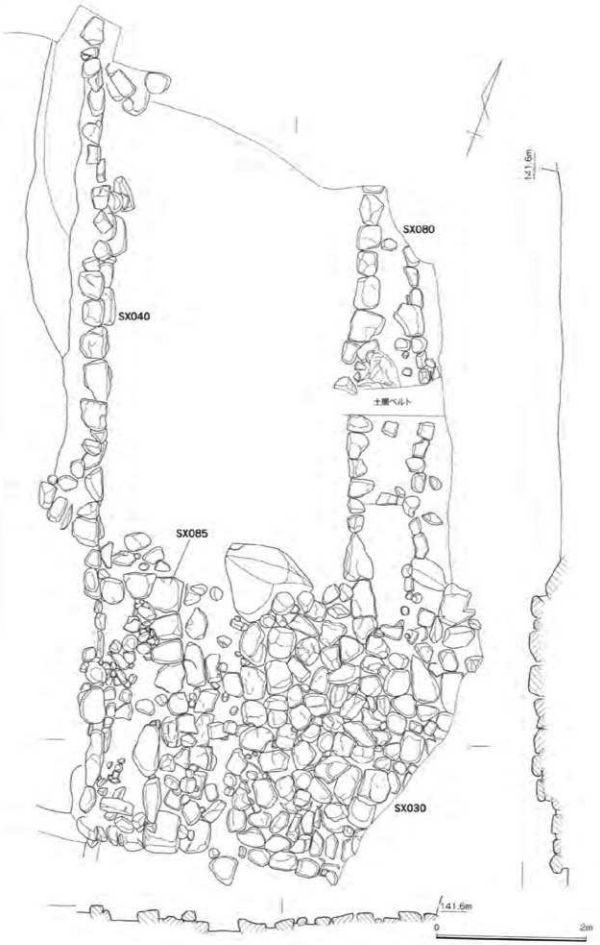



Fig.9　42SX030・080・085遺構実測図（1/50）

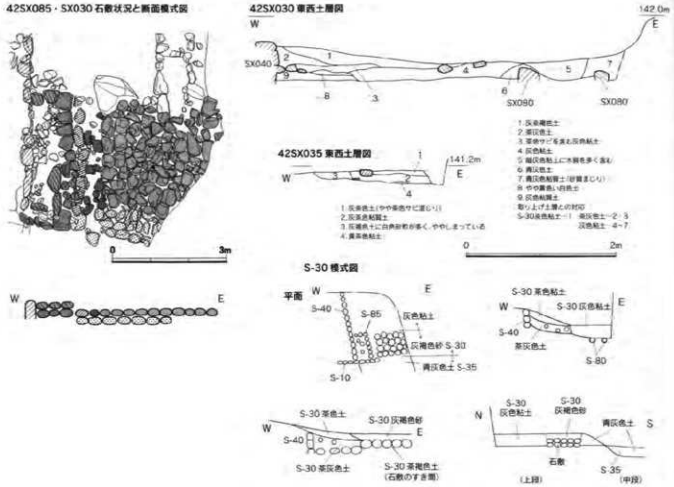



Fig. 10　42SX030・035 土層図（1/50）および模式図

**42SX010**（Fig. 11）

上段の耕作地南側法面の東側に造られた石垣である。検出長 8.7m、高さ 0.4m 前後であるが、石垣の下端と中段面とのレベル差が 0.4m 前後あり、現状では石垣が浮いた状態になっている。これは中段面の耕作土上に造られたもの、もしくは石垣構築後に中段面が削平されたことによるものであろう。SX005 に比べ使用している礫が小さく雑に積まれていることや設置レベルの違いなどを考えると SX005 と時期差があり、SX005 より新しく積まれた可能性が高い。

**42SX015**（Fig. 11）

中段の耕作地の南側と西側に造られている石垣で、全体的にやや蛇行している。南側は長さ 20.5m、高さ 0.8m 前後で、西側 5m 程は南接する田圃がさらに下段面より低いため高さが 1.2m 程ある。西側は南側の石垣が L 字状に屈曲した続きで、西隣の 2 枚の田圃を分けている畦畔部分で途切れている。長さ 7.2m、高さは 1.2m 前後で、部分的に礫が抜け落ちている。

**42SX025**（Fig. 11）

上段の耕作地西側にあり、SX002 の整地と一緒に造られた石垣である。検出長は約 10m、高さは 1.8m だが、石垣西側がスロープになって北側ほど石垣が埋まっているため石垣がどう続くかは不明瞭である。南側については、SX084 の礫露出部分が続いていて、それとの境がやや不明瞭となっている。また、中段面にかかった部分で一部石垣が追加され、かさ上げされている部分がある。

**42SX050**（Fig. 12）



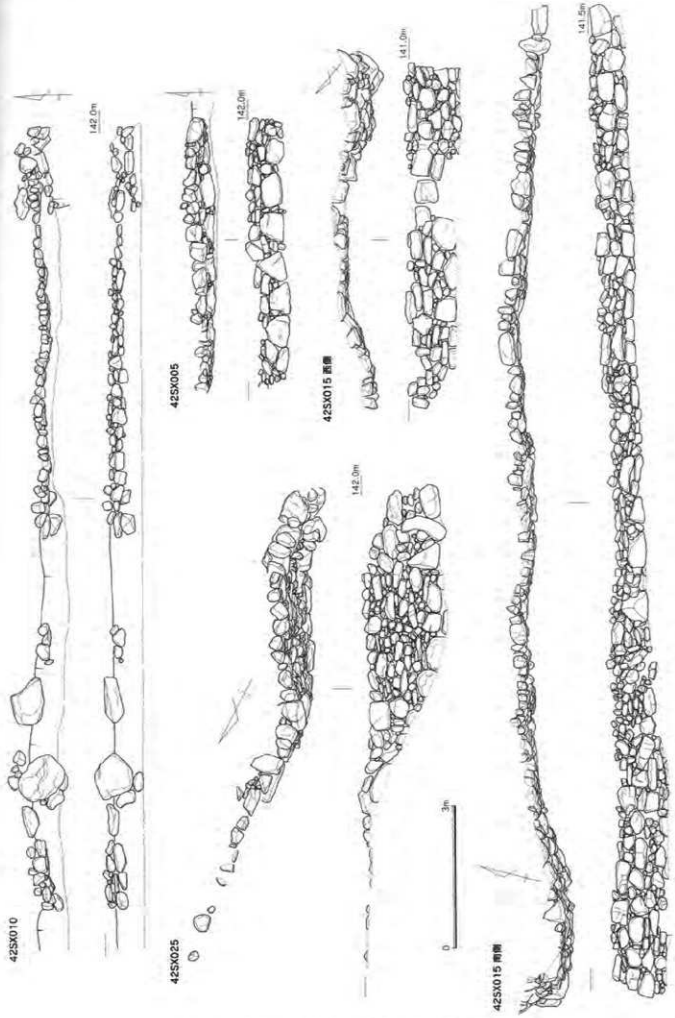



Fig. 11　42SX005・010・015・025 遺構実測図（1/80）

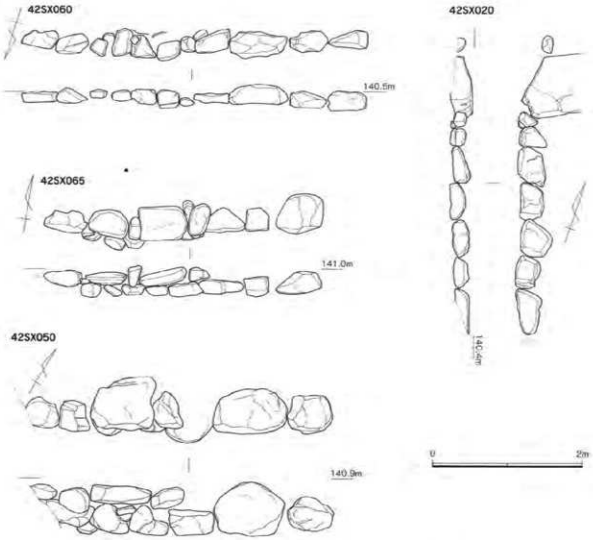



Fig. 12　42SX020・050・060・065 遺構実測図（1/50）

中段南西側で検出された東西方向に積まれた南面する石垣で、SX037 の整地に伴う石垣と推測される。他の石垣に比べ、0.5m を超える大きな石が用いられ、積み方も異なっている。検出長は 4.1m、高さ 0.7m 前後で、2 段分が残っている。石垣背後には大小様々な礫（SX037）が検出された。また、東側の石垣が途切れた付近には黄茶色土混じりの灰茶色土の堆積層が確認され、SX050 の上面にもその堆積層が僅かに確認された。この堆積層からは近代以降の遺物が出土することから、その頃に破壊・埋没したものと考えられる。

**42SX065**（Fig. 12）

検出長は 3.7m、高さは 0.3m 前後で、2 段分が残っている。SX050 の延長上に位置するため同一遺構の可能性も考えられるが、使用する礫の大きさや石の積み方が異なるため、明確に言い切れない。また、基壇南辺と平行しているが、その間には大小様々な礫層（SX033）があり、17 世紀の遺物が含まれているが、前面からも同時期の遺物が出土している。

**石列**

**42SX020**（Fig. 12）

下段で検出した石列で、方位は南北方向を示し、西側に面を合わせている。北側については SX015 の



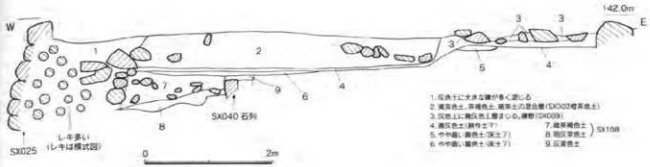



Fig. 13　42SX002・089 土層実測図（1/60）

石垣の下から検出され、SX060 まで検出されなかったが、レベル的にそれより低い位置に造られている。南側は巨石までであり、検出長は 2.95m、高さは約 0.2m で、礫 1 段分しか検出されなかった。この石列の北側延長上には SX045 の石段があり、石列のやや南側で石敷のような礫群が検出されたため、通路の西屑であった可能性も考えられる。しかし、現代耕作地の段差の位置に近いため、耕作地の石垣の一部である可能性も残している。

**42SX060**（Fig. 12）

SX045 の南側で検出された東西方向の石列で、検出長は 4.6m、高さは 0.2m 前後で、礫 1 段分しか検出されなかった。築造当初これ以上の規模であったかどうかについては不明瞭である。よって、この石列の性格が分かりづらいが、北側に石の面を合わせ、その前面には砂層が堆積していることから、SX050 や SX065 と対応する田圃の石垣の一部もしくは水路の一部である可能性が考えられる。

**整地層**

**42SX002・089**（Fig. 13）

上段西側の耕作化の際の整地層であるが、SX002 の南側のみに石垣（SX005）が造られていることや SX089 が礫を敷き詰めていることから、SX002 と SX089 とでは時期差があることは明瞭で、SX089 の方が古いと考えられる。

建物廃絶後に SB001f 近くまで削平され、耕作地として利用されていたが、その後幅約 2m 前後で礫を敷き詰め整地している（SX089）。SX089 の南側が中段との段差で途切れている状況から、礫敷（SX089）を行った当初、中段面は一部もしくは全て上段面と同じレベルだったことを物語っている。推測の域を出ないが、礫敷（SX089）を行った当時、身舎があった範囲については上段と同じレベルで礎石も含め残っていたのではないだろうか。しかし、礫敷の行為が何を意味するのかは明確でない。これらの整地については調査で除去し現存していない。

SX002 については、その下位で SX040 西辺石列直上に田圃の床土（黄色土）と耕作土（灰色土）が検出された。耕作土の残り具合が少なかったことから、SX002 の整地前に耕作土を一旦剥ぎ取り、整地したものと推測される。

**42SX033・037**

中段の西側と南側に広がる礫層で、大小様々の多量の礫が検出されたが、大きさ 0.5m を越えるものも多く、その中には 1m 程の大石もあった。基壇（SX040）を分断していたことと礫に混じる遺物から 17 世紀前半に行われた整地と推測した。整地の深さに関して、完掘していないため不明である。これらの整地が田圃としては良好でなかったことが、水が抜け陥没することがあったという元地権者の話が物語っている。SX045 のすぐ西側の一部で集中して近代の遺物が出土するところがある。これは SX037 で取り上げたものの、その後の改変時か耕作時に生じた陥没を埋めたものと推測される。

(4) 出土遺物

**建物**

**42SB001c 出土遺物** (Fig. 14)

瓦類

丸瓦 (1) 格子叩 I-C-b に「介」の文字瓦。焼成良好で灰白色や茶褐色を呈する。

**建物周辺遺構**

**42SX018 出土遺物** (Fig. 14)

瓦類

平瓦 (2) 格子叩 I-A-a。

丸瓦 (3、4) 2点とも格子叩 I-C-b。

鬼瓦 (5) 口元の側面部で、上歯牙や周囲に径 1.7cm の珠文が残る。口元横のシワに混じって径 1.3cm 程の珠文が並んでいる。胎土は 0.3 cm 以下の白色砂粒や微細な茶色粒を多く含み、表面は暗灰色、断面は淡黄灰白色を呈する。側面や背面の調整は摩滅し不明瞭。

**42SX018 灰茶色土出土遺物** (Fig. 14)

龍泉窯系青磁

椀 (6) 淡緑灰色釉を厚く施し、外面には細く文様を描く。IV 類。

瓦類

瓦玉 (7) 大きさは 2.8 × 2.75cm、厚さ 2.25cm。

**42SX063 出土遺物** (Fig. 14)

瓦類

平瓦 (8、9) 8 は格子叩 I-C-a。凹面は布目痕が残る。胎土は黒色粒を多く含み、淡灰色を呈する。9 は格子叩 I-C-b。胎土は白色砂粒や黒色粒を含み、淡灰色を呈する。

**42SX009 出土遺物** (Fig. 14)

土師器

小皿 a (10 ～ 14) 口径 5.9 ～ 6.9cm、器高 1.1 ～ 1.3cm、底径 4.05 ～ 4.95cm。底部切り離しは回転糸切り。10 以外は口縁端部に煤が付着している。焼成良好で色調は淡黄橙色や黄白色を呈する。

**42SX036 出土遺物** (Fig. 14)

土師質土器

鉢 (15) 内面にヨコハケ、外面は指頭圧痕とナナメハケが残る。胎土は微細な砂粒を含み、灰色や褐灰色を呈する。

瓦類

平瓦 (16) 格子叩 I-C-a。側面には分割の切り込みと切断面が残る。

丸瓦(17、18) 2点とも格子叩 I-C-a。17 は凹面に模骨痕が残る。18 は胎土に炭化物を非常に多く含む。「介」の文字瓦。

**42SX059 出土遺物** (Fig. 14)

土師器

小皿 a (19) 復元口径 8.0cm、器高 1.1cm、復元底径 7.0cm。調整等は摩滅し不明。

小皿 c (20) ハ字形に開いた高台を貼付する。復元口径 9.0cm、器高 2.85cm、高台径 8.4cm。胎土は 0.3cm 以下の白色砂粒を含み、淡橙色を呈する。



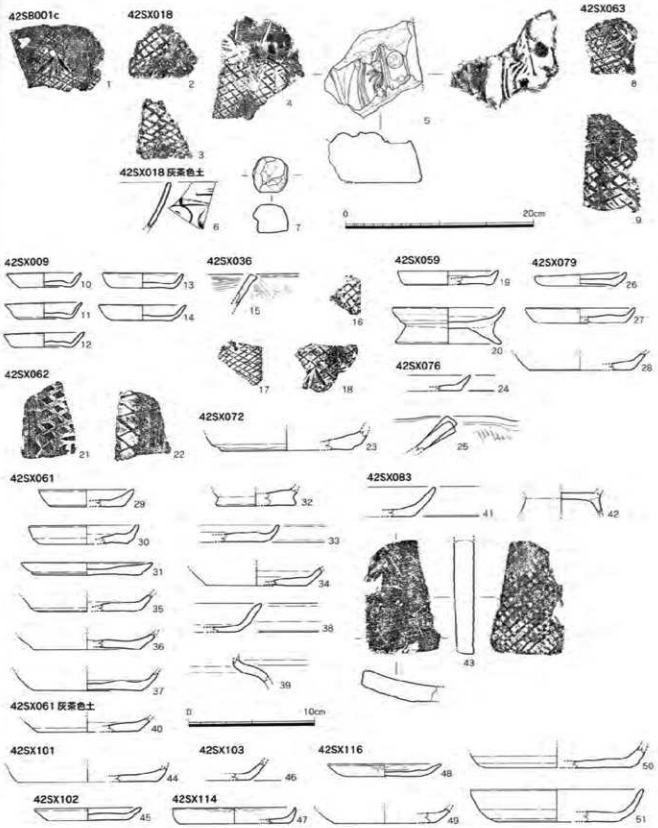



Fig. 14 42SB001 および関連遺構出土遺物実測図 (1/3、瓦は 1/4)

**42SK062 出土遺物** (Fig. 14)

瓦類

平瓦 (21) 格子叩 I-F。「平井」の文字の一部が残る。

丸瓦（22） 格子叩I-C-c。焼成良好で青灰色を呈する。

**42SX072 出土遺物**（Fig. 14）

土師器

坏a（23） 復元底径10.6cm。底部切り離しは回転糸切り。

**42SX076 出土遺物**（Fig. 14）

土師器

小皿a（24） 底部切り離しは回転糸切り。

瓦質土器

鉢（25） 片口をなす。内外面摩滅するが、外面に僅かにハケ目と指頭圧痕が残る。色調は灰色を呈する。

**42SX079 出土遺物**（Fig. 14）

土師器

小皿a（26、27） 2点とも底部切り離しは糸切り。26は口縁部が歪んでいるが口径7.2cm。底部外面には板状圧痕が残る。27は復元口径8.7cm。胎土に金雲母を多く含む。

坏a（28） 復元底径8.2cm。底部切り離しは回転糸切り。内面底部はナデ調整。

**42SX061 出土遺物**（Fig. 14）

土師器

小皿a（29～34） 底部切り離しは確認できるものは全て回転糸切りである。復元口径7.5～10.4cm。32は上げ底状になっているため小皿以外の可能性もある。0.3cm以下の白色砂粒や茶色粒を含み淡褐色を呈する。

坏a（35～38） 磨滅が目立つが、底部切り離しは確認できるものは全て回転糸切りである。胎土は0.2cm前後の砂粒を含み、色調は淡橙色を呈する。

瓦質土器

小壺（39） 外面肩部には細い沈線を施す。その他はヨコナデ。胎土は精製され外面黒灰色、内面灰色を呈する。

**42SX061 灰茶色土出土遺物**（Fig. 14）

土師器

坏a（40） 復元底径7.9cm。底部切り離しは回転糸切り。

**42SX083 出土遺物**（Fig. 14）

土師器

坏a（41） 全面磨滅し調整不明。胎土は精製され黄白色を呈する。

椀c（42） 欠損するが高い高台を貼付する。胎土は0.2cm以下の白色砂粒や金雲母を多く含む。内外面底部はナデ調整される。

瓦類

平瓦（43） 焼成不良で磨滅が目立つ。格子叩はバラツキがあるがI-A-a。側面はヘラ切りする。色調は黄白色を呈する。

**42SX101 出土遺物**（Fig. 14）

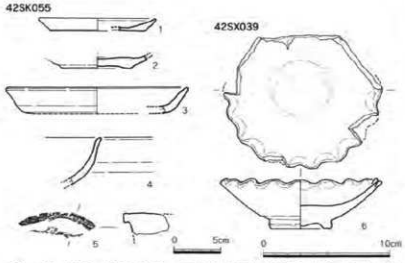



**Fig. 15 第42次調査中段の遺構出土遺物実測図（1/3、5は1/4）**



土師器

坏a（44） 底部切り離しは回転糸切り。胎土は白色砂粒を多く含み、黄灰色などを呈する。復元底径11.0cm。

**42SX102 出土遺物**（Fig. 14）

土師器

小皿a（45） 復元口径8.4cm、器高0.95cm、復元底径6.4cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕あり。

**42SX103 出土遺物**（Fig. 14）

土師器

坏a（46） 底部切り離しは糸切りで、板状圧痕を残す。

**42SX114 出土遺物**（Fig. 14）

土師器

小皿a（47） 復元口径9.8cm、器高1.25cm、復元底径8.7cm。調整等は摩滅し不明。口縁端部には煤が付着する。

**42SX116 出土遺物**（Fig. 14）

土師器

小皿a（48） 復元口径9.0cm、器高1.0cm、復元底径5.85cm。底部切り離しは回転ヘラ切りで板状圧痕残す。内面底部はナデ。口縁端部には煤が付着する。

坏a（49～51） 49の底部は回転糸切り。50は外面底部が回転ヘラ切り後ナデ調整。内面底部はナデ。その他はヨコナデ。51はやや丸味のある体部で、復元口径13.8cm。内面ナデ、外面ヨコナデ。

**中段の遺構**

**42SK055 出土遺物**（Fig. 15）

土師器

小皿a（1、2） 底部切り離しは回転ヘラ切り。摩滅が目立つが内外面ヨコナデ。1の復元口径は9.3cm。

皿a（3） 復元口径14.4cm。内外面摩滅する。胎土は白色砂粒や雲母を含み、淡橙褐色を呈する。

椀（4） 口縁部を僅かに外反させる。摩滅し調整不明。胎土は0.2cm以下の茶色粒を多く含み、淡茶褐色を呈する。

瓦類

軒丸瓦（5） 周縁は素文で、外区には唐草文のような痕跡が見える。

**42SX039 出土遺物**（Fig. 15）

国産陶器（肥前系陶器）

浅型椀（6） 口縁部が波形の椀で、高台は削り出し。復元口径12.7cm、器高3.9cm、高台径5.0cm。胎土は0.1cm以下の白色砂粒を含み、やや粗い。内面底部には目跡が3ヶ所残り、高台畳付には変色している部分があり目跡を除去した部分とみられる。釉は淡茶灰色で内外面に施す。外面下半から底部にかけては露胎で、淡赤褐色を呈する。唐津焼。

**石列関係**

**42SX034 灰茶色土出土遺物**（Fig. 16）

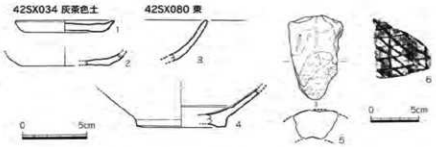



**Fig. 16 第42次調査石列関連遺構出土遺物実測図（1/3、6は1/4）**

土師器

小皿 a（1、2） 胎土は共に白色砂粒を多く含み、淡橙色を呈する。1は復元口径7.8cm。底部切り離しはヘラ切りのようにみえ、板状圧痕を残す。2の底部切り離しは回転糸切り。

**42SX080 東出土遺物**（Fig. 16）

土師器

椀（3） 口縁部は外反することなく立ち上がる。胎土は白色粒や金雲母を多く含む。内外面摩滅し調整は不明。

白磁

椀（4） Ⅳ-1a 類。

土製品

輪羽口（5） 先端付近だが、摩滅し端部は残していない。胎土は0.2cm以下の白色砂粒や金雲母を多く含み、淡黄灰色を呈する。内外面ナデ調整。

瓦類

平瓦（6） 格子叩 I-C-c。

**石敷と窪地**

**42SX030 出土遺物**

**42SX030 茶色土出土遺物**（Fig. 17）

土師器

小皿 a（1） 復元口径10.4cm、器高1.15cm、復元底径7.6cm。底部切り離しは回転糸切りのようだ。

坏 a（2） 復元底径10.2cm。底部切り離しは回転糸切り。胎土は0.2cm以下の白色粒を多く含む。

瓦類

瓦玉（3、4） 3の大きさは3.2×3.1cm、厚さ2.1cm。4の大きさは2.9×2.7cm、厚さ1.7cm。

**42SX030 茶色粘土出土遺物**（Fig. 17）

土師器

小皿 a（5） 復元口径9.8cm、器高0.9cm、復元底径7.6cm。底部切り離しは回転糸切り。茶褐色を呈す。

坏 a（6、7） 6は復元口径16.2cm、7は復元口径17.5cm。2点とも摩滅が目立つ。淡橙褐色を呈する。

瓦類

平瓦（8） 格子叩 I-A-a で、陰刻正字で「平井」がみられる。

瓦玉（9） 大きさは2.9×2.4cm、厚さ1.8cm。片面に格子叩きを残す。

**42SX030 灰褐色砂出土遺物**（Fig. 17）

土師器

坏 a（10、11） 10は底部切り離しが回転糸切り。11は板状圧痕が残る。

瓦器

椀（12） 復元口径10.5cm。外面と内面上部は回転ナデ。内面下半は丁寧なナデ。内面は黒色化する。

白磁

椀（13） Ⅷ類。

瓦類

平瓦（14） 格子叩 I-F で、「平」の文字瓦。

**42SX030 茶褐色土出土遺物**（Fig. 17）

瓦類



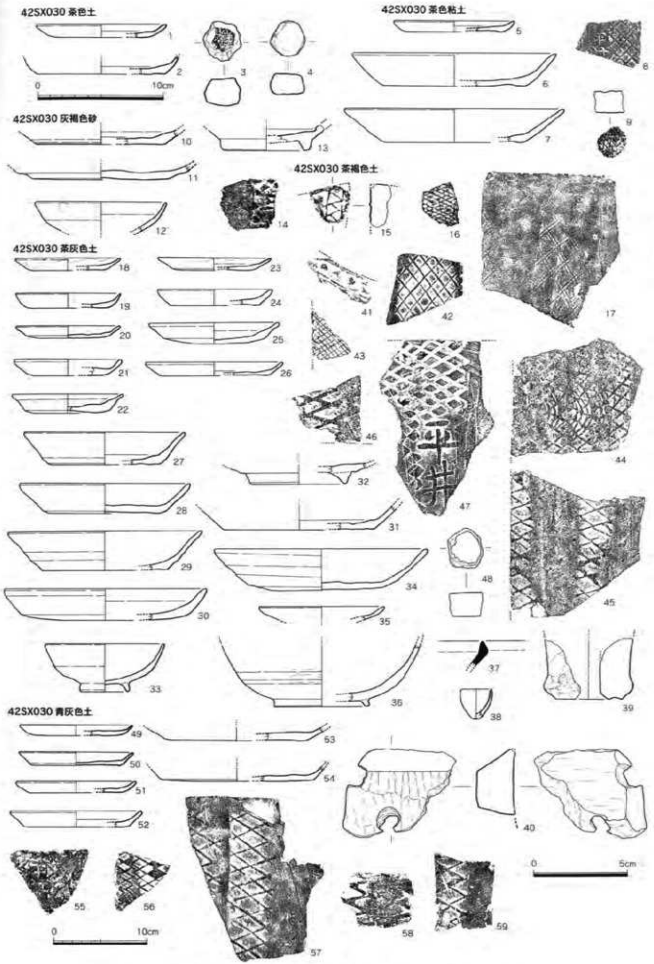



Fig. 17 42SX030 出土遺物実測図（40は1/2、1/3、瓦は1/4）

軒平瓦（15） 端部の破片で、外区上部の珠文と凸線鋸歯文が確認できる。

平瓦（16、17） 16は格子叩Ⅰ-C-a。17は格子叩Ⅱ-B。

**42SX030 茶灰色土出土遺物**（Fig.17）

土師器

小皿a（18～26） 復元口径8.4～10.9cm、器高1.0～1.7cm、復元底径5.6～8.4cm。底部切り離しは、摩滅も目立つがヘラ切りと糸切りが混在している。18・23は口縁部に煤が付着する。

坏a（27～31） 復元口径12.8～16.1cm、器高2.4～3.1cm、復元底径9.0～13.2cm。底部切り離しは確認できるものは全て糸切りである。

椀c×皿c（32） 三角形の高台を貼付し、高台復元径7.8cm。胎土は0.2cm以下の白色砂粒を多く含み、黄褐色を呈する。

椀c（33） 復元口径9.5cm、器高3.8cm、復元底径4.0cm。内外面とも摩滅する。胎土は精製され、黄白色や淡橙色を呈する。

丸底坏a（34） 復元口径17.0cm、器高3.3cm、復元底径10.0cm。内面はヨコナデの後ミガキを施す。外面下部に押し出し痕があり、外面底部には板状圧痕が残る。

瓦器

小皿a（37） 復元口径10.0cm。内外面は摩滅するが、灰色を呈する。

椀c（36） 復元高台径7.6cm。体部中位に僅かに段を有する。内外面とも摩滅し、色調は黒灰色や淡黄色を呈する。

須恵質土器

鉢（37） 口縁部で、外面端部は黒灰色、その他はやや明るい灰色を呈する。胎土は砂粒を僅かに含むが精製されている。東播系。

白磁

小椀（38） 復元口径2.5cm、器高2.35cm、復元底径0.8cm。胎土は砂粒をほとんど含まず精製され、淡灰褐色を呈する。内外面とも白青色釉を全面に施す。

土製品

鞴羽口（39） 先端部で径6.5cm程に復元できる。端部は熱で融解し黒色化する。その他の色調は赤茶色や灰黄色を呈する。胎土は白色砂粒を多く含む。

石製品

石鍋加工品（40） 石鍋の二次加工品とみられ、石鍋製作時の縦方向のケズリ痕が残る。二次加工として断面部を2ヶ所ケズリ加工し、2ヶ所に円孔を穿っている。

瓦類

軒平瓦（41） 外区の珠文部分で、その他は欠損。焼成やや不良で土師質である。

平瓦・丸瓦（42～47） 42は格子叩Ⅰ-B-b、43は格子叩Ⅰ-C-a、44は丸瓦で格子叩Ⅰ-C-b、格子に混じって蜘蛛の巣状の格子を施す。45・46は格子叩Ⅰ-C-c、45は丸瓦、47は格子叩Ⅰ-Fで「平井」の文字瓦。

瓦玉（48） 大きさは3.2×2.8cm、厚さ1.9cm。表裏ともナデである。

**42SX030 青灰色土出土遺物**（Fig.17）

土師器

小皿a（49～52） 復元口径9.0～10.5cm、底部切り離しは摩滅が目立ち不明瞭だが、ヘラ切りと糸切りが混在するようだ。色調は淡橙白色を呈する。

坏a（53、54） 復元底径11.2cmと12.2cm。底部切り離しは回転糸切り。色調は淡橙白色を呈する。



54は胎土に金雲母を多く含む。

瓦類

平瓦・丸瓦（55～59） 55は平瓦で格子叩Ⅰ-B-bに陰刻の「平井」の文字瓦、56は丸瓦で格子叩Ⅰ-C-b、57～59は格子叩Ⅰ-C-cで、59のみ丸瓦。

**42SX030 灰色粘土出土遺物**（Fig.18～23）

土師器

小皿a（1～47） 復元口径7.8～11.0cm、器高0.85～2.05cm、底径5.7～8.8cm。底部切り離しはヘラ切りと糸切りが混在し、板状圧痕を残すものもある。摩滅しているものも多いが、内外面とも回転ナデで、内面底部はナデ調整される。

坏a（48～63） 復元口径13.3～17.8cm、器高1.8～2.75cm、底径8.5～14.0cm。口径の大きさは48～51と52～57と大きく2種に分けられる。底部切り離しは回転ヘラ切りと回転糸切りが混在している。全体的に摩滅気味である。

丸底坏a（64～71） 復元口径15.0～16.6cm、器高2.3～3.3cm。全体的に摩滅が目立つが、内面に僅かにミガキbや下半部に回転ヘラ切り後に底部が押し出され、僅かに指頭圧痕が確認できる。

椀c（72、73） 72は外にやや跳ねた高台で高台径6.5cm。底部には板状圧痕のような痕跡が残る。色調は淡褐色を呈する。73は復元高台径8.6cm。焼成不良で内外面とも摩滅している。色調は白灰色を呈する。

大椀c（74） 高い高台を貼付し、高台径11.4cm。体部内外面ともナデ調整。胎土は白色砂粒・橙色粒・雲母を含み、色調は淡黄橙色を呈する。焼成良好。

大皿a（75） 器高2.9cmほどの大皿。外面下半には板状圧痕が明瞭に残り、凸凹になっている。その他内外面は摩滅し調整不明。胎土は0.3cm以下の白色砂粒を含み、色調は淡褐色を呈する。

黒色土器

椀c（76） 高台径4.4cm。内外面とも黒色を呈し、内面にはミガキcが確認できる。胎土は白色粒や黒色粒を含む。B類。

瓦器

椀c（77） 方形の低い高台を貼付し、復元高台径6.7cm。外面中位に浅い沈線状の段を有する。内面は摩滅するが、ミガキのような痕跡が確認できる。外面は摩滅するがヨコナデか。色調は内外面とも暗灰色を呈する。

白磁

椀（78～80） 78はⅤ類。79はⅣ-1a類。80は若干上げ底風の底部で、復元底径5.6cm。釉は光沢のある半透明釉を内外面に施し、高台畳付は釉を掻き取る。内面中央付近が露胎で淡橙色を呈する。

皿（81、82） 81はⅥ-1b類。82はⅥ-1類。

中国陶器

盤（83） 口縁部を折り曲げ肥厚させる。胎土は白色砂粒を多く含み、橙褐色を呈する。内外面とも回転ナデで、茶褐色釉が口縁部と内面に点々と残る。

壺（84） 復元底径9.8cm。外面は回転ナデのあと緑灰色釉を施釉する。底部外面は回転ヘラケズリで露胎。内面は強い回転ナデで、緑灰色釉がまだらに残り、底部は露胎である。胎土は微細な白色砂粒や茶褐色粒を多く含む。

土製品

鞴羽口（85～88） 85・87・88は端部付近で外面は被熱で黒褐色を呈し、融解している。胎土は白

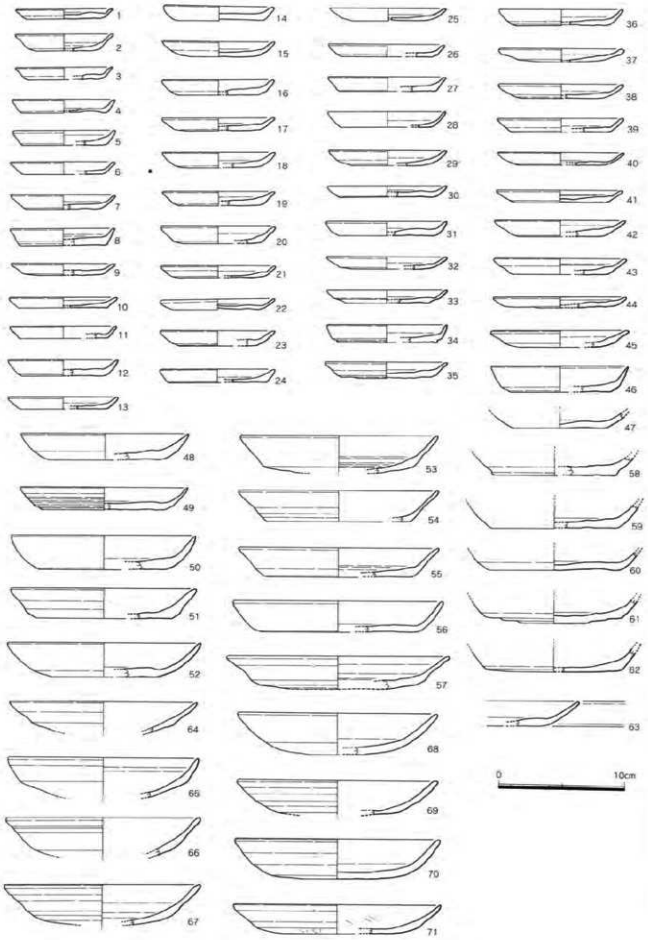


Fig. 18　42SX030 灰色粘土出土遺物実測図①（1/3）



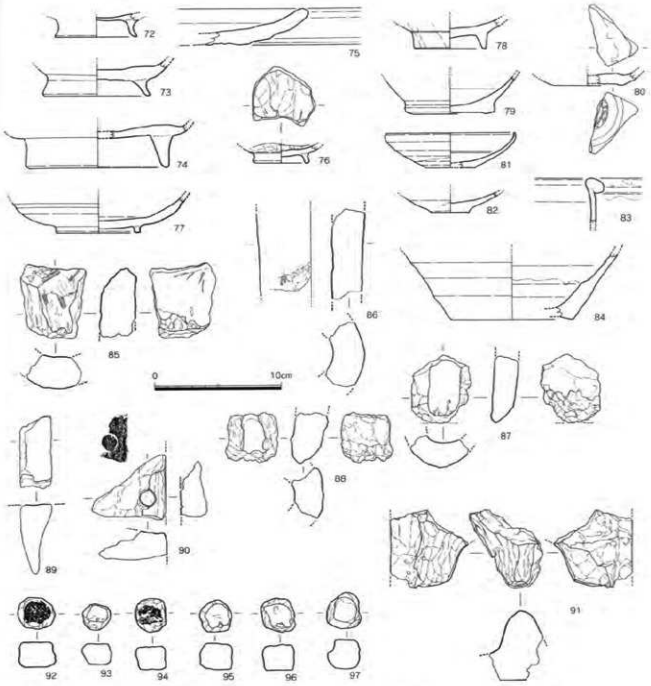


Fig. 19　42SX030 灰色粘土出土遺物実測図②（1/3）

色砂粒を多く含み、橙茶色や茶褐色を呈する。85 の胎土にはスサ痕が残る。86 は端部近くで、復元体部径 8.2cm である。外面は被熱で融解し黒灰色を呈する。

瓦類

軒丸瓦（98 ～ 104）　98・99 は中房が 1+4 で、中房と珠文の突出が目立つ。複弁状だが輪郭の消失している。100 は珠文の突出が目立つ。101 は単弁の鐃弁である。102 は複弁で、外区にやや楕円形の珠文を作り、外縁は素文である。103 は単弁で、外区に唐草文のような流雲文を施す。104 は単弁重弁で菊花状になるとみられる。

軒平瓦（105 ～ 111）　105 は偏行唐草文の子葉の先端が点状になる。下外区は鋸歯文、上外区は珠文を施す。106・111 は摩滅が目立ち、外区の凸鋸歯文が確認できる程度である。107 は摩滅が目立つが、

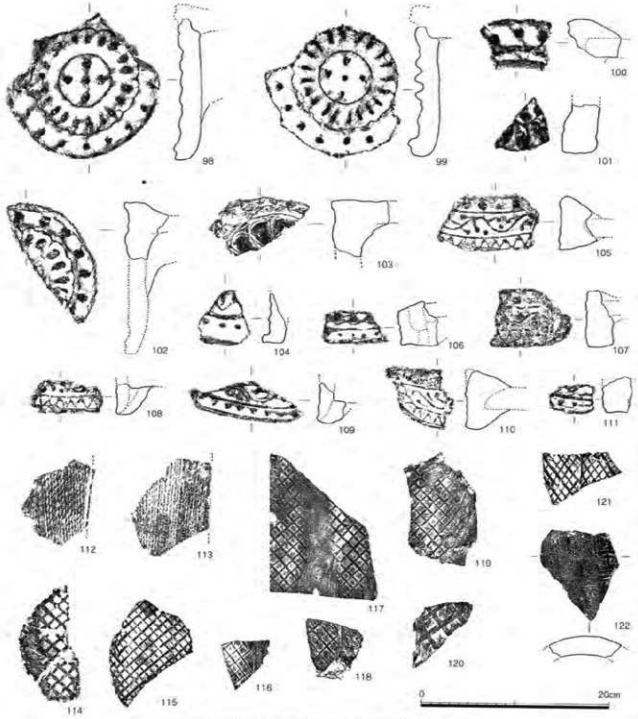



Fig. 20　42SX030 灰色粘土出土遺物実測図③（1/4）

唐草文を施し、下外区は鋸歯文、上外区は珠文を施している。108・110 は偏行唐草文で、外区には凸線鋸歯文を施す。109 は偏行唐草文で、外区は凸鋸歯文。

平瓦・丸瓦

叩き目で分類し報告する。

縄目叩（112、113）　側面はヘラ切りし、凹面には布目痕が残る。

格子叩（114 ～ 179）　I-A-a（114 ～ 116）、I-A-b（117 ～ 120）、I-B-a（121、122）、I-B-b（123 ～ 129）で、125 は「賀茂」の文字瓦。I-C-a（130 ～ 138）で、132 は「平井瓦」の文字瓦。135 ～ 138 は格子に混じって雲文がみられる。I-C-b（139 ～ 151）で、145 には「小」の文字瓦、148 は蜘蛛の巣状



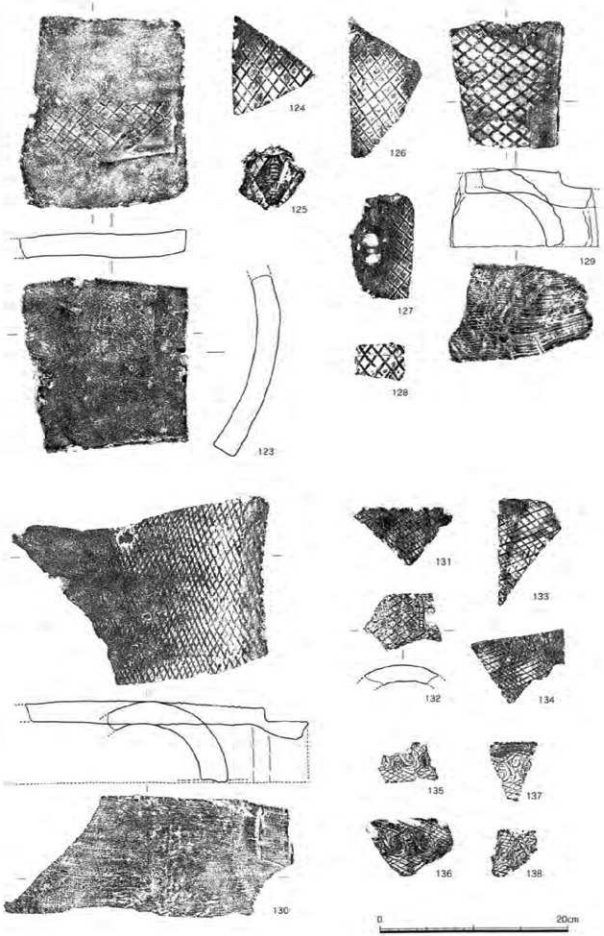



Fig. 21　42SX030 灰色粘土出土遺物実測図④（1/4）

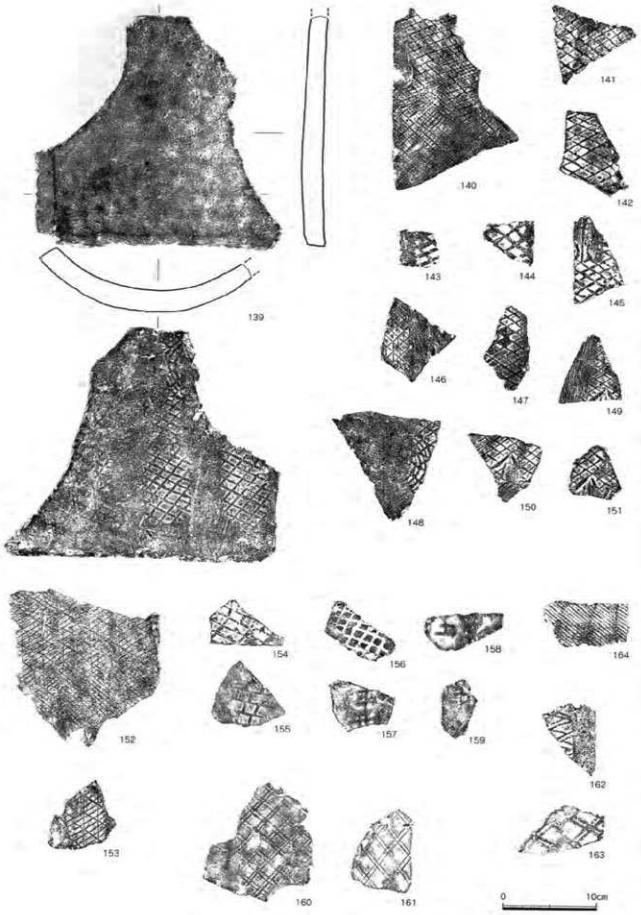



Fig. 22　42SX030 灰色粘土出土遺物実測図⑤ (1/4)



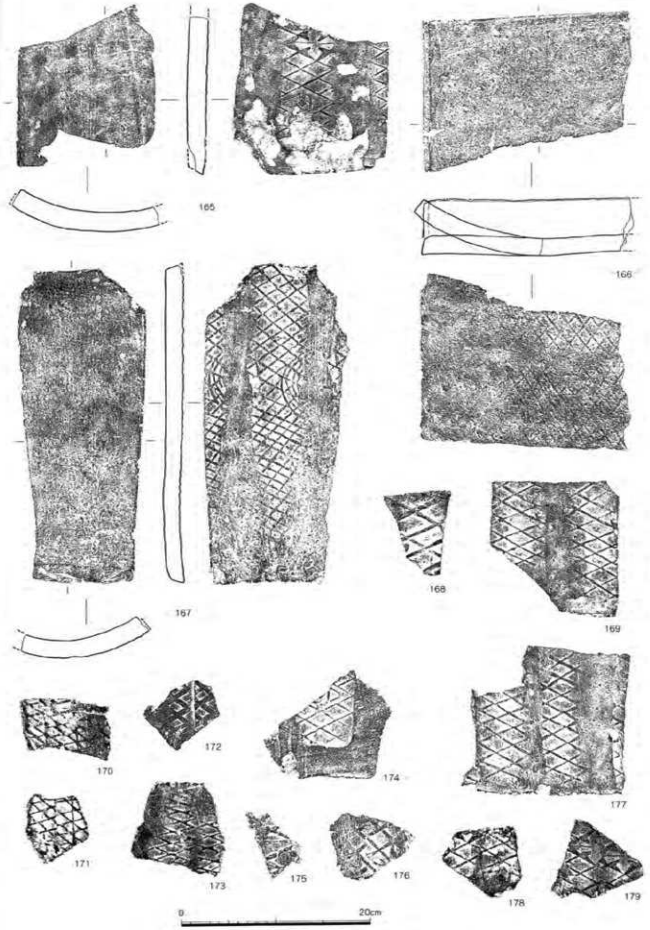



Fig. 23　42SX030 灰色粘土出土遺物実測図⑥ (1/4)

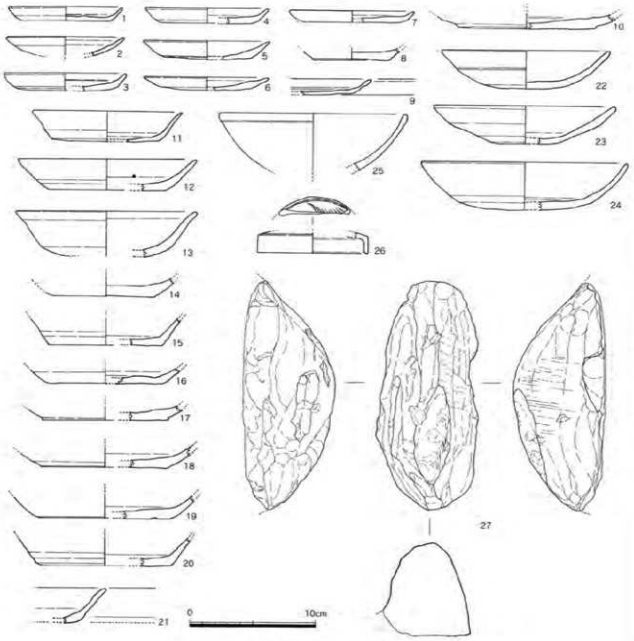


Fig. 24　42SX035 出土遺物実測図①（1/3）

の格子を施す。149 ～ 151 は「介」の文字瓦。I-C-e（165 ～ 179）で、165 には格子に混じって四葉文がある。167 には格子に混じって蜘蛛の巣状の格子を施す。I-D（152、153）、I-E（154、155）、I-F（156 ～ 159）で、157 ～ 159 は「平井」の文字瓦。II -A（160）、II -B（161）、II -C（162、163）、斜行叩（164）。

塼（89）　小片で胎土は白色砂粒を多く含み、内部は黒色で外面は灰褐色を呈する。外面はナデ調整が見られる。焼成良好。

不明瓦製品（90、91）　90 は欠損しているため、全容が掴みにくいが、鬼瓦のような瓦の一部の可能性が考えられる。表面には輪状の押し形があり、それ以外はナデ調整される。胎土は白色砂粒や黒色粒を多く含み、焼成は良好で、灰色を呈する。91 は何か鬼瓦のようなものの端部とみられる。表面と背面はナデ調整。胎土は 0.5cm 以下の白色砂粒を多く含み、黒色粒も少量含む。焼成は良好で灰色を呈す。

瓦玉（92 ～ 97）　92 は 2.5 × 3.0cm、厚さ 2.0cm。93 は 2.1 × 2.3cm、厚さ 1.7cm。94 は 2.6 × 2.4cm、厚さ 1.9cm。95 は 2.5 × 2.0cm、厚さ 2.6cm。96 は 2.7 × 2.7cm、厚さ 2.05cm。97 は 2.8 × 2.8cm、厚さ



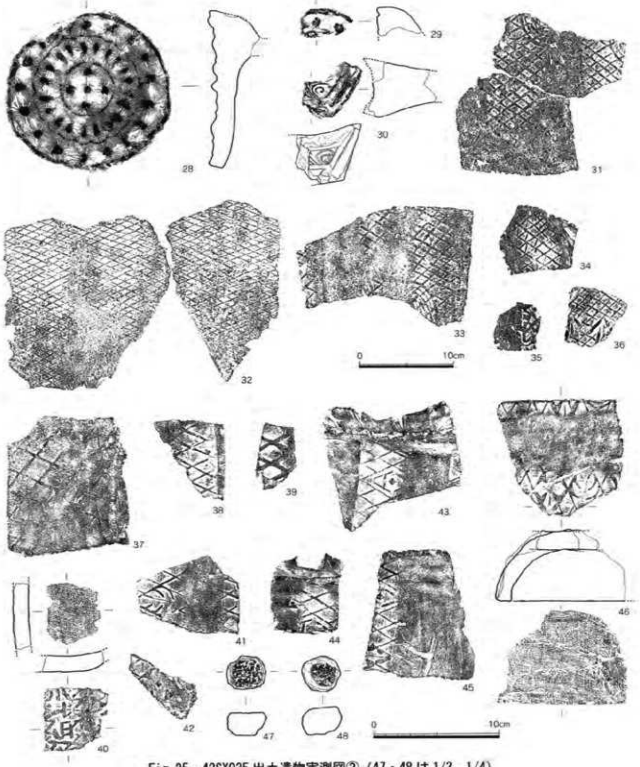


Fig. 25　42SX035 出土遺物実測図②（47・48 は 1/3、1/4）

2.4cm。

**42SX035 出土遺物**（Fig. 24・25）

土師器

小皿 a（1 ～ 9）　復元口径 9.1 ～ 10.0cm、器高 0.95 ～ 1.5cm、復元底径 6.3 ～ 8.2cm。底部切り離しは、8 が糸切りで、それ以外はヘラ切りである。色調は淡灰色や淡黄白色などを呈する。

皿 a（10）　復元底径 10.9cm。底部切り離しは回転糸切り。胎土は 0.2cm 以下の砂粒を含み、茶褐灰

色を呈する。内外面摩滅し調整不明。

坏a（11～21）　復元口径12.0～14.4cm、器高2.4～2.45cm、復元底径8.3～11.0cm。底部切り離しは回転糸切り。板状圧痕を残すものもある。

丸底坏a（22～24）　復元口径13.4～16.4cm、器高3.0～3.8cm。全体的に摩滅が目立つ。22は体部外面中位に沈線が巡る。

緑釉陶器

蓋（26）　復元口径8.7cm。胎土は精製され微細な砂粒を僅かに含み、薄い灰色を呈する。内外面に薄い緑色釉を施し、細かな貫入が入る。外面上部には線刻で文様が施されている。

白磁

椀（25）　Ⅱ-1類。

土製品

不明土製品（27）　胎土は0.4cm以下の白色砂粒を多く含み、焼成は良好で瓦質の淡灰色を呈する。この土製品は何かから剥落したような面を持っている。全体的にナデ調整されるが、実測図の左側の図は、剥落した面に沿う形でナデが蛇行しているため、何か波打つような本体に接合していた可能性が高い。右図はナデ調整されるが、横方向のナデのような痕跡もあり、左図に比べかなり平坦に仕上げている。

瓦類

軒丸瓦（28、29）　28は中房が1+4で、複弁。色調は白灰色を呈する。29は外区の珠文部分で、粘土の接合部分で剥落している。

軒平瓦（30）　扁行唐草文は確認できる。周縁は素文とみられる。

平瓦・丸瓦（31～46）　31～36は格子叩I-C-bで、31と33は格子に蜘蛛の巣状の格子を施す。35は陰刻の「□井瓦」の文字瓦。36は「介」の文字のある丸瓦。37～46は格子叩I-C-cで、44～46は丸瓦、それ以外は平瓦。40は「小□瓦」の文字瓦。

瓦玉（47、48）　47は大きさ2.2×3.1cm、厚さ1.8cm。48は大きさ2.8×3.1cm、厚さ2.1cm。

**整地および堆積層**

**42SX093出土遺物**（Fig.26）

肥前系磁器

角皿（1）　一辺5.5cm、器高1.5cm、高台幅3.1cm。白色の素地に光沢のある透明釉を薄く施し、内面底部に呉須で文様を描く。近代以降。

皿(2)　復元高台径5.1cm。白色の素地に内外面に透明釉が施され、高台畳付は釉が拭き取られている。全体的に貫入があるが、外面の方が特に多い。内面底部には呉須で文様を描く。

**42SX002灰褐色土出土遺物**（Fig.26）

白磁

椀（3）　体部屈曲部分で、胎土は微細な黒色粒を含み白色を呈する。内外面は白青色釉を施し、内面にうっすら暗文のような唐草文状の文様を施す。枢府窯と推測される。

国産陶器

椀c（4）　胎土は微細な白色砂や金雲母を含み、淡茶色を呈する。内面は黄茶色釉、外面は淡緑色釉を施す。高台畳付は露胎である。

国産磁器

ミニチュア（5）　高台径2.3cm。白黄色の素地に白緑色釉を内外面に施し、高台畳付から内側は露胎。

皿（6、7）　6は復元口径9.4cm、器高2.8cm、復元高台径3.4cm。白色の素地に透明釉を施す。高台



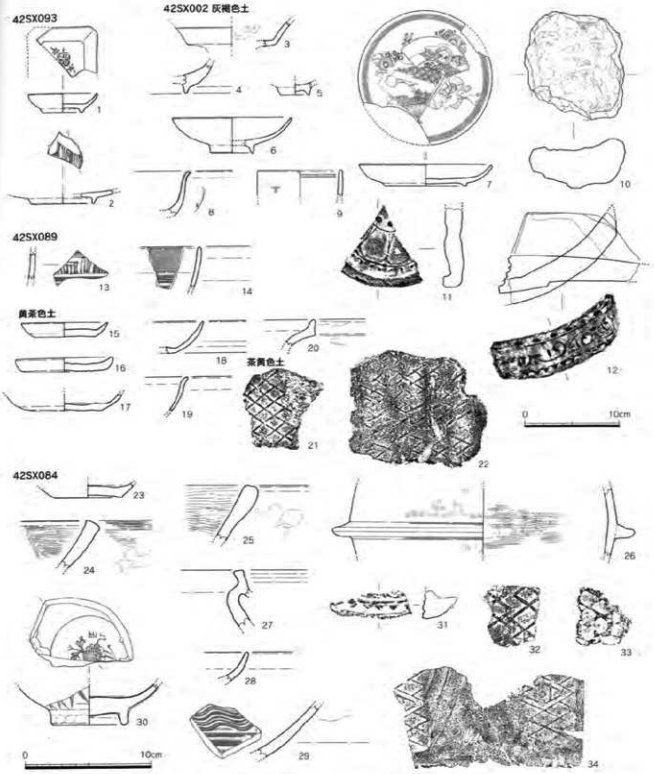



Fig.26　第42次調査整地・堆積層出土遺物実測図①（1/3、瓦は1/4）

畳付は露胎。7は口径10.6cm、器高1.7cm、高台径6.6cm。内面には主に朱色で扇子や草花が描かれ、一部に黄色や緑色を用い描いている。近代以降。

肥前系磁器

小椀（8）　口縁部は僅かに外反させる。内外面には白色の素地に透明釉を掛け、外面に薄青色で文様を描く。

椀(9)　復元口径6.8cm。白茶色の素地に透明釉を全面に施し、内面口縁部には暗青色釉で圏線を描く。

外面にも文様を描く。

金属製品

鉱滓（10）　いわゆる椀型滓といわれるもので、大きさは8.5×7.9cm、厚さ3.4cm。茶褐色を帯びる。

瓦類

軒丸瓦(11)　単弁の素弁で、外区に唐草文状の流雲文を巡らす。外縁は素文。瓦当面以外はナデ調整。

軒平瓦（12）　均整唐草文で、上外区には楕円形の珠文、下半には凸鋸歯文を巡らす。凹面には布目痕、凸面には縄目が残る。側面部はヘラ切り。胎土は0.4cm以下の白色砂粒や金雲母を多く含む。

**42SX089 出土遺物**（Fig.26）

肥前系磁器

猪口（13）　内外面に薄く透明釉を施し、外面には呉須で文様を描く。全体に貫入が入る。胎土は砂粒を僅かに含むが精製され、白色を呈する。

国産陶器

椀（14）　胎土は白色細砂粒を含み淡い褐色を呈する。内外面とも薄く施釉される。内面は化粧土で白色文様を描き出している。

**黄茶色土出土遺物**（Fig.26）

土師器

小皿a（15、16）　15は復元口径6.8cm。16は復元口径7.8cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

坏a(17、18)　17は内面に漆が僅かに付着する。底部切り離しは回転ヘラ切り。色調は淡橙色を呈す。18はやや丸味を帯びた体部で、外面下半が回転ヘラケズリ、それ以外は回転ナデ。色調は橙白色を呈す。

黒色土器

椀（19）　口縁部を僅かに外反させる。磨滅するが内面にはミガキが残る。A類。

灰釉陶器

壺（20）　内面には深緑色釉を施し、外面頸部は回転ナデの後薄い透明釉で一部深緑色釉が残る。胎土は微細な黒色粒を多く含む。

**茶黄色土出土遺物**（Fig.26）

瓦類

平瓦（21）　格子叩I-C-c。

丸瓦（22）　格子叩I-C-c。

**42SX084 出土遺物**（Fig.26）

土師器

小皿a(23)　底径5.6cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕残る。胎土は精製され黄褐色を呈する。

瓦質土器

擂鉢（24）　内面と口縁部外面はヨコハケ、外面下半は指頭圧痕が残る。内面に摺り目が僅かに残る。胎土は白色砂粒を少量含み、焼成やや不良で淡白褐色を呈する。

土師質土器

鉢(25)　口縁部は僅かに肥厚させる。内面ヨコハケ、口縁端部はヨコナデ、外面下半は指頭圧痕が残る。0.2cm以下の白色砂粒をやや多く含み、内面淡橙褐色、外面暗灰色を呈する。

鍋（26）　内面には指頭圧痕に細かなヨコハケを施す。外面はうっすらとタテハケが残り、鍔より下には煤が付着する。胎土は砂粒を少量含み、淡褐色を呈する。



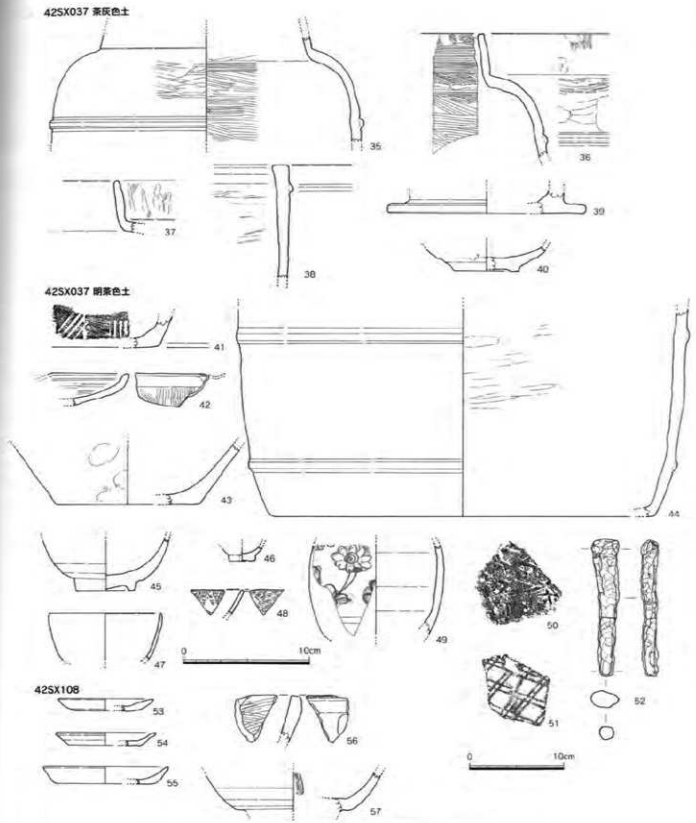



Fig.27　第42次調査整地・堆積層出土遺物実測図②（1/3、瓦は1/4）

国産陶器

甕（27）　常滑産とみられる甕で、胎土は暗灰色を呈し、回転ナデの後内外面に茶褐色釉をかける。

皿（28）　胎土は精製されているが、砂粒を少量含み、淡い灰色を呈する。内外面には緑灰色がかった透明釉を施す。全体に貫入が入る。口縁端部は使用によって釉が剥落する。

鉢（29）　胎土は赤褐色で、外面は回転ナデで、上半部は施釉する。内面は茶褐色釉に白色土で波状文などを描く。外面上半部は灰茶色釉が施されている。

龍泉窯系青磁

椀（30）　Ⅳイ類。白灰色の素地にやや青味がかった緑色釉を施し、内面底部に文様、外面には蓮弁を描く。高台畳付は一部釉を拭き取り、高台内面は露胎。

瓦類

軒平瓦（31）　文様の形状は分からないが、外区の凸鋸歯文が残る。

平瓦（32～34）　32は格子叩Ⅰ-C-c。砂粒を多く含み暗灰色を呈する。33は格子叩Ⅰ-C-cで、格子に混じって四葉文がある。色調は淡褐色を呈する。34は格子叩Ⅰ-C-cで、格子内を一部二重にする。凹面に布目痕があり、焼成良好でやや暗い青灰色を呈する。

**42SX037 茶灰色土出土遺物**（Fig. 27）

瓦質土器

湯釜（35～37）　胎土は0.2cm以下の砂粒を多く含み、色調は暗茶灰色や茶灰色を呈する。35の頸部内外面はヨコナデとナデ調整、体部の外面はミガキe、内面はヨコハケを施す。36は頸部内面が細かいハケ、体部は粗いハケ調整。外面は低い突帯が巡り、ミガキcを施す。37の頸部外面は縦方向のミガキ調整。内面はヨコナデ。

火鉢（38）　内面はヨコナデで橙褐色の付着物が付く。外面は全体的に磨滅している。胎土は0.2cm以下の白色砂粒を多く含み、黒灰色を呈する。

灯籠（39）　底部部分で、胎土は白色砂粒を多く含み、茶灰色を呈する。内外面はナデ調整される。

国産陶器（肥前系陶器）

椀（40）　高台はケズリ出しで、復元高台径は5.2cm。胎土は0.1cm以下の白色砂粒を多く含み粗い。内外面とも緑灰色釉を施し、貫入が多く入る。外面下半は露胎である。唐津焼。

**42SX037 明茶色土出土遺物**（Fig. 27）

瓦質土器

擂鉢（41）　内面に摺り目を5本づつ施す。外面は磨滅が目立つ。胎土は淡黄白色を呈する。

片口坏（42）　口縁部で全形が不明だが、比較的浅いもので、口縁部が片口になっている。口縁部がヨコナデ、内面はヨコハケ、外面はタテハケで煤が付着する。胎土は0.2cm以下の白色砂粒を多く含み、暗灰色や暗橙茶色などを呈する。

鉢（43）　内面と底部外面はナデ、外面は磨滅するが、タテハケや指頭圧痕が残る。胎土は白色砂粒や橙色粒を含み、淡明灰色を呈する。

火鉢（44）　復元底径30.4cm。高さ0.2cm程の断面台形の突帯を巡らす。内面は黄茶褐色で、全体的に磨滅し、焼成時に器面がぶつぶつと破裂している。しかし、横方向のミガキのような痕跡を残す。外面は灰色を呈し、磨滅して調整不明瞭だが、ヨコナデのように思える。胎土は金雲母を多く含むが精製されている。

国産陶器（肥前系陶器）

椀（45）　高台ケズリ出しで高台径5.3cm。胎土は細かい白色砂粒を含み、茶褐色を呈する。内外面とも緑黄茶色釉を施すが、発色が悪く、釉ムラで青白色や黄白色の部分がある。外面下半から高台内面まで露胎である。唐津焼。

国産磁器

椀（46、47）　46は小型の椀で、高台ケズリ出し。高台以外は乳白色の素地に淡水色釉を全面に施す。



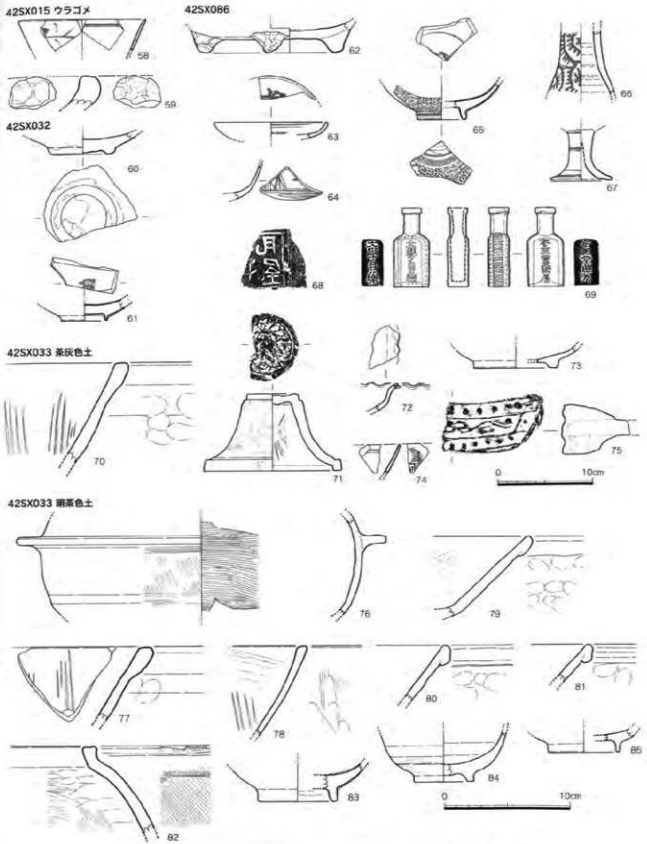



**Fig. 28　第42次調査整地・堆積層出土遺物実測図③（1/3、瓦は1/4）**

47は白灰色の素地に透明釉を施す。口縁端部のみ淡茶色を呈する。

肥前系磁器

椀（48）　乳白色の素地の内外面に鮮やかな呉須で文様を施す。この遺物が出土するSX045の西隣付

近はSX037で唯一近代の遺物が多く、混入と考えられる。

瓶（49） 胎土は淡明白色を呈し、内面回転ナデで露胎、外面は呉須で草花文を描く。

瓦類

平瓦（50、51） 50は格子叩に「佐」の文字瓦。51は格子叩Ⅱ-C、凹面は布目痕。

金属製品

鉄釘（52） 縦10.8cm、幅2.2cm、厚さ1.3cm。全面錆ついている。

**42SX108 出土遺物**（Fig.27）

土師器

小皿a（53～55） 復元口径7.6～10.0cm。底部切り離しは回転糸切りと回転ヘラ切りである。

土師質土器

鉢×鍋（56） 内面はヨコハケ、外面は煤が付着する。胎土は0.2cm以下の砂粒を多く含み暗橙色や茶灰色を呈する。

龍泉窯系青磁

椀（57） I-4b類。

**42SX015 ウラゴメ出土遺物**（Fig.28）

肥前系磁器

椀（58） 復元口径10.2cm、白灰色の素地に、青灰色釉で内面には圏線、外面には草花文が描く。

土製品

トリベ（59） 胎土は0.2cm以下の白色砂粒を多く含み、淡灰色などを呈する。外面には指頭圧痕が残り、細かな気泡を見られる。内面には橙褐色の付着物がある。

**42SX032 出土遺物**（Fig.28）

国産陶器（肥前系陶器）

椀（60） 高台はケズリ出しで、復元高台径5.2cm。胎土は微細な白色砂粒や茶色粒を多く含み、淡黄茶色を呈する。体部内外面には暗緑色釉を施し、細かい貫入が入る。高台とその内側は釉が点在するが露胎で橙褐色を呈する。唐津焼。

肥前系磁器

椀（61） 復元高台径3.8cm。白灰色の素地に淡水色釉を全面に施し、呉須で内面底部や高台外面に圏線を描く。高台畳付は釉を掻き取る。

**42SX086 出土遺物**（Fig.28）

土師器

脚付皿（62） 脚は手捏ね成形され、欠損しているが三脚と推測される。色調は淡白橙色を呈する。全体的に磨滅する。

肥前系磁器

皿（63） 口径9.0cm。砂粒を含む白色の素地の内面に呉須で文様を描く。口縁端部は使用で釉が剥落する。

椀（64、65） 64は白色の素地に透明釉を施し、外面に薄青色で文様を描く。65は復元高台径4.0cm。微細な白色粒を含む素地で、外面には鮮やかな呉須のスタンプで文様を施し、内面にも文様と圏線を描き、全体にやや青味のある透明釉を施す。高台畳付は釉を拭き取る。近代以降。

花瓶（66） 白色の素地に、外面は深紺色で蛸唐草文を施す。内面は回転ナデで露胎。

仏飯器（67） 脚部で底径4.9cm。内面は露胎。外面は朱色で圏線を描き透明釉を施す。近代以降か。



瓦類

平瓦（68） 「平井瓦屋」の左字の文字瓦。焼成良好で灰色を呈する。

ガラス製品

目薬瓶（69） 高さ6.25cm,横2.9cm,厚さ1.7cm。体部に「大學目薬」「参天堂薬房」と陽刻している。現在の参天製薬株式会社製のもので、明治40年から大正2年の間で製造されていたものという。

**42SX033 茶灰色土出土遺物**（Fig.28）

土師質土器

擂鉢（70） 口縁部付近を肥厚させる。内面は5本/2cmの摺り目とナデ調整、外面は全体的に磨滅するが指頭圧痕を残す。胎土は0.1cm以下の白色砂粒を多く含み、暗黄茶色等を呈する。

瓦質土器

仏具（71） 裾部復元径は10.8cm。内面は回転ヘラケズリ後縦方向の工具痕を残す。外面はヨコナデのあと黒色に塗られていたようで、部分的にその痕跡を残す。上部は欠損し接合のために施した刺突痕が残る。胎土は微細な白色粒や茶色粒を多く含み、暗灰茶色を呈する。花立のようなものと推測される。

国産陶器（肥前系陶器）

皿（72） 口縁部が波形の皿で、胎土はやや粗く淡茶灰色を呈する。内外面に淡灰緑色釉を施し、全体に貫入が入る。唐津焼。

椀（73） 復元高台径6.8cm。胎土は精製され、淡灰色を呈する。内外面は淡緑灰色釉を施すが、白土を刷毛塗りし同心円状の文様をなす。高台畳付は露胎。釉との境目は茶褐色を呈する。朝鮮産の粉青沙器か。

肥前系磁器

椀（74） 灰白色の素地に透明釉を施し、内外面に暗青灰色で文様を描く。

瓦類

軒平瓦（75） 文様はかなり崩れた唐草文で、外区は上下とも珠文である。色調はやや明るい淡灰白色を呈する。

**42SX033 明茶色土出土遺物**（Fig.28）

土師質土器

湯釜（76） 内面は細いヨコハケ、外面は鍔より下は、細かいタテハケやナナメハケを施す。胎土は0.2cm以下の白色粒や微細な黒色粒や雲母を含み、淡灰黄色等を呈する。

擂鉢（77、78） 77は口縁部を肥厚させる。内面はナデのあと摺り目を施す。外面はナデ調整され、指頭圧痕を僅かに残す。胎土は砂粒を多く含み淡黄橙色を呈する。78は口縁部に向かって肥厚した体部で、内面はヨコハケの後摺り目を施す。外面は指頭圧痕とタテハケを施し煤が付着する。胎土は微細な砂粒や雲母を多く含み、暗灰茶色を呈する。

鉢（79～81） 79・80は口縁部を折り曲げ肥厚させる。内面は丁寧なナデ、外面は指頭圧痕が残り、全体に煤が付着する。胎土は0.1cm以下の白色砂粒や雲母を多く含み、淡橙灰色を呈する。80には内面にも一部煤が付着する。81は口縁部を折り曲げ肥厚させる。内面は丁寧なナデ、外面には指頭圧痕が残る。胎土は白色砂粒を多く含み橙色を呈する。

須恵質土器

壺（82） 丸い体部に口縁部を短く直上させる。外面はナナメハケ、内面はヨコハケの後ナデ調整される。口縁部はヨコナデ。焼成良好で淡明白色や灰色を呈する。

龍泉窯系青磁

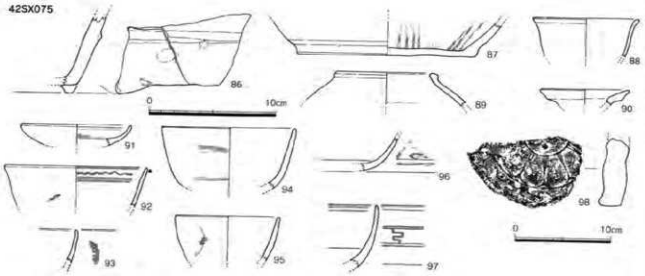



Fig. 29　第 42 次調査整地・堆積層出土遺物実測図④（1/3、98 は 1/4）

椀（83）　Ⅳウ類。釉は淡緑色で、高台内面の一部の釉を拭き取っている。

国産陶器

椀（84、85）　84 は高台ケズリ出しで、復元高台径 4.8cm。白色砂粒を多く含む淡橙色土の素地の内外面に淡灰茶色釉を施すが、外面下半および高台とその内面は露胎。唐津焼。85 は復元高台径 5.7cm。橙白色の素地の内外面に明茶色釉を施し、細かい貫入が入る。高台畳付は釉を掻き取っている。

**42SX075 出土遺物**（Fig. 29）

瓦質土器

火鉢（86）　底部に脚を貼付する。内面には指頭圧痕が僅かに残る。外面は磨滅し調整不明。胎土は白色砂粒を含むが精製されている。断面黒色で、内外面とも暗黄灰色を呈する。

土師質土器

擂鉢（87）　復元底部径 14.2 cm。外面は磨滅し調整不明。内面に 3 本 / cmで摺り目を施す。胎土は金雲母をやや多く含み、内面は茶褐色、外面は黄茶色を呈する。

国産陶器（肥前系陶器）

椀（88）　復元口径 8.4 cm。胎土は精製され黄白色を呈する。内外面とも白色に近い黄緑色釉を施し、細かい貫入が入る。唐津焼？。

土瓶（89）　復元口径 8.2 cm。口縁部に向かってすぼまり、口縁端部はやや肥厚させる。口縁端部上部は露胎。内面は僅かに光沢がある明茶色釉で、下半は露胎。外面はやや光沢のある暗茶色釉を施す。胎土は淡茶色を呈する。

壺（90）　口縁部を 2 段に作り、復元口径 7.1 cm。胎土は精製されているが金雲母を多く含む。内外面とも緑色釉を施す。

肥前系磁器

皿（91）　復元口径 8.8 cm。内外面に白青色釉を施し、内面には鮮やかな呉須で文様を施す。近代以降。

椀（92 ～ 97）　92 は復元口径 11.2 cm。内面上部に呉須で文様を描く。93 は外面に花文を施す。94 は復元口径 10.6 cm。胎土は淡灰色を呈する。外面には淡青色で文様を施す。内外面には大きな貫入が入る。95 は復元口径 8.2 cm。全面白青色に施釉され、外面に淡青色で草花文を施す。96 は外面に淡青色で文様を施す。97 は内外面とも薄青白色釉を施し、淡青色釉で内面圏線を、外面には文様を施す。

瓦類



軒丸瓦(98)　単弁素弁で、外区には唐草文状の流雲文が施される。周縁は磨滅するが素文とみられる。

**地盤およびトレンチ**

**42SX104 出土遺物**（Fig. 30）

土師器

椀（1）　口縁部をやや外反させる。焼成はやや不良で淡橙白色を呈する。調整は磨滅し不明。

瓦類

軒丸瓦（2）　外区に珠文があり、外縁は素文。色調は淡黄灰色や暗灰色を呈する。

丸瓦（3）　格子叩Ⅱ-B。焼成やや不良の土師質で暗黄橙色を呈する。

**灰褐色土出土遺物**（Fig. 30）

須恵器

坏 a（4）　復元底径 8.4cm。焼成良好で淡灰色を呈する。

土師器

坏 a（5）　底部は凸レンズ状になり、板状圧痕を残す。胎土は金雲母を多く含む。

脚付皿（6）　復元口径 11.8cm。全体的に摩滅し、脚は 1 ヶ所残存する。胎土は金雲母を多く含み、白黄色を呈する。

椀 c（7、8）　7 は底部端に高台を貼付し、復元高台径 8.2cm。黄白色を呈する。8 は高台径 8.6cm。やや丸い体部で暗黄色を呈する。

大椀 c（9）　復元高台径 10.5cm。摩滅するが内面は不定方向のナデのようだ。胎土は白色砂粒や金雲母を多く含み、暗黄褐色を呈する。

瓦類

軒丸瓦(11)　単弁 - 重弁 - 複子葉弁。蓮子は 1+6 で、沈線で作る。表面はやや全体的に変形している。色調は淡灰色を呈する。

平瓦（10）　格子叩Ⅱ-C。

**42SX070 黒灰色土出土遺物**（Fig. 30）

須恵器

蓋 c（12）　外面回転ナデ、内面ナデ調整。色調は淡灰色を呈する。13 とは同一個体の可能性がある。

蓋 3(13)　口縁端部を僅かに曲げている。復元口径 13.8cm。外面上部はナデ調整、内面上部はナデ調整、それ以外は回転ナデ。色調は淡灰色を呈する。

坏 a（14）　復元口径 13.0cm。内外面とも回転ナデ。焼成良好で色調は淡灰色を呈する。

坏 c（15 ～ 18）　15 は復元口径 12.9cm。底部はヘラ切り後未調整で低い高台を貼付する。焼成良好で灰色を呈する。16 は復元口径 14.9cm。底部端に低い高台を貼付する。底部内外面ともナデ調整、体部は回転ナデ。色調は灰色を呈する。17 は底部端に方形高台を貼付する。復元高台径 12.2cm。18 は低い高台を貼付し復元高台径 8.0cm。底部内外面ともナデ調整、体部は回転ナデ。色調は淡灰色を呈する。

鉢（19）　胎土は 0.05cm 以下の白色砂粒を含むが精製され、灰褐色を呈する。内外面とも回転ナデ。東播系。

土師器

坏 a（20、21）　2 点とも磨滅し調整不明。胎土は金雲母を多く含み、色調は白黄色を呈する。

椀 c（22、23）　22 は高台径 6.8cm。色調は白黄色を呈する。内外面磨滅。23 は復元高台径 10.8cm。色調は淡橙色を呈する。

黒色土器

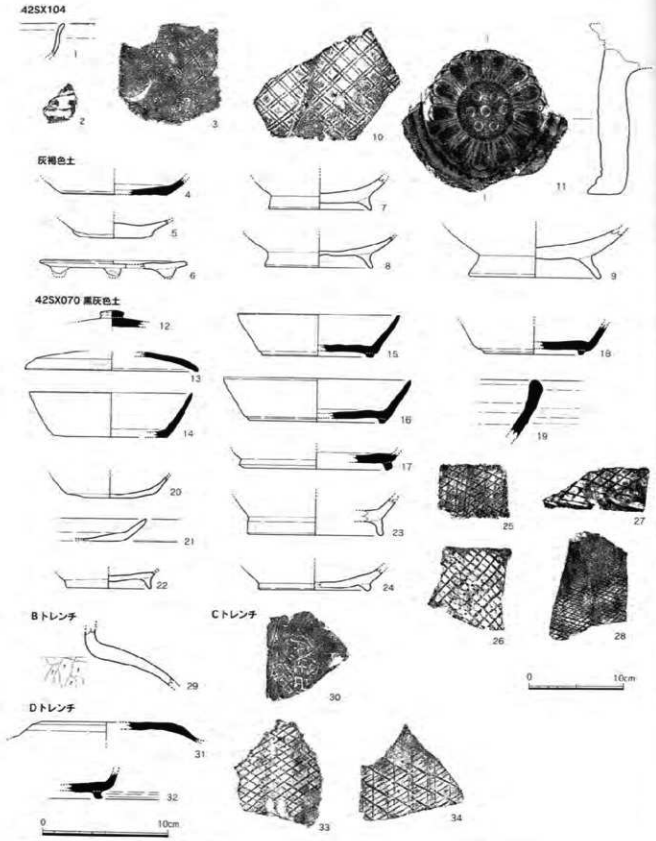



Fig. 30　第42次調査基盤層・トレンチ出土遺物実測図（1/3、瓦は1/4）

椀c（24）　復元高台径9.0cm。内面にミガキcがあるが殆んど磨滅する。

瓦類

平瓦（25、26）　2点とも格子叩I-C-b。色調は白灰色や黄白色を呈する。



丸瓦(27、28)　27は格子叩I-C-b。色調は灰茶色を呈する。28は格子叩I-C-a。色調は淡灰茶色を呈す。

**Bトレンチ出土遺物**（Fig. 30）

土師器

壺（29）　体部内面はヘラケズリ、外面磨滅。頸部内外面はヨコナデ調整。胎土は0.4cm以下の白色砂粒を多く含み、橙褐色を呈する。

**Cトレンチ出土遺物**（Fig. 30）

瓦類

平瓦（30）　格子叩B-aに「平井瓦」を施す文字瓦。

**Dトレンチ出土遺物**（Fig. 30）

須恵器

蓋（31）　外面上半部は回転ヘラ切り未調整。内面上部は不定方向のナデ、それ以外は回転ナデ。焼成良好で色調は灰色を呈する。

坏c（32）　若干外に跳ねた高台を貼付する。内面底部は不定方向のナデ、外面底部は回転ヘラケズリ後ナデ、体部は回転ナデ調整。色調は灰褐色を呈する。

瓦類

平瓦（33）　格子叩I-C-b。色調は内外面が黄白灰色で、芯部分は黒色を呈する。

丸瓦（34）　格子叩I-D。色調は淡黄灰色を呈する。

**遺構検出時出土遺物**

**茶色土出土遺物**（Fig. 31）

土師器

小皿a(1～5)　復元口径7.2～7.8cm。底部切り離しは2が不明瞭だが、それ以外は回転糸切りである。色調は橙灰色を呈する。

坏a(6～10)　復元口径12.0～12.2cm。底部切り離しは回転糸切りである。7･8は体部に丸味を持つ。

瓦質土器

脚部（11）　花立のような仏具の脚部と推測される。復元裾部径は9.6cm。胎土は微細な砂粒を多く含み淡灰茶色を呈する。内外面ともヨコナデ調整。

鉢(12)　外面はヘラケズリ後ナデ、内面はヨコハケを施す。胎土は砂粒を多く含み、暗灰茶色を呈する。

龍泉窯系青磁

皿（13）　白灰色の素地に淡緑色釉を施す。内面に双魚文のような文様がうっすら確認できる。Ⅳ類。

瓦類

平瓦（14、15）　14は格子叩I-C-eの斜格子で、「小口瓦」の文字瓦。淡灰色を呈する。15は格子叩I-C-eで、格子には四葉文を施している。色調は暗灰色を呈する。

瓦玉（16、17）　16は大きさ2.5×2.9cm、厚さ1.9cm。17は大きさ3.25×3.4cm、厚さ1.7cm。

金属製品

飾金具（18）　全体的に錆で緑青色を呈する。内面には何かを挟んだ抉り込みがあり、上部の突出部には0.4cm程の円孔が穿たれている。縦4.2cm、幅4.4cm。

**茶褐色土出土遺物**（Fig. 31）

土師質土器

播鉢（19）　口縁部から内面にかけて煤が付着する。外面は指頭圧痕が残る。

火鉢×釜（20）　貧弱な突帯を貼付する。胎土は精製され、内面の一部にヨコハケがあり、それ以外

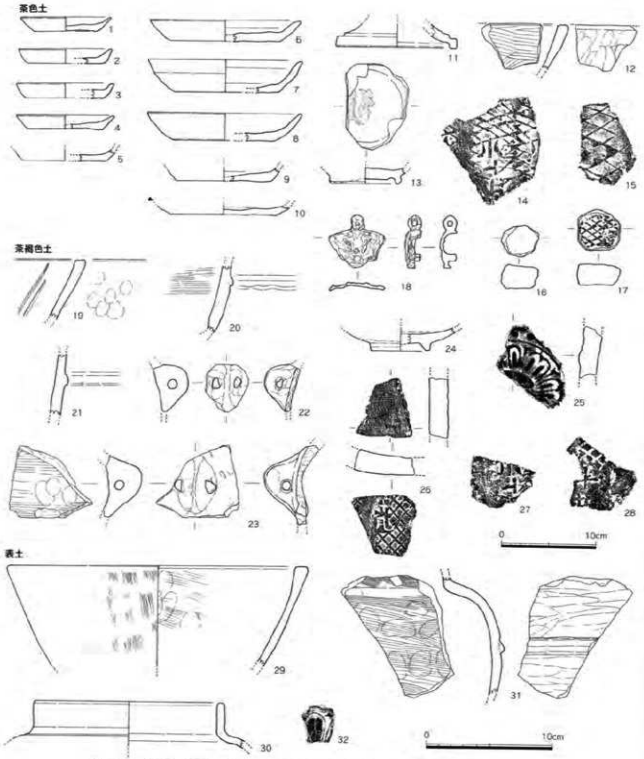



**Fig. 31　第 42 次調査遺構検出土層・表土出土遺物実測図（1/3、瓦は 1/4）**

はナデ調整。外面は灰黒色を呈する。

火鉢（21）　胎土は精製され、内面ナデ、外面は磨滅する。内外面とも淡い灰色を呈する。

湯釜（22、23）　湯釜の耳部分で、22 の内面は磨滅するが耳はナデ成形され、0.7cm 程の円孔を穿つ。茶褐色などを呈する。23 は内面指頭圧痕とヨコハケで、耳はナデ成形される。耳には 0.7cm 程の円孔を穿つ。色調は黄灰色や灰褐色を呈する。

国産陶器

皿（24）　高台ケズリ出しで、復元高台径 4.8cm。内外面には黄白色の素地に茶褐色釉を施し、内面



底部は釉を輪状に掻き取る。高台とその内面は露胎である。

瓦類

軒丸瓦（25）　複弁で外区には珠文を巡らす。焼成良好で暗灰色や淡灰黄色を呈する。

平瓦（26～28）　26 は格子叩 1-B-b で、「平井瓦」の陰刻をした文字瓦。27 は「小□瓦」の文字瓦。28 は格子叩 1-F で、「平井」の文字瓦。色調は灰黄色や茶褐色を呈する。

**表土出土遺物**（Fig. 31）

土師質土器

鉢（29）　復元口径 24.0cm。外面は細かいタテハケ、内面は指頭圧のあとナナメハケ。胎土は 0.3cm 以下の白色砂粒を多く含み淡橙色を呈する。

湯釜（30、31）　30 は復元口径 15.2cm。焼成良好で淡黄灰色や暗灰茶色を呈する。頸部内外面はヨコナデで、頸部下に沈線を巡らす。31 は外面ミガキ c、内面は指頭圧のあとヨコハケ。頸部内面は細かいヨコハケ。焼成良好で灰茶色を呈する。

瓦類

軒丸瓦（32）　単弁重弁の複子葉弁。焼成良好で色調は淡茶灰色を呈する。

## (5) 調査まとめ

◎土地の変遷

今回の調査地の時期変遷を以下のように推測する。

①9 世紀中頃の堆積層できる。

↓

②11 世紀後半頃に整地し、基壇を伴う建物を建築

↓

③12 世紀中～後半に基壇東側埋没。建物も荒廃か？

↓

④その後に礎石建物を再建。

↓

⑤礎石建物は 13 世紀中頃以降、遅くても 14 世紀までには廃絶

↓

⑥その後基壇西側が流出もしくは削平される。

↓

⑦17 世紀前半に整地し耕地化。

↓

⑧近代に耕地の拡幅を経て現在に至る。

①については、調査区中段の基壇下層にある SX070 から 9 世紀中頃前後までの遺物が出土する。ほとんど未調査であるが、傾斜した堆積状況を示している。堆積層としたのは、調査地で 9 世紀後半～11 世紀中頃の遺物がほとんど見られないことから、整地を行い、建物を建てるなど、人が活動した可能性が低いと考えたためである。炭を多く含んでいたため、9 世紀中頃に火災や焼却など大規模な事象があったものと推測される。それ以前に建物があったかどうかは不明である。

②は、確認範囲が狭いため、不明瞭の部分が多い。約 2 世紀にわたって活動の痕跡がなかったが、久

しぶりに活動痕跡がみられることである。中段で平安後期埋没のSK055が検出された。これはSB001の建物の復元範囲に入っており、平安後期には建物はなかったことを意味し、築造直前の遺構と推測される。また、基壇の南東付近で平安後期の整地層がある。この整地は基壇裏側に当たるため、この整地の時期に基壇を伴う建物が造られたと推測した。

③④については、基壇東側のSX030に多量の土師器片が埋没している。その埋没時期が12世紀中頃～後半である。また、SX030の埋土に基壇の石材と同様の大きさの石が多くみられ、基壇が崩落していたことを物語っている。現存する礎石下の溝状遺構（SX101・114・116）から、遺物量は少ないが、12世紀代の遺物が出土する。これらのことから先代の礎石を掘り返し、据え直した結果と考えている。おそらく基壇については、東側は埋没していたであろう。

⑤については、上段で検出された土坑（SX059など）が、建物廃絶後の土坑と推測され、それらの出土遺物が、13世紀中頃～14世紀であること。その後の出土遺物が少ないことなどからも、この頃以降に人の活動はほとんどなかったと推測する。

⑥は、SX037で基壇が削平されているが、その範囲が不定形であり、SX037の整地下層で耕作土などは見つかっていないため、この場所で何かを行ったというより、自然流出もしくは採土によるものと推測される。

⑦は、SX033・037など大規模に整地が行われている。出土遺物から17世紀前半であることから、耕地化については弘治3（1557）年大友宗麟が行った検地の影響があったのかもしれない。ただ、この整地に際しては大石を含む多量の礫が投じられているのに対し、なぜか現在も残る礎石が除去されずに残されている。また、SX050などは基壇に平行するように石垣が造られているため、SX033・037はもちろん、SX089を整地した頃は身舎の礎石や基壇の一部が残っていて、それが何を意味するものか理解されていて意図的に残された可能性もある。しかし、中段が現在の形状になったと推測される近代には、礎石の意味より、農地の方が重要だったのかもしれない。

⑧は、SX025やSX015の石垣を造り耕地拡大を図り、中段部の北側を拡大している。時期はその背後から出土する遺物から近代以降と推測される。特にSX005やSX010の石垣が近世の耕地と異なる方向で形作られている。それら石積みと調査区北側の高石垣が平行するため、同時に造られたか、先行して造られていたどちらかを踏襲して造られたものだろう。

◎建物について

建物については、前述のとおり2時期あることを想定した。よって、この地には11世紀後半～14世紀代に建築物があったと推測されることから、文献に「大山寺」や「有智山寺」と記載されていた時期の建物とみられる。これらの建物の建築年代や規模については、未調査部分も多く、今回の報告では数少ない状況証拠から導き出した結果が多いため、先々再調査等によって、より明確な結果が得られるものと考える。

建物の用途については、当時の記録に残されていないため不明だが、江戸時代前期の『竈門山旧記』には「大塔、金堂、鐘楼、大講堂、僧房、食堂、文庫、経蔵、神社伽藍所々其跡猶存せり」と記されており、宝満山の各所に伽藍が広がっていたことがわかる。調査地が小字「大門」という所に位置するが、構造的に門でないことは明らかである。しかし、宝満山の入口で脊振山系が見渡せるこの場所を選地し、建てられた建物は重要な用途であったことは間違いないだろう。また、この地が耕地化された17世紀前半には礎石が何を意味するのか認識されていた可能性もあることから、『竈門山旧記』に記された建物のひとつであった可能性は十分考えられるだろう。



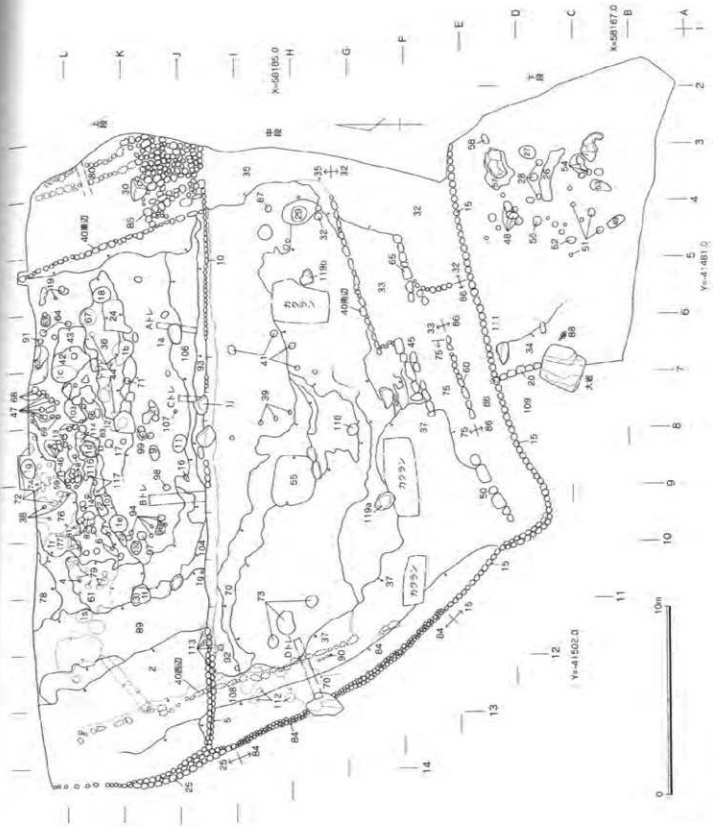



Fig. 32　第42次調査遺構略測図（1/200）

## 表1　第42次調査遺構一覧表

| S-番号 | 遺構番号 | 種別 | 埋土ほか | 施工時期 | 埋没時期 | 地区 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 42SB001 | 礎石建物 | 現存礎石は最終建築物のもの。 | 12世紀中頃 | 14世紀頃存続 | 上段 |
| 2 | 42SX002 | 整地 | 上段西側の整地、S-89→2 | 近代 | | 上段西側 |
| 3 | 42SB001f | 礎石抜き取り痕 | 暗灰色土　現代の撹乱 | | | J10 |
| 4 | | ピット | | | | K10 |
| 5 | 42SX005 | 石垣 | S-2に伴うもの | 近代 | | I11～13 |
| 6 | | ピット群 | | | | K9・10 |
| 7 | | ピット | 炭混じり | | | K9・10 |
| 8 | | ピット群 | | | | K8 |
| 9 | 42SX009 | 土坑 | 灰褐色土 | 14世紀以降 | | J8 |
| 10 | 42SX010 | 石垣 | | 近代 | | I4～6 |
| 11 | | 土坑 | 茶灰色土 | | 近世 | J8 |
| 12 | | 撹乱 | 灰色土（耕作土） | | 近現代 | K7 |
| 13 | | ピット群 | | | | K7・8 |
| 14 | | ピット群 | | | | K8・9 |
| 15 | 42SX015 | 石垣 | | 近代 | | 中段 |
| 16 | | ピット | | | | I8 |
| 17 | | ピット | | | | K8 |
| 18 | 42SB001m | 礎石抜き取り痕 | 黒灰色土入り　現代の撹乱 | | | K5 |
| 19 | | ピット群 | 灰色土（耕作土） | | 近現代 | L5 |
| 20 | 42SX020 | 石列 | S-20→15 | 13世紀代？ | 近世？ | C6・D7 |
| 21 | | 土坑 | | | | J7 |
| 22 | | 土坑 | 炭混じり　S-101の一部か？ | | | B9 |
| 23 | | 土坑 | 炭混じり　S-101の一部か？ | | | K10 |
| 24 | | 撹乱 | 暗灰色土 | | | K5 |
| 25 | 42SX025 | 石垣 | | 近代 | | 上段 |
| 26 | | 溝 | | | 平安前期？ | C3 |
| 27 | | 土坑 | | | 平安前期？ | C3 |
| 28 | | ピット群 | | | 奈良時代？ | C3 |
| 29 | | 土坑 | | | 平安後期？ | G4 |
| 30 | 42SX030 | 石敷と窪み | | | 12世紀中頃～後半 | JK3 |
| 31 | | ピット | | | 中世後期 | G4 |
| 32 | 42SX032 | 段落ち | | | 17世紀代 | EFG3～5 |
| 33 | 42SX033 | 整地 | 礫の投げ込み | 17世紀前半 | | F4～6 |
| 34 | 42SX034 | 整地 | SX020の裏込め | 13世紀代？ | | C6 |
| 35 | 42SX035 | 窪み | S-30の南側、同一のもの | | 12世紀中頃～後半 | H13 |
| 36 | 42SX036 | 窪み | 灰色土 | | 中世 | K5～7 |
| 37 | 42SX037 | 整地 | 基壇西側削平後の整地、SX045西側で近代遺物あり。 | 17世紀前半 | | 中段西側 |
| 38 | | ピット群 | | | | L9 |
| 39 | 42SX039 | ピット群 | | | 17世紀 | H7 |
| 40 | 42SX040 | 基壇 | 基壇の石積み | 11世紀後半？ | 近世初期（最終埋没） | 上段・中段 |
| 41 | | ピット群 | | | | H6 |
| 42 | | 土坑 | 黄茶色土 | | 近世～ | G6 |
| 43 | | 土坑 | 炭混じりの暗灰色土、S-43→42 | | | G6 |
| 44 | | ピット群 | S-36の下 | | | G6・7 |
| 45 | 42SX045 | 石段 | | | | EF6・7 |
| 46 | | ピット群 | | | | L8 |
| 47 | | ピット群 | | | | L7 |
| 48 | | ピット群 | | | 平安 | D4 |
| 49 | | 土坑 | | | 平安時代 | B4 |
| 50 | 42SX050 | 石積み | | 近世 | 近代 | B8・9 |
| 51 | | ピット群 | | | 平安 | B4 |
| 52 | | ピット | | | | C4 |
| 53 | | 土坑 | | | | B3 |
| 54 | | ピット群 | | | 平安 | B3 |
| 55 | 42SK055 | 土坑 | 炭混じり、礫多い | | 平安後期埋没 | B9 |
| 56 | | ピット | | | | C4 |
| 57 | | 土坑 | | | 平安 | B3 |
| 58 | | ピット | | | | B2 |
| 59 | 42SX059 | 土坑 | 灰茶色土 | | 14世紀～ | L8～10 |
| 60 | 42SX060 | 石列 | | 近世？ | | DE6・7 |



| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 61 | 42SX061 | 窪み | 灰茶色土 | | 13世紀後半～ | JK10 |
| 62 | 42SK062 | 土坑 | | | 平安前期 | I6 |
| 63 | 42SB001n | 礎石抜き取り痕 | | | | L6 |
| 64 | | ピット群 | 撹乱？ | | | L6 |
| 65 | 42SX065 | 石積み | | 17世紀前半頃？ | 江戸時代？ | BF4・5 |
| 66 | | ピット群 | | | | K7 |
| 67 | | 土坑 | S-26の下 | | | K6 |
| 68 | | ピット群 | | | 平安～ | L7 |
| 69 | | ピット群 | | | | L7 |
| 70 | 42SX070 | 堆積層（整地？） | 中段の炭混じり層 | | 9世紀中頃前後 | 中段 |
| 71 | | ピット | | | | J7 |
| 72 | 42SX072 | ピット群 | S-59の下 | | | I8・9 |
| 73 | | 土坑群 | 灰色土 | | | GH11 |
| 74 | | 土坑 | | | | L8 |
| 75 | 42SX075 | 溝 | 砂層　S-45とS-66の間 | 江戸後期 | 近代 | E6・7 |
| 76 | 42SX076 | 土坑 | 礫あり、S-59の下 | | | L9 |
| 77 | 42SB001r | 礎石抜き取り痕 | 礫多い。 | | | L10 |
| 78 | | 土坑 | 礫多い | | | L10・11 |
| 79 | 42SX079 | ピット群 | S-61の下 | | 13世紀以降 | K10 |
| 80 | 42SX080 | 石列 | 2列、S-30内 | 平安時代 | 12世紀中頃～後半 | K3・L3 |
| 81 | | ピット群 | S-59の下 | | | K10 |
| 82 | | ピット群 | | | | K9 |
| 83 | 42SX083 | 土坑 | S-14がS-83の上に載っている。S-114・116の上面 | | 12世紀？ | K8 |
| 84 | 42SX084 | 礫堆積層 | 法面に礫層露出。 | 16～17世紀 | | GH12・13 |
| 85 | 42SX085 | 石段？ | | 平安 | 12世紀中頃～後半 | LM4 |
| 86 | 42SX086 | ウラゴメ | S-15のウラゴメと同一 | 近代～ | | D6～9 |
| 87 | | ピット | | | | H4 |
| 88 | 42SX088 | 石敷？ | | | | C6 |
| 89 | 42SX089 | 整地 | 石敷、S-1削平、S-2灰褐色土でも取上げ | 17世紀～ | | I～L・10～12 |
| 90 | 42SX090 | 石段？ | | | | G12 |
| 91 | | ピット | | | | L6 |
| 92 | | ピット | | | | I11 |
| 93 | 42SX093 | 整地 | 灰色土（耕作土？） | 近代～ | | I4～8 |
| 94 | | ピット群 | | | | J9 |
| 96 | | ピット | | | 平安 | J9 |
| 97 | | ピット | | | | J9 |
| 98 | | ピット | 灰色粘土 | | 近世～ | J9 |
| 99 | | ピット群 | | | 12世紀～ | I8 |
| 101 | 42SX101 | 土坑 | 溝状 | | 12世紀 | K8～10 |
| 102 | 42SX102 | ピット | | | 13世紀中頃前後 | J10 |
| 103 | 42SX103 | ピット | | | 平安後期～鎌倉時代 | K7 |
| 104 | 42SX104 | 整地層？ | 灰色土 | 平安 | | I10 |
| 106 | | 整地層 | 明灰茶色土 | | 平安？ | I4～9 |
| 107 | | ピット | | | | J7 |
| 108 | 42SX108 | 堆積層 | S-46西辺直上の整地 | | 16世紀 | GH12 |
| 109 | | 堆積層 | S-26の西側 | | 19世紀～現代 | CD7 |
| 111 | | 堆積層 | S-15の下 | | 江戸中期～ | 中段 |
| 112 | | ピット群 | 明灰色土 | | | H12 |
| 113 | | ピット群 | | | | I11 |
| 114 | 42SX114 | ピット群 | 炭混じり灰茶色土、S-83の下、S-116と同一？ | | 12世紀？ | K8 |
| 116 | 42SX116 | 土坑？ | 炭混じり灰茶色土、S-83の下、S-114と同一？ | | 12世紀～ | K8 |
| 117 | | ピット群 | | | 平安～ | K8 |
| 118 | | ピット | 礎石抜き取り？ | | | F7・8 |
| 119 | | 礎石？ | 礼堂の可能性のある礎石2個 | | | F9・G5 |
| 黄茶色土 | | 整地 | S-89の下層、古い遺物含む。 | | | 上段西側 |
| 灰褐色土 | | 堆積層（整地） | | | 11世紀後半頃 | 中段 |

## 表2　第42次調査出土遺物一覧表

5-1b

| | |
|---|---|
| 土師器 | 破片 |
| 瓦類 | 破片 |

5-1c

| | |
|---|---|
| 土師器 | 坏、小皿a |
| 瓦類 | 平瓦(格子)、丸瓦(格子)、破片 |

5-1d

| | |
|---|---|
| 瓦類 | 破片 |

5-1e

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 壺?、坏、甕? |
| 土師器 | 坏、破片 |

5-2褐色土

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 破片 |
| 土師器 | 椀c、破片 |
| 国産陶器 | [illegible] |
| 瓦類 | 平瓦(格子、無文) |

S-60
上 胴 器破片

S-62
上 胴 器破片
孔 輪 鍔丸孔

S-66
上 脚 器肘
孔 脚 平孔(縦目,無文)

S-69
上 脚 器肘
孔 脚 平孔(格子,無文)

S-70(脚部色土
胴 部 器(), 鍔, 肘, $Fe_2O_3$, $MnO_2$, 煙, 鍔, 鍔片
上 脚 器$Fe_2O_3$, $MnO_2$, 煙, 鍔, 鍔片
焦 色 土 器 土器
孔 脚 平孔(縦目, 格子); 孔 鍔(縦目, 格子), 斜丸孔

S-71
上 胴 器破片

S-72
上 胴 器$Fe_2O_3$(), 破片
孔 脚 平孔(格子,破片)

S-73
胴 部 器$Fe_2O_3$, 破片
上 胴 器破片
孔 脚 鍔破片

S-74
上 胴 器肘, 破片
孔 脚 平孔

S-75
胴 部 器鍔, 鍔), $Fe_2O_3$, 煙
上 脚 器$Fe_2O_3$, $Fe_2O_3$, 破片
焦 色 土 器 土器片
上 脚 胴 土 器 鍔鉄, 鉄?
孔 胴 土 器 丸鉄
鍔 脚 系 鍔 器 鍔, 破片
鍔 部 鍔 器 鍔, 鍔, 土器
焦 鍔 系 脚 鍔 鍔(-1(), B-6()
鍔 鍔 系 脚 鍔 鍔 $S-1-1()$
孔 鍔 平孔(鍔目, 格子), 丸孔, 斜丸孔
上 鍔 器 土器

S-76
胴 部 器鍔
上 脚 器肘, 小器$_{Al}$, 破片
孔 胴 土 器 鉄
孔 鍔 平孔(格子,無文)

S-77
上 脚 器肘, $Fe_2O_3$, 破片
孔 鍔 平孔(縦片)

S-78
胴 部 器肘, 破片
上 脚 器肘, $Fe_2O_3$(()), 小器$_{Al}$(()), 鍔片, 破片
白 鍔 鍔()
孔 鍔 平孔(鍔目, 格子, 無文)
石 鍔 器石器
土 鍔 器鍔?

S-79
上 脚 器肘, $Fe_2O_3$(()), 小器$_{Al}$(()
孔 鍔 平孔(鍔目, 格子)

S-80
上 脚 器肘, 小器$_{Al}$
孔 鍔 平孔(格子,無文)

S-80裏
胴 部 器破片
上 脚 器肘, 丸孔肘, 鍔
白 鍔 鍔, $B-1a()$
孔 鍔 平孔(格子,無文), 丸孔(格子), 斜丸孔
土 鍔 器鍔()

S-81
上 脚 器肘, $Fe_2O_3$
孔 鍔 平孔(格子,無文)

S-82
胴 部 器破片
上 脚 器肘, 鍔片
孔 鍔 鍔片

S-83
胴 部 器破片
上 脚 器肘, 鍔, 破片
孔 鍔 平孔(格子) 破片

S-84
胴 部 器鍔, 肘, $Fe_2O_3$, 破片
上 脚 器肘, $Fe_2O_3$, 小器$_{Al}$, 破片
上 脚 胴 土 器 鍔鉄, 鉄, 鍔
孔 胴 土 器鍔鉄
鍔 鍔 系 脚 鍔 $I-2()$, $B'()$
白 鍔 鍔, 鍔()), 破片(), 器()
鍔 脚 系 鍔 器 鍔, 破片
鍔 鍔 器 鍔, 鍔, 鍔, 鍔
孔 鍔 平孔(鍔目, 格子, 無文), 丸孔(格子), 斜平孔

S-85
胴 部 器肘, 破片
上 脚 器肘, 小器$_{Al}$, 破片
孔 鍔 平孔(格子,無文)

S-86
胴 部 器破片
上 脚 器肘, 丸孔肘, 鍔
白 鍔 鍔, $B'-1a()$
孔 鍔 平孔(格子,無文), 丸孔(格子), 斜丸孔
土 鍔 器鍔()

S-87
胴 部 器肘, 破片
上 脚 器肘, $Fe_2O_3$
孔 鍔 平孔(格子,無文)

S-88
胴 部 器鍔, 肘, $Fe_2O_3$, 破片
上 脚 器肘, $Fe_2O_3$, 小器$_{Al}$, 破片
上 脚 胴 土 器 鍔鉄, 鉄, 鍔
孔 胴 土 器鍔鉄
鍔 鍔 系 脚 鍔 $I-1()$, $B'()$
白 鍔 鍔, 鍔()), 破片(), 器()
鍔 脚 系 鍔 器 鍔, 破片
孔 鍔 平孔(鍔目, 格子, 無文), 丸孔(格子), 斜平孔

S-90
胴 部 器鍔, 肘, $Fe_2O_3$, 破片
上 脚 器肘, 小器$_{Al}$, 破片
孔 鍔 平孔(鍔目, 格子, 無文), 丸孔(無文)
石 鍔 器石器
金 属 製 品鉄片
そ の 他 白磁器

S-97
孔 鍔 平孔

S-98
胴 部 器鍔, 破片
上 脚 器破片

S-99
上 脚 器肘, 破片
孔 鍔 平孔(縦目, 格子)

S-100
胴 部 器鍔, 破片
上 脚 器破片
孔 鍔 鍔破片

S-101
上 脚 器肘, $Fe_2O_3$, 鍔()

S-102
胴 部 器鍔破片
上 脚 器肘, $Fe_2O_3$, 小器$_{Al}$
孔 鍔 鍔破片

S-103
胴 部 器鍔破片
上 脚 器肘, 小器$_{Al}$, 破片
孔 鍔 平孔(無文)

S-104
胴 部 器鍔, 肘, $Fe_2O_3$, 煙
上 脚 器肘, $Fe_2O_3$, 鍔(), 破片
焦 色 土 器 土器片
焦 部 鍔 器鍔片
孔 鍔 平孔(鍔目, 格子), 丸孔(格子, 無文), 斜丸孔

S-106
上 脚 器鍔(), 破片
上 脚 胴 土 器鍔鉄
中 国 陶 器破片()
孔 鍔 平孔(鍔目, 格子), 丸孔(無文), 破片

S-107
上 脚 器破片

S-108
胴 部 器鍔, 鍔, $Fe_2O_3$, 煙, 鍔
上 脚 器肘, $Fe_2O_3$, 丸孔肘, 鍔(), 小器$_{Al}$, 鍔, 破片
鍔 鍔 系 脚 鍔 鍔 $I-1a()$
孔 鍔 平孔(鍔目, 格子, 無文), 丸孔(無文), 丸孔



S-109
胴 部 器鍔, 肘, $Fe_2O_3$, 煙, 破片
上 脚 器肘, $Fe_2O_3$, 小器$_{Al}$, 煙, 破片
上 脚 胴 土 器鍔鉄, 鍔
孔 胴 土 器小鉄
中 国 陶 器 $I-1a()$
鍔 脚 系 鍔 器 鍔, 破片
国 産 陶 器鍔鉄, 破片
国 産 鍔 器鍔, 小鍔, 鍔
孔 鍔 平孔(鍔目, 格子, 無文), 丸孔(格子)
金 属 製 品鉄片

S-110
胴 部 器破片
上 脚 器肘, 小器$_{Al}$
孔 鍔 平孔(格子,無文)

S-111
胴 部 器破片
上 脚 器肘, 丸孔肘, 小器$_{Al}$, 鍔
白 鍔 鍔, $B'-1()$
鍔 脚 系 鍔 器鍔, 破片
国 産 陶 器鍔鉄
国 産 鍔 器鍔, 小鍔, 破片
孔 鍔 平孔(鍔目, 格子, 無文), 丸孔(格子)
金 属 製 品鉄片
石 製 品丸玉

S-112
胴 部 器鍔
上 脚 器鍔, 破片
鍔 脚 系 鍔 器鍔, $I-1()$
孔 鍔 平孔(格子), 丸孔(鍔目, 格子)

S-113
上 脚 器肘, 破片
孔 鍔 鍔片

S-114
上 脚 器小器$_{Al}$, 破片

S-116
上 脚 器肘, $Fe_2O_3$, 小器$_{Al}$
孔 鍔 平孔(格子,無文)

S-117
上 脚 器肘, 破片

S-118
胴 部 器肘, $Fe_2O_3$
上 脚 器肘, $Fe_2O_3$, 鍔, 破片
孔 鍔 平孔(格子,無文)

S-119
胴 部 器肘, $Fe_2O_3$
上 脚 器肘, $Fe_2O_3$, 鍔, 鍔
孔 鍔 平孔(格子)

黒褐色土
鍔 部 器石
上 脚 器肘, $Fe_2O_3$, 鍔白, 破片
孔 鍔 平孔(鍔目, 格子, 無文), 丸孔(格子)

暗黒色土
鍔 部 器鍔, 鍔, 肘, $Fe_2O_3$, 煙, 鍔
上 脚 器肘, $Fe_2O_3$, 丸鍔, 鍔, 鍔, 鍔, 破片
焦 色 土 器 土器片
上 脚 胴 土 器鍔鉄
鍔 脚 系 脚 鍔 $B-1a()$
白 鍔 鍔片()
鍔 脚 系 鍔 器鍔片
孔 鍔 平孔(鍔目, 格子, 無文), 丸孔(格子, 無文), 丸孔
金 属 製 品鉄片

灰黒色土
上 脚 器鍔()
孔 鍔 丸孔(無文)

黒黒色土
鍔 部 器鍔, 肘
上 脚 器肘, $Fe_2O_3$, 鍔, 小器$_{Al}$, 鍔
焦 色 土 器 土器
区 画 溝 器鍔
鍔 脚 系 脚 鍔 $I-1()$
鍔 脚 系 脚 鍔 鍔 $I-1a()$
孔 鍔 平孔(鍔目), 丸孔(格子)

区画溝
鍔 部 器肘, 鍔
上 脚 器肘, 鍔, 鍔, $Fe_2O_3$, $Fe_2O_3$, 鍔, 鍔
孔 鍔 平孔(鍔目, 格子, 無文), 丸孔(格子), 斜丸孔
金 属 製 品鉄片

区画溝
鍔 部 器肘, 鍔
上 脚 器肘(()), $Fe_2O_3$(()), 丸孔$Fe_2O_3$, 小器$_{Al}$
孔 鍔 平孔(鍔目, 格子, 無文), 丸孔(格子, 無文), 斜丸孔, 丸孔

黒色土
鍔 部 器鍔, 鍔, 肘, $Fe_2O_3$, 鍔, 鍔, 鍔
上 脚 器肘, $Fe_2O_3$, 小器$_{Al}$, $Fe_2O_3$, 丸孔$Fe_2O_3$, 鍔, 鍔, 鍔片
焦 色 土 器 土器
焦 色 土 器 土器
上 脚 胴 土 器 鉄
上 脚 胴 土 器 鉄 先 ?, 鉄
鍔 脚 系 鍔 器鍔 $B'-1()$
鍔 脚 系 鍔 器鍔, $B-1a()$, 鍔 $B'-1()$, 鍔片()
白 鍔 鍔, 鍔()), 小鍔()) 白磁破片()
中 国 陶 器鍔破片()
鍔 脚 系 鍔 器鍔, 破片
国 産 陶 器 $S-2b$ ?, 鍔, 破片
国 産 鍔 器鍔, 小鍔, 鍔
孔 鍔 平孔(鍔目, 格子, 無文), 丸孔(格子, 無文), 斜丸孔
金 属 製 品鉄片
そ の 他石英

黒土
鍔 部 器鍔()
上 脚 器肘, $Fe_2O_3$(()), $Fe_2O_3$(()), 丸孔$Fe_2O_3$, 小器$_{Al}$
鍔 脚 系 鍔 器鍔破片
孔 鍔 平孔(鍔目, 格子, 無文), 丸孔(格子, 無文), 斜丸孔, 丸孔

黒色土
鍔 部 器鍔, 鍔, 肘, $Fe_2O_3$, 鍔, 鍔, 鍔
上 脚 器肘, $Fe_2O_3$, 小器$_{Al}$, $Fe_2O_3$, 丸孔$Fe_2O_3$, 鍔, 鍔, 鍔片
焦 色 土 器 土器
焦 色 土 器 土器
上 脚 胴 土 器 鉄
上 脚 胴 土 器 鉄 先 ?, 鉄
鍔 脚 系 鍔 器鍔 $B'-1()$
鍔 脚 系 鍔 器鍔, $B-1a()$, 鍔 $B'-1()$, 鍔片()
白 鍔 鍔, 鍔()), 小鍔()) 白磁破片()
中 国 陶 器鍔破片()
鍔 脚 系 鍔 器鍔, 破片
国 産 陶 器鍔鉄
国 産 鍔 器鍔, 小鍔, 鍔, 鍔, 鍔
孔 鍔 平孔(鍔目, 格子, 無文), 丸孔(格子, 無文), 斜平孔, 斜丸孔
鍔, 孔, 丸孔
金 属 製 品鉄片
そ の 他石英

ストレンチ
鍔 部 器肘
上 脚 器破片
孔 鍔 鍔破片

ストレンチ
上 脚 器肘, 鍔, 鍔, 破片

ストレンチ
上 脚 器肘, $Fe_2O_3$, 小器$_{Al}$, 破片
孔 鍔 平孔(格子), 破片

ストレンチ
鍔 部 器鍔, 肘, 鍔, 破片
上 脚 器肘, $Fe_2O_3$, 破片
孔 鍔 平孔(鍔目, 格子), 丸孔(格子)

## 表3　第42次調査　須恵器・土師器・黒色土器・瓦器供膳具計測表

A：内底ナデ　B：板状圧痕

S-9

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | イト | B-001 | Fig.10-11 | 6.15 | 1.3 | 4.15 | ○ | × |
| 土師器 | 小皿a | イト | B-002 | Fig.10-12 | 6.45 | 1.15 | 4.05 | ○ | ○ |
| 土師器 | 小皿a | イト | B-003 | Fig.10-12 | 6.3 | 1.1 | 4.9 | ○ | × |
| 土師器 | 小皿a | イト | B-004 | Fig.10-14 | 6.9 | 1.25 | 4.8 | ○ | ○ |
| 土師器 | 小皿a | イト | B-005 | Fig.10-15 | 5.9 | 1.15 | 4.05 | ○ | × |

S-10有坂色土

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | — | B-001 | Fig.17-11 | 10.4 | 0.9 | (7.4) | ○ | — |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | B-002 | Fig.17-50 | (9.1) | 1.1 | (7.0) | ○ | ○ |
| 土師器 | 小皿a | — | B-003 | Fig.17-49 | (8.0) | 0.9 | (6.6) | — | — |
| 土師器 | 小皿a | イトケ | B-004 | Fig.17-52 | (10.5) | 1.2 | (8.4) | ○ | ○ |
| 土師器 | Hc | イト | B-003 | Fig.17-54 | — | 1.15+α | (12.2) | ○? | ○ |
| 土師器 | Hc | イト | B-004 | Fig.17-53 | — | 1.15+α | (11.4) | — | — |

S-10河内色彩

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | Hc | — | B-001 | Fig.17-11 | — | 1.2+α | (11.0) | ○? | ○ |
| 土師器 | Hc | イト | B-002 | Fig.17-10 | — | 1.2+α | (10.4) | ○? | ○ |
| 瓦器 | 椀 | | B-003 | Fig.17-12 | (10.5) | 2.4+α | — | — | — |

S-10黒色土

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | イトケ | B-001 | Fig.17-1 | (10.4) | 1.15 | (7.4) | ○ | — |
| 土師器 | Hc | — | B-003 | Fig.17-2 | — | 1.15+α | (10.2) | — | — |

S-10黒色土

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | イト | B-001 | Fig.17-6 | (9.4) | 0.9 | (7.6) | ○ | — |
| 土師器 | Hc | — | B-001 | Fig.17-6 | (10.2) | 2.65 | (11.4) | ○ | — |
| 土師器 | Hc | — | B-002 | Fig.17-7 | (12.5) | 2.7 | (11.0) | — | — |

S-10茶色土

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | B-007 | Fig.17-20 | (8.4) | 1.0 | (5.7) | ○ | ○ |
| 土師器 | 小皿a | — | B-012 | Fig.17-25 | (8.8) | 1.5 | (6.8) | ○? | — |
| 土師器 | 小皿a | — | B-005 | Fig.17-24 | (9.1) | 1.3 | (7.0) | — | — |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ? | B-018 | Fig.17-25 | 10.4 | 2.7 | 8.0 | — | — |
| 土師器 | 小皿a | イト | B-019 | Fig.17-21 | (8.6) | 1.35 | (5.6) | ○? | — |
| 土師器 | 小皿a | — | B-020 | Fig.17-23 | (9.0) | 1.0 | (6.7) | ○? | ○ |
| 土師器 | 小皿a | — | B-021 | Fig.17-19 | (8.4) | 1.2 | (6.0) | — | — |
| 土師器 | 小皿a | — | B-022 | Fig.17-18 | (8.4) | 1.0 | (6.0) | — | — |
| 土師器 | 小皿a | イト | B-024 | Fig.17-26 | (10.9) | 1.1 | (8.4) | — | — |
| 土師器 | Hc | — | B-002 | Fig.17-30 | (16.1) | 2.6 | (15.2) | ○? | — |
| 土師器 | Hc | イト | B-006 | Fig.17-29 | (15.4) | 3.1 | (10.0) | — | — |
| 土師器 | Hc | イト | B-007 | Fig.17-31 | — | 3.9+α | (12.0) | ○? | — |
| 土師器 | Hc | イト | B-008 | Fig.17-27 | (12.4) | 2.6 | (9.0) | ○ | — |
| 土師器 | Hc | イト | B-023 | Fig.17-28 | (13.6) | 2.4 | (9.8) | ○? | — |
| 土師器 | 椀c | — | B-016 | Fig.17-34 | (9.8) | 3.8 | (4.8) | — | — |
| 土師器 | 椀c+蓋c | | B-017 | Fig.17-33 | — | 1.6+α | (7.8) | | |
| 土師器 | 丸皿Ha | — | B-001 | Fig.17-14 | 17.9 | 3.3 | 10.0 | ○? | ○ |
| 瓦器 | 小皿a | | B-010 | Fig.17-35 | (10.0) | 1.1+α | | | |
| 瓦器 | 椀c | | B-009 | Fig.17-36 | — | 4.9+α | (7.6) | ○ | |

S-34区茶色土

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | イト | B-001 | Fig.18-2 | | 0.9+α | (7.0) | ○ | — |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ? | B-002 | Fig.18-1 | (7.9) | 0.95 | (6.4) | ○ | ○ |

S-35

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | — | B-001 | Fig.24-4 | (8.9) | 1.2 | (7.1) | ○ | — |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | B-002 | Fig.24-7 | (10.0) | 0.95 | (7.8) | ○ | ○ |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | B-003 | Fig.24-6 | (10.0) | 1.05 | (7.2) | ○ | ○ |
| 土師器 | 小皿a | — | B-024 | Fig.24-2 | (9.8) | 1.4 | (8.2) | ○ | — |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | B-025 | Fig.24-3 | (9.4) | 1.4+α | (6.7) | ○ | ○ |
| 土師器 | 小皿a | イト | B-026 | Fig.24-8 | | 1.0+α | (6.2) | | ○ |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | B-027 | Fig.24-9 | | 1.2? | | — | |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | B-028 | Fig.24-1 | (9.1) | 1.1 | (7.2) | | |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ? | B-029 | Fig.24-5 | 10.0 | 1.5 | 7.3 | | |
| 土師器 | Ha | — | B-030 | Fig.24-15 | | 2.2+α | (9.0) | | ○ |
| 土師器 | Ha | イト | B-031 | Fig.24-12 | (14.2) | 2.45 | (9.4) | — | |
| 土師器 | Ha | イト | B-032 | Fig.24-17 | | 1.2+α | (10.0) | ○ | — |
| 土師器 | Ha | | B-033 | Fig.24-21 | | 3.7+α | | | |
| 土師器 | Ha | イトケ | B-034 | Fig.24-10 | | 1.7+α | (10.2) | ○ | ○ |
| 土師器 | Ha | イト | B-035 | Fig.24-16 | | 1.3+α | (9.3) | ○ | ○ |
| 土師器 | Ha | | B-036 | Fig.24-13 | (14.4) | 3.6+α | (10.2) | | |
| 土師器 | Ha | ヘラ | B-037 | Fig.24-20 | | 2.3+α | (10.0) | — | — |
| 土師器 | Ha | | B-040 | Fig.24-19 | | 1.9+α | (11.0) | ○? | — |
| 土師器 | Ha | イト | B-041 | Fig.24-14 | | 1.5+α | 8.3 | — | ○ |
| 土師器 | Ha | — | B-043 | Fig.24-11 | (12.0) | 2.4 | 8.7 | — | ○ |
| 土師器 | 鉢a | イト | B-039 | Fig.24-22 | | 1.2+α | (15.0) | ○ | ○ |
| 土師器 | 大皿Ha | | B-004 | Fig.24-23 | (12.4) | 3.9 | (6.2) | | |
| 土師器 | 大皿Ha | | B-038 | Fig.24-23 | (14.4) | 3.9 | (7.2) | | |
| 土師器 | 大皿Ha | ヘラ | B-042 | Fig.24-24 | (16.4) | 3.8 | (12.0) | | |

S-36河内色土

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | イト | B-001 | Fig.19-31 | (9.6) | 1.15 | (5.0) | ○ | — |
| 土師器 | 小皿a | — | B-002 | Fig.19-19 | (9.0) | 1.15 | (6.9) | ○ | — |
| 土師器 | 小皿a | イト | B-003 | Fig.19-18 | (9.0) | 1.25 | (6.9) | ○ | — |
| 土師器 | 小皿a | イトケ | B-004 | Fig.19-23 | (9.2) | 1.25 | (6.0) | ○ | ○ |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | B-005 | Fig.19-15 | (9.0) | 1.2 | (6.6) | ○ | — |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | B-006 | Fig.19-20 | (9.4) | 1.0 | (6.2) | — | — |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | B-007 | Fig.19-25 | (9.2) | 1.05 | (6.0) | ○ | — |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | B-008 | Fig.19-17 | (9.0) | 1.0 | (6.6) | ○ | × |
| 土師器 | 小皿a | イト | B-009 | Fig.19 | (8.4) | 0.95 | (6.4) | ○ | — |
| 土師器 | 小皿a | — | B-010 | Fig.19-11 | (8.6) | 1.0 | (7.0) | ○ | — |
| 土師器 | 小皿a | — | B-011 | Fig.19-3 | (7.8) | 1.0 | (5.7) | ○ | — |
| 土師器 | 小皿a | イト | B-012 | Fig.19-46 | (11.0) | 2.05 | (8.3) | ○ | — |
| 土師器 | 小皿a | — | B-020 | Fig.19-12 | (8.8) | 1.1 | (6.6) | ○ | — |
| 土師器 | 小皿a | イト | B-021 | Fig.19-4 | (8.2) | 1.1 | (6.6) | ○ | — |
| 土師器 | 小皿a | イト | B-022 | Fig.19-10 | (8.6) | 0.85 | (7.0) | ○ | ○ |
| 土師器 | 小皿a | イト | B-023 | Fig.19-41 | (8.8) | 1.2 | (6.4) | ○ | ○ |
| 土師器 | 小皿a | イトケ | B-024 | Fig.19-16 | (9.0) | 1.25 | (6.2) | — | — |
| 土師器 | 小皿a | イト | B-032 | Fig.19-1 | (7.8) | 0.85 | (5.8) | ○ | ○ |
| 土師器 | 小皿a | — | B-043 | Fig.19-28 | (9.4) | 1.25 | (7.3) | — | — |
| 土師器 | 小皿a | イト | B-044 | Fig.19-26 | (9.3) | 1.9 | (7.4) | ○ | — |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ? | B-045 | Fig.19-13 | (9.8) | 1.9 | (1.0) | | |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ? | B-046 | Fig.19-41 | (10.0) | 1.9 | (7.9) | ○ | ○ |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ? | B-047 | Fig.19-42 | (9.1) | 1.4 | (7.6) | | |
| 土師器 | 小皿a | イトケ | B-048 | Fig.19-27 | (9.8) | 1.2 | (7.8) | | |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | B-049 | Fig.19-21 | (9.2) | 1.0 | (7.5) | ○ | |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ? | B-050 | Fig.19-24 | (9.2) | 1.1 | (7.9) | ○ | |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | B-051 | Fig.19-44 | (10.6) | 0.9 | (8.8) | — | ○ |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | B-052 | Fig.19-5 | (8.2) | 1.2 | (7.0) | ○ | |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | B-053 | Fig.19-43 | (11.0) | 1.25 | (8.8) | ○ | |
| 土師器 | 小皿a | — | B-054 | Fig.19-42 | (10.6) | 1.2 | (7.8) | ○ | — |
| 土師器 | 小皿a | — | B-055 | Fig.19-39 | (10.0) | 1.1 | (8.0) | — | — |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | B-056 | Fig.19-42 | (10.4) | 1.3 | (7.2) | | |
| 土師器 | 小皿a | イト | B-057 | Fig.19-33 | (8.6) | 1.0 | (6.8) | ○ | ○ |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | B-058 | Fig.19-40 | (10.0) | 1.05 | (7.2) | | |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ? | B-059 | Fig.19-37 | (10.0) | 1.1 | (7.0) | — | ○ |
| 土師器 | 小皿a | イト | B-060 | Fig.19-30 | (8.5) | 0.9 | (7.1) | | ○ |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ? | B-064 | Fig.19-38 | (9.0) | 1.2 | (7.8) | ○ | ○ |
| 土師器 | 小皿a | イト | B-067 | Fig.19-7 | (8.4) | 1.2 | (6.2) | — | ○ |
| 土師器 | 小皿a | イト | B-063 | Fig.19-34 | (8.8) | 1.4 | (6.2) | ○ | |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | B-064 | Fig.19-42 | (9.4) | 1.2 | (7.4) | — | |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | B-065 | Fig.19-36 | (9.0) | 1.3 | (7.8) | — | ○ |
| 土師器 | 小皿a | — | B-066 | Fig.19-29 | (9.4) | 1.2 | (6.4) | ○ | — |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | B-067 | Fig.19-32 | (9.8) | 1.1 | (7.6) | ○ | |
| 土師器 | 小皿a | イト | B-068 | Fig.19-22 | 9.2 | 0.85 | 7.9 | | |
| 土師器 | 小皿a | イト | B-069 | Fig.19-8 | (8.4) | 1.4 | (7.0) | ○ | ○ |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ? | B-070 | Fig.19-9 | (7.8) | 1.4 | (5.7) | — | — |
| 土師器 | 小皿a | イト | B-027 | Fig.19-47 | | 1.2+α | (7.8) | — | |
| 土師器 | Ha | ヘラ | B-014 | Fig.19-61 | | 2.0 | (10.8) | ○ | ○ |
| 土師器 | Ha | イト | B-023 | Fig.19-50 | (14.6) | 2.7 | (10.2) | ○ | ○ |
| 土師器 | Ha | イトケ | B-024 | Fig.19-52 | (14.0) | 2.1 | (9.0) | ○ | ○ |
| 土師器 | Ha | | B-028 | Fig.19-59 | | 1.35+α | (10.6) | | |
| 土師器 | Ha | | B-033 | Fig.19-58 | | 1.5+α | (10.0) | ○ | — |
| 土師器 | Ha | イト | B-035 | Fig.19-54 | (15.9) | 2.45 | (11.6) | | |
| 土師器 | Ha | — | B-041 | Fig.19-51 | (14.8) | 2.4 | (10.7) | — | — |
| 土師器 | Ha | イト | B-071 | Fig.19-56 | (16.8) | 2.5 | (12.0) | | |
| 土師器 | Ha | イトケ | B-074 | Fig.19-55 | (15.8) | 2.75 | (9.5) | ○ | — |
| 土師器 | Ha | ヘラ | B-075 | Fig.20-55 | (16.0) | 2.3 | (11.0) | | |
| 土師器 | Ha | ヘラ | B-079 | Fig.19-57 | (17.4) | 2.4 | (14.0) | | |
| 土師器 | Ha | イト | B-080 | Fig.19-49 | (14.4) | 1.8 | (9.0) | — | ○ |
| 土師器 | Ha | ヘラ? | B-081 | Fig.19-60 | (15.8) | 2.4 | (12.0) | | |
| 土師器 | Ha | ヘラ | B-083 | Fig.19-63 | | 2.0 | | — | |
| 土師器 | Ha | — | B-084 | Fig.19-62 | | 2.0+α | (10.8) | | ○ |
| 土師器 | Ha | | B-085 | Fig.19-60 | | 1.8+α | (10.0) | ○ | — |
| 土師器 | 丸皿Ha | — | B-013 | Fig.19-69 | (18.0) | 2.55 | (9.4) | ○ | — |
| 土師器 | 丸皿Ha | | B-036 | Fig.19-66 | (15.5) | 3.0+α | | | |
| 土師器 | 丸皿Ha | ヘラ | B-072 | Fig.19-71 | (18.4) | 2.2 | (13.0) | | |
| 土師器 | 丸皿Ha | ヘラ | B-073 | Fig.19-70 | (18.4) | 2.2 | (10.7) | | |
| 土師器 | 丸皿Ha | ヘラ | B-076 | Fig.19-68 | (16.0) | 3.3 | (11.8) | | |
| 土師器 | 丸皿Ha | | B-077 | Fig.19-64 | (15.0) | 2.4+α | (11.4) | | ○ |
| 土師器 | 丸皿Ha | ヘラ | B-078 | Fig.19-67 | (18.0) | 2.4+α | (11.2) | | |
| 土師器 | 丸皿Ha | | B-081 | Fig.19-65 | (15.2) | 3.1+α | (13.4) | | |
| 土師器 | 大皿a | | B-086 | Fig.19-75 | | 2.9+α | | — | ○ |
| 土師器 | 椀c+小椀c | | B-087 | Fig.19-73 | | 1.8+α | 6.5 | | ○ |
| 土師器 | 大椀c | | B-082 | Fig.19-74 | | 3.4+α | (11.4) | ○ | ○ |
| 土師器 | 椀c | | B-090 | Fig.19-73 | | 2.6+α | (8.6) | | |
| 黒色土器B | 小椀c | | B-088 | Fig.19-76 | | 15.5 | 4.4 | | |
| 瓦器 | 椀c | | B-089 | Fig.19-77 | | 2.6+α | (6.7) | | |

S-39

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | — | B-001 | Fig.20-1 | (8.0) | 1.1 | (7.6) | ○ | — |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ? | B-002 | Fig.20-2 | (8.0) | 2.85 | 8.4 | | |



S-61

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | イト | B-001 | Fig.14-24 | | 1.5+α | (8.0) | | ○ |
| 土師器 | 小皿a | イト | B-003 | Fig.14-32 | | 1.4+α | | ○? | |
| 土師器 | 小皿a | イト | B-004 | Fig.14-32 | | 1.1+α | (6.3) | | |
| 土師器 | 小皿a | イト | B-005 | Fig.14-29 | (7.5) | 1.35 | (6.0) | | |
| 土師器 | 小皿a | イト | B-006 | Fig.14-30 | (8.7) | 1.2 | (7.0) | ○ | |
| 土師器 | 小皿a | | B-009 | Fig.14-31 | (10.4) | 1.0 | (8.8) | | ○ |
| 土師器 | Ha | イト | B-002 | Fig.14-38 | | 2.2+α | | | |
| 土師器 | Ha | イト | B-007 | Fig.14-35 | | 1.2+α | (8.2) | | |
| 土師器 | Ha | イト | B-009 | Fig.14-36 | | 1.2+α | (8.4) | | |
| 土師器 | Ha | — | B-010 | Fig.14-37 | | 1.35+α | (8.6) | — | — |

S-64区茶色土

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | イト | B-001 | Fig.15-46 | | 1.1+α | (7.9) | ○ | ○ |

S-79黒河色土

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋? | | B-008 | Fig.20-23 | (13.8) | 1.3 | | | |
| 須恵器 | 蓋c | | B-009 | Fig.20-11 | | 1.3+α | | | |
| 須恵器 | Ha | ヘラ? | B-007 | Fig.20-24 | (13.0) | 3.2 | (9.2) | | |
| 須恵器 | Hc | — | B-005 | Fig.20-18 | | 2.1+α | (8.0) | ○ | — |
| 須恵器 | Hc | | B-006 | Fig.20-17 | | 1.4+α | (12.2) | | |
| 須恵器 | Hc | — | B-010 | Fig.20-15 | (12.8) | 3.3 | (9.0) | ○ | — |
| 須恵器 | Hc | — | B-011 | Fig.20-16 | (14.9) | 3.5 | (11.0) | ○ | — |
| 土師器 | Ha | — | B-001 | Fig.20-21 | | 1.8+α | | — | — |
| 土師器 | Ha | — | B-002 | Fig.20-29 | | 1.8+α | (6.8) | — | — |
| 土師器 | 椀c | — | B-004 | Fig.20-23 | | 3.4+α | (10.0) | — | — |
| 土師器 | 椀c | — | B-013 | Fig.20-22 | | 1.3+α | 6.9 | ○ | |
| 黒色土器A | 椀c | — | B-003 | Fig.20-24 | | 6.85+α | (8.0) | ○ | — |

S-72

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | Ha | イト | B-001 | Fig.14-23 | | 1.6+α | (10.8) | ○? | |

S-76

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | イト | B-001 | Fig.14-24 | | 1.25 | | ○? | — |

S-79

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | イト | B-001 | Fig.14-26 | 7.2 | 0.95 | 5.9 | ○ | ○ |
| 土師器 | 小皿a | イト | B-002 | Fig.14-27 | (8.7) | 1.2 | (6.8) | ○? | — |
| 土師器 | Ha | イト | B-003 | Fig.14-28 | | 1.2 | (8.2) | ○ | — |

S-80東

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸皿Ha | | B-002 | Fig.16-2 | | 3.3+α | | | |

S-81

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 椀c | | B-002 | Fig.14-42 | | 1.8+α | | ○? | |
| 土師器 | | | B-003 | Fig.14-41 | | 2.35 | | | |

S-84

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | | B-001 | Fig.26-23 | | 1.2+α | 5.6 | | |

S-86

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 鍋付蓋 | ヘラ? | B-003 | Fig.26-42 | | 2.4+α | (11.5) | — | — |

S-101

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | Ha | イト | B-001 | Fig.14-44 | | 1.1+α | (11.4) | — | — |

S-102

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | イトケ | B-003 | Fig.14-45 | (8.4) | 0.95 | (6.4) | ○ | ○ |

S-103

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | Ha | — | B-001 | Fig.14-46 | | 1.4+α | — | ○ | ○ |

S-104

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 椀 | | B-001 | Fig.20-1 | — | 2.6+α | | | |

S-108

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | イト | B-001 | Fig.27-54 | (8.0) | 1.0 | (7.0) | ○ | ○ |
| 土師器 | 小皿a | — | B-003 | Fig.27-53 | (10.0) | 1.25 | (7.9) | ○ | — |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | B-004 | Fig.27-52 | (7.6) | 0.95 | (5.8) | ○ | — |

S-114

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | — | B-001 | Fig.14-47 | (8.8) | 1.25 | (5.1) | — | — |

S-116

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | B-001 | Fig.14-48 | 9.6 | 1.3 | 5.45 | ○ | ○ |
| 土師器 | Ha | イトケ | B-002 | Fig.14-49 | — | 1.7+α | (8.0) | ○ | — |
| 土師器 | Ha | — | B-003 | Fig.14-51 | (13.6) | 2.4 | (10.2) | ○ | — |
| 土師器 | Ha | ヘラ | B-004 | Fig.14-50 | — | 1.7 | (11.6) | ○ | — |

河内色土

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | Ha | ヘラ? | B-006 | Fig.20-4 | | 1.5+α | (8.4) | ○? | — |
| 土師器 | Ha | — | B-004 | Fig.20-2 | | 1.5+α | 6.3 | ○ | ○ |
| 土師器 | 椀c | ヘラ | B-001 | Fig.20-1 | | 2.65+α | (8.2) | — | — |
| 土師器 | 椀c | | B-002 | Fig.20-3 | | 2.5+α | 8.6 | ○ | |
| 土師器 | Hc | — | B-003 | Fig.20-9 | | 3.85+α | (10.0) | ○? | — |
| 土師器 | 鍋付蓋 | — | B-007 | Fig.20-6 | (11.8) | (1.4) | (9.4) | — | — |

黒茶色土

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | イト | B-001 | Fig.26-16 | (7.8) | 1.1 | (6.8) | ○ | ○ |
| 土師器 | 小皿a | — | B-003 | Fig.26-15 | (6.8) | 1.15 | (5.0) | — | — |
| 土師器 | Ha | — | B-002 | Fig.26-15 | — | (2.0) | — | ○ | — |
| 土師器 | Ha | ヘラ | B-006 | Fig.26-17 | — | 1.1+α | 6.65 | ○ | ? |
| 黒色土器A | 椀 | | B-004 | Fig.26-13 | | 2.6+α | | | |

茶色土

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | イト | B-001 | Fig.31-1 | (7.2) | 1.2 | (5.0) | ○ | ○ |
| 土師器 | 小皿a | イト | B-003 | Fig.31-4 | (7.8) | 1.1 | (5.8) | ○ | — |
| 土師器 | 小皿a | イト | B-006 | Fig.31-5 | | 0.95+α | (6.4) | ○ | — |
| 土師器 | 小皿a | — | B-008 | Fig.31-2 | (2.4) | 1.2 | (5.8) | ○ | ○ |
| 土師器 | 小皿a | — | B-009 | Fig.31-7 | (7.8) | 1.2 | (6.4) | — | — |
| 土師器 | Ha | イト | B-007 | Fig.31-10 | | 0.8+α | (8.4) | ○ | |
| 土師器 | Ha | | B-008 | Fig.31-9 | | 1.1 | (7.8) | ○ | × |
| 土師器 | Ha | — | B-011 | Fig.31-8 | (12.2) | 2.2 | (8.2) | ○ | ○ |
| 土師器 | Ha | — | B-012 | Fig.31-6 | (12.0) | 1.45 | (8.6) | ○ | ○ |
| 土師器 | Ha | イト | B-015 | Fig.31-7 | (12.2) | 2.55 | (8.2) | ○ | — |

D-1区

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋 | | B-004 | Fig.20-21 | | 1.5+α | | | |
| 須恵器 | Hc | ヘラ | B-003 | Fig.20-32 | — | 2.1+α | — | ○ | × |

## 表 4　第 42 次調査　瓦叩き目分類計量表

| 遺構番号 | 個子の大きさ（縦×横）サンプル | 掘出 | I：単格子 A：正格子 a 1.6<x≦1.9以下 | b 1.1<x≦1.6※ 1.0<x≦1.4 | B：縦長斜格子 a 0.622<y≦0.8以下 | b 1.1<x≦1.6※ 1.0<x≦1.4 | c 1.622≦x 1.522≦ | C：横長斜格子 a 0.622<y≦0.8以下 | b 0.8<y≦0.9※ 1.0<y≦1.4 | c 1.622≦x 1.522≦ | D：斜格子・菱形格子 | E：アミダ状格子 | F：四斜格子 | II：二重格子 A：正格子 | B：縦長斜格子 | C：横長斜格子 | 個子分類不明瞭 | 斜線 | 無文・不明瞭 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5-16 | R9　20100605 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 18.3 | |
| 5-16 | L7　20100605 | | | | | | | | | | | | | | | | 28.1 | | 28.4 | |
| 5-16 | R7　20100609 | | | | | | | 76.9 | 138.0 | | | | | | | | | | 24.9 | |
| 5-16東拡土 | L12　20100621 | 283.0 | 62.0 | | | | | | | | | | | | | | | | 1792.7 | |
| 5-16北拡土 | L11　20100620 | | | | | 518.0 | | | 443.4 | 61.7 | | | | | | 28.2 | | | 1128.6 | |
| | R11　20100621 | 465.8 | 173.8 | | | 48.5 | | 11.9 | 120.0 | | | | | | | | 39.2 | | 1862.8 | 軒平865.7 |
| | J11　20100630 | 256.2 | 25.2 | 96.1 | | | | 526.1 | 244.8 | 66.9 | | | | | | | 47.4 | | 1825.8 | 軒丸127.2 |
| | K11　20100630 | 252.7 | | | | | | 2290.9 | 58.0 | | | | | | | | | | 268.1 | |
| 5-16北拡土 | I16　20100621 | | | | | | | | 296.3 | | 61.8 | | | | | | | | 195.3 | |
| 5-3 | J20　20100430 | 368.1 | | | | | | | | | | | | | | | 23.2 | | 68.6 | |
| 5-4 | R10　20100506 | | | | | | | 26.5 | | | | | | | | | | | 49.5 | |
| 5-7 | R9　20100506 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 37.4 | |
| 5-8 | R5　20100506 | | | | | | | | | 24.0 | | | | | | | | | 25.6 | |
| 5-9 | J9　20100511 | | | | | | | | 168.8 | | | | | | | | | | 215.8 | |
| 5-12 | R7　20100511 | | | | | | | 19.9 | | | | | | | | | | | 25.0 | |
| 5-13 | R8　20100511 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1803.4 | |
| 5-13南ﾄﾚﾝﾁ | R6　20100524 | 83.2 | 287.3 | | | | | 269.2 | 224.6 | | | | | | | | | | 202.2 | |
| | 中段南　20100416 | | | | | | | 205.0 | | | | | 39.8 | | | | | | 542.5 | |
| | R8　20100529 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 71.1 | |
| | R9　20100524 | | | | | | | | 88.5 | | | | | | | | | | 22.7 | |
| 5-17 | R8　20100511 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 151.8 | 鬼瓦838.2 |
| 5-18 | R5　20100514 | | 87.7 | | | | | | | | | | | | | | | | 793.2 | |
| 5-18北拡土 | R3　20100507 | | | | | | | 75.2 | 206.7 | | | | | | | | | | 13.4 | |
| 5-19 | L3　20100507 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 192.5 | |
| | L5　20100514 | | | | | | | 47.8 | | | | | | | | | | | 17.6 | |
| 5-21 | J7　20100514 | | | | | | | | | | | | | | | | 62.9 | | 27.4 | |
| 5-22 | R9　20100514 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 52.9 | |
| 5-23 | R10　20100514 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 521.7 | |
| 5-28 | R3　20100514 | | | | | 59.0 | | 18.4 | 48.2 | | | | | | | | | | 1860.4 | |
| 5-23北拡土 | L13　20100430 | 202.2 | 99.2 | | 53.7 | | | 84.6 | 227.9 | 393.7 | | | 16.6 | | | | | | 11.2 | |
| 5-24北拡土 | L12　20100511 | | | | | | | | | | | | | | | | 90.4 | | 1860.4 | |
| 5-25 | K3　20100520 | 164.8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5-27 | C2　20100520 | 26.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5-28東拡土 | G4　20100521 | 337.1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5-29南拡土 | E4　20100521 | | | | | | | | 199.0 | | | | | | | | | | 107.2 | |
| 5-30北拡土 | G3.4　20100523 | 487.4 | 1509.6 | 495.8 | 238.8 | 1810.2 | | 94.0 | | | | | | | | | | | | |
| | L2　20100515 | 246.4 | 387.4 | 291.0 | 93.2 | 71.1 | | 2612.2 | 2187.4 | 4486.4 | 29.1 | 161.8 | | | | 126.0 | 210.9 | 236.7 | 13006.0 | 軒丸962.3　軒平476.1 |
| | K4　20100524 | 477.4 | 594.1 | 97.2 | 744.9 | 2886.4 | | 249.6 | 4329.4 | 1232.2 | | | | | | 54.4 | 128.3 | 82.9 | 5559.7 | |
| | K3　20100513 | 479.7 | 179.7 | | 275.8 | 418.8 | | 2871.6 | 1368.0 | 1171.1 | | | 173.4 | | | 35.2 | 147.2 | | 2194.0 | |
| | L4　20100517 | 632.6 | 232.3 | | | 158.5 | | 1884.5 | 722.1 | 1178.8 | | | 227.4 | | | | 243.9 | | 3425.0 | |
| | R3　20100512 | 273.6 | 296.9 | | 46.2 | 33.7 | | 355.8 | 312.9 | 584.9 | 132.3 | | 96.2 | | | | 81.3 | | 2484.6 | |
| | R3　20100609 | 274.2 | 333.9 | | | 292.7 | | 250.4 | 518.9 | 525.2 | 730.9 | 39.6 | | | | | | | 1885.5 | |
| | K2　20100519 | 288.7 | 129.8 | 90.6 | | | | 835.7 | 478.4 | 686.7 | | | | | 126.3 | | | 273.2 | 5307.9 | |
| | I3　20100523 | | 42.8 | | 51.6 | 146.1 | | 893.7 | 996.6 | 419.7 | | | | | | | | | 2884.9 | 軒丸158.0 |
| | L6　20100513 | 298.5 | 230.1 | | | | | 794.1 | 324.9 | 700.2 | | | | | | | 263.3 | | 2624.0 | 軒平68.5 |
| | K2　20100517 | 426.2 | 762.2 | 12.7 | 297.9 | 721.9 | 150.9 | 738.9 | 1026.6 | 943.2 | | | | | | | 231.9 | | 3815.0 | |
| | I4　20100523 | | | | | 58.4 | | 2298.1 | 3047.1 | 3542.8 | | 143.2 | 156.3 | | | 55.8 | 135.6 | 208.7 | 16326.6 | 軒丸401.5 |
| | K4　20100512 | 1291.8 | 2626.0 | 783.4 | 352.4 | 2896.1 | | | 72.7 | | | | | | | | | | 287.1 | |
| 5-30東拡土 | I1　20100516 | 83.5 | 36.3 | | 83.4 | 177.7 | | 6450.3 | 10426.8 | 15710.9 | 294.6 | 93.8 | 552.9 | | 512.7 | 144.9 | 246.5 | 420.5 | 23741.2 | 軒平266.3　軒丸232.8 |
| | I2　20100520 | | 138.0 | | | 195.3 | | 254.1 | 247.9 | 388.0 | | | | | | | 83.9 | | 1862.1 | |
| | I3　20100525 | | 161.5 | | | 86.9 | | | | 525.2 | | | | | | | | | 332.8 | |
| 5-30東拡土 | L4　20100516 | 19.3 | | 26.0 | | | | | 120.4 | 747.2 | | | | | | | 84.5 | | 511.7 | |
| | K4　20100524 | 141.4 | 182.6 | | | | | 120.7 | 92.2 | 12.2 | | | | | | | 121.1 | | 1380.7 | |
| | H4　20100524 | 480.1 | 331.9 | 99.7 | 34.8 | 562.9 | | 204.9 | 820.7 | 294.6 | | | | | | | 112.1 | | 1429.7 | |
| | J4　20100706 | | 490.2 | 78.0 | 416.1 | 432.5 | | 314.4 | 835.8 | 258.5 | | | 69.2 | | | | 127.4 | | 4120.0 | |
| | L5　20100706 | | 510.6 | | | | | 342.0 | 562.0 | 2216.5 | | | 614.3 | | 133.6 | | 175.2 | 128.3 | 3355.5 | 軒平661.2 |
| | K4　20100617 | | | | | | | 68.3 | 41.8 | 514.9 | | | | | | 36.5 | 686.7 | 289.3 | 267.2 | |
| | K2　20100617 | | 53.2 | | | 162.6 | | | | | | | | | | | | | 1474.8 | |

| 遺構番号 | 個子の大きさ（縦×横）サンプル | 掘出 | I：単格子 A：正格子 a | b | B：縦長斜格子 a | b | c | C：横長斜格子 a | b | c | D：斜格子・菱形格子 | E：アミダ状格子 | F：四斜格子 | II：二重格子 A：正格子 | B：縦長斜格子 | C：横長斜格子 | 個子分類不明瞭 | 斜線 | 無文・不明瞭 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5-30東拡北 | I4　20100526 | 13.9 | | | | | | 87.8 | 149.7 | | | | | | | | | | 118.0 | |
| | J5　20100512 | 612.0 | 10.2 | 166.7 | 136.7 | 26.1 | | 407.7 | 208.6 | 439.3 | 33.9 | | 218.8 | | 677.3 | | 50.3 | | 1741.8 | 軒平45.8 |
| | I5　20100514 | | 60.1 | | | | | 62.2 | | 341.2 | | | | | | 13.7 | 282.7 | | 941.2 | |
| | I5　20100601 | | | | | 91.1 | | | 37.8 | | | | | | | | 179.2 | | 876.2 | |
| | I5　20100707 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 56.6 | |
| 5-30東拡土 | K4　20100514 | 93.2 | 136.7 | | 26.6 | | 121.0 | | 13.9 | 241.8 | | | | | | | | 36.2 | 825.9 | |
| | L4　20100512 | 15.9 | 37.6 | 145.1 | | 272.4 | | 181.4 | 478.3 | 481.8 | | | | | | | 262.3 | | 2020.3 | |
| | K4　20100514 | 182.4 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1430.5 | |
| | I4　20100517 | | 280.6 | | 27.4 | 86.2 | | 209.6 | 78.8 | 276.7 | | | | | | 23.6 | 32.5 | | 113.4 | |
| | K5　20100514 | | | | | | | | | | | | 197.2 | | | 33.6 | 491.6 | 141.9 | | |
| 5-30南拡北 | L7　20100513 | 462.7 | 341.2 | | 118.1 | 578.6 | | 320.6 | 464.5 | 798.3 | | | | | | | 6056.8 | | | |
| | L8　20100513 | | | | | | | | | | | | | | | | 318.7 | | 1771.1 | |
| 5-30南拡南 | I7　20100512 | 260.1 | 953.8 | 158.1 | | 294.9 | | 260.6 | 867.1 | 388.2 | | | | | | | | | 880.6 | |
| | I7　20100514 | 124.2 | 58.9 | 35.3 | 235.5 | 53.4 | 136.7 | 76.5 | 846.2 | 56.2 | | 209.7 | | | | | | | | |
| 5-31 | G4　20100529 | 34.6 | | | | | | 163.3 | | | | | | | | | | | 132.4 | |
| 5-32 | G5　20100529 | | | | | | | 582.1 | 199.3 | | | | | | | | | | 572.8 | |
| | F3.4　20100528 | | | | | 183.1 | | 110.4 | 146.1 | 98.1 | | | 42.2 | | | | | | 283.9 | |
| | G3　20100524 | 324.0 | | | | 23.3 | | 340.9 | | | | | | | | | | | 128.1 | |
| | F5　20100702 | 46.4 | | | | | | 36.3 | | | | | | | | | | | 2980.9 | |
| 5-33明東拡土 | F5　20100617 | 99.2 | 152.1 | | | | | 380.0 | 304.1 | 116.9 | | | 96.2 | | | | 178.7 | | 2174.2 | |
| | F5　20100624 | 291.6 | 43.5 | | | | | 845.0 | 146.8 | | | | | | | | | | 492.7 | |
| | F5　20100617 | | 34.9 | | | | | 284.5 | 98.7 | | | | | | | | | | 103.2 | |
| | F6　20100624 | | | | | | | | 34.0 | 94.7 | | | | | | | | | 1391.5 | |
| 5-33東拡北 | E6　20100608 | | 121.2 | | | | | 537.3 | 32.3 | 183.8 | | | | | | | | | 144.7 | |
| | F6　20100528 | 360.4 | 75.8 | | | | | 136.2 | | | | | | | | | 28.8 | | 231.7 | |
| | F6　20100531 | | | | | | | 231.2 | 136.5 | | | | | | | | | | 464.3 | 軒平363.9 |
| | F6　20100528 | | | | | | | | | 28.7 | | | | | | | | | 28.3 | |
| | F5　20100601 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1945.1 | |
| 5-34北東拡土 | G6　20100528 | 197.8 | | | | | | | 392.9 | | | | | | | | 588.9 | | 17980.6 | 軒平504.7　軒丸180.3 |
| 5-35 | G3　20100528 | 189.7 | 1080.9 | | 67.4 | 938.0 | | 3445.6 | 8978.7 | 12373.9 | | | 542.4 | 63.1 | | | | | | |
| | G2　20100528 | | 53.1 | | | 458.2 | | 313.8 | 165.7 | 119.2 | | | | | | | 223.7 | | 776.5 | |
| | G3　20100602 | | 372.4 | | | | | 205.4 | | 366.7 | | | | | | | | | 491.6 | |
| | G3　20100529 | 25.7 | 160.1 | | 122.2 | | | 43.2 | | 391.9 | | | | | | | | | 480.2 | |
| | G3　20100529 | 56.5 | | | | 287.0 | | | | 274.3 | | | | | | | | | | |
| | G3　20100609 | | | | | | | 54.5 | | | | | | | | | | | 504.8 | |
| 5-36 | G6　20100604 | 62.2 | | | | | | 40.8 | 90.2 | | | | | | | | | | 170.1 | |
| | G5　20100604 | | | | | | | 90.2 | 23.9 | 59.6 | | | | | | | | | 28.3 | |
| | G6　20100602 | | | | | | | | 34.7 | 85.4 | | | | | | | | | 46.7 | |
| | G7　20100601 | | 36.9 | | | | | 92.0 | | | | | | | | | 102.0 | | 828.7 | |
| 5-37東拡北 | F4B　20100603 | 149.9 | | | | 27.0 | | 354.9 | 373.9 | | | | | | | | | | 103.7 | |
| | E7　20100603 | 362.6 | 136.4 | | | | | 327.5 | | | | | | | | | | | 16.9 | |
| | D9　20100603 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 247.0 | |
| | F11　20100609 | 398.4 | 71.6 | | | 132.3 | | 174.3 | 66.9 | | | | | | | | 26.6 | | 1008.5 | |
| | E6　20100601 | 48.3 | | | | | | | 238.0 | | | | | | 91.9 | | | | 244.8 | |
| | G11　20100609 | 132.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1044.5 | |
| | H12　20100609 | | | | | | | | 122.5 | | | | | | | | | | 211.2 | |
| | D6　20100608 | | | | | | | 18.4 | | | | | | | | | | | 495.0 | |
| | F8　20100603 | 68.1 | | | | | | 238.9 | | | | | | | | | | | 96.3 | |
| | D6　20100603 | | | | | | | 169.6 | | | | | | | | | | | 1054.9 | |
| 5-37明東拡土 | F11　20100630 | 225.9 | 63.1 | | | | | | 108.0 | | | | | | | | 132.1 | | 628.9 | |
| | E7　20100623 | 439.9 | | | | | | | 62.5 | 143.0 | | | | | | | | | 844.4 | |
| | F11　20100630 | 112.9 | 113.1 | | | | | 76.7 | 228.7 | 130.8 | | | | | | | | | 1293.2 | |
| | E9　20100624 | 196.2 | | | | | | 223.4 | 103.1 | | | | | | | | 72.8 | | 824.9 | |
| | D9　20100624 | 45.5 | | | | 116.7 | | | 353.9 | 116.4 | | | | | | | | | 770.3 | |
| | E7　20100624 | 174.3 | 88.3 | | | | | 96.1 | 68.2 | 84.6 | | | | | | | | | 115.1 | |
| | E10　20100624 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 241.3 | |
| | F14　20100702 | 71.7 | | | | | | | | 94.1 | | | | | | | | | 401.9 | |
| | D8　20100617 | | | | | | | 79.8 | | | | | | | | | | | 864.2 | |
| | D9　20100617 | 254.3 | 115.9 | | | | | 26.6 | 234.8 | 369.1 | | | | | | | | | 335.8 | |
| | E7　20100624 | | 59.3 | | | | | | 74.6 | | | | | | | | | | 416.2 | |
| | E7　20100623 | | | | | | | 27.9 | 35.8 | 56.2 | | | | | | | | | 264.4 | |
| | E8　20100623 | | | | | 12.1 | | | | | | | | | | | | | 76.2 | |
| | E8　20100623 | 364.4 | | | | 17.1 | | | | | | | | | | | | | | |

| 遺構番号 | 格子の大きさ（縦×横）マークなし | 縄目 | A：正格子 a | A：正格子 b | B：縦長斜格子 a | B：縦長斜格子 b | B：縦長斜格子 c | I：単格子 C：横長斜格子 a | C：横長斜格子 b | C：横長斜格子 c | D：斜格子・異方向線 | E：アミダ状格子 | F：回転格子 | H：二重格子 G：正格子 | H：二重格子 H：縦長斜格子 | H：二重格子 I：横長斜格子 | 格子分類不明線 | 斜線 | 無文・不明線 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D-39 | A8 20100602 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 144.9 | |
| D-39 | B2 20100602 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 16.7 | |
| D-41 | B9 20100603 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 98.3 | |
| D-42 | B6 20100603 | | | | | | | 96.5 | | 17.2 | | | | | | | | | 152.0 | |
| D-43 | B5 20100603 | | | | | | | | | 19.6 | | | | | | | | | 23.9 | |
| D-44 | B8 20100607 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 43.3 | |
| D-46 | A8 20100603 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 82.2 | |
| D-47 | L7 20100603 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 31.9 | |
| D-48 | D4 20100602 | 95.8 | | | | | | | | | | | | | | | | | 296.4 | |
| D-49 | B4 20100603 | | | | | | | 297.5 | | | | | | | | | | | 32.7 | |
| D-51 | B4 20100607 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 45.3 | |
| D-52 | C4 20100607 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6.6 | |
| D-53 | B3 20100607 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 12.8 | |
| D-54 | B9 20100623 | 172.0 | 252.9 | | | 381.5 | | 198.5 | 221.4 | | | | | | | | | | 390.5 | |
| D-55 | B9 20100630 | 85.0 | 515.1 | | | 115.1 | | 266.2 | 454.2 | | | | | | | | 272.0 | | 1615.2 | 軽石85.4 |
| D-56 | A8 20100607 | 20.5 | | | 369.6 | 65.9 | | 71.1 | | 70.8 | | | | | | | | | 601.5 | |
| | L8.9 20100607 | 50.0 | | | | | | 47.7 | 203.0 | | | | | | | | | | 790.1 | |
| D-61 | E10 20100607 | 366.1 | | | | 42.7 | | 598.4 | 38.1 | | | | | | | | | | 1185.9 | |
| D-61(試掘色土) | C10 20100607 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 229.6 | |
| D-62 | L8 20100607 | | | | | | | 36.6 | 86.7 | 233.4 | | | 69.3 | | | | | | 396.7 | |
| D-63 | L6 20100607 | | | | | | | 67.6 | 135.8 | | | | | | | | | | 36.1 | |
| D-64 | L6 20100607 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 61.2 | |
| D-66 | K7 20100607 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 12.6 | |
| D-67 | K8 20100607 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 77.9 | |
| D-68 | L7 20100607 | 31.7 | | | | | | | | | | | | | | | | | 83.4 | |
| D-69 | L7 20100607 | | | | | | | 25.2 | | | | | | | | | | | 67.7 | |
| D-70(黒泥色土) | G12 20100706 | 647.4 | | | | | | | | | | | | | | | | | 775.1 | |
| | G12 20100722 | 113.7 | 191.1 | | | | | 251.4 | 489.0 | | | | | | | | | | 1199.6 | |
| | G11 20100706 | 380.8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D-72 | L9 20100603 | | | | | | | | 20.6 | | | | | | | | | | 75.4 | |
| D-73 | M13 20100608 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 90.2 | |
| D-74 | L9 20100609 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 90.6 | |
| D-75 | H6.7 20100706 | 700.9 | 160.8 | | 13.9 | | | | 548.6 | 312.3 | | | | | | | 436.2 | 49.3 | 2380.8 | 軽8,380.9 |
| D-76 | L9 20100609 | | | | | | | | 128.1 | | | | | | | | | | 232.0 | |
| D-77 | L10 20100608 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 144.9 | |
| D-78 | L10 20100608 | 304.2 | 267.9 | | | 41.7 | | 211.1 | 147.0 | | | | | | | | 235.9 | 14.8 | 1635.4 | |
| D-79 | K10 20100608 | 191.2 | | | | | | | 36.3 | | | | | | | | | | 33.8 | |
| D-80 | L3 20100706 | | | | | | | | 278.4 | | | | | | | | | | 129.2 | |
| | K3 20100706 | | | | | | | 38.4 | 344.9 | | | | | | | | | | | |
| D-80敷 | L3 20100706 | | | | | 31.2 | | | 963.7 | 181.9 | | | 294.9 | | | | 156.6 | | 934.1 | 軽8,193.4 |
| | K3 20100706 | | 146.1 | | | | | | 125.8 | 82.0 | | | | | | | | | 1739.1 | |
| D-81 | K10 20100608 | | | | | | | | | | | | 26.4 | | | | | | 24.1 | |
| D-82 | K9 20100608 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 24.9 | |
| D-83 | K9 20100624 | | | | | | | 279.8 | | | | | | | | | | | 232.9 | |
| | K8 20100608 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 118.1 | |
| D-84 | F12 20100630 | 1216.2 | 244.2 | | | | | 725.0 | 322.4 | 309.6 | | | | | | | 262.6 | | 4331.5 | 軽平砥.2 |
| | L13 20100630 | 280.0 | 95.2 | | 64.9 | | | 66.3 | | 127.1 | | | | | | | | | 1436.4 | |
| | M12 20100617 | 614.5 | | | | | | 319.7 | 44.2 | 638.2 | | | | | | | | | 275.0 | |
| | F11 20100702 | 217.4 | | | | 18.3 | | 322.0 | 129.5 | | | | | | | | 178.8 | | 339.4 | 軽平石3.3 |
| | M12 20100609 | 184.3 | | | | 103.8 | | 734.9 | 273.6 | | | | | | | | | | 893.7 | |
| | E10 20100609 | | 91.2 | | | 108.5 | | 41.5 | 25.3 | 37.3 | | | | | | | | | 396.9 | |
| D-85 | D8 20100624 | 136.0 | | | | | | 18.5 | 200.9 | | | | | | | | | | 1341.2 | |
| | D9 20100609 | 145.5 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1296.6 | |
| | D8 20100621 | | 149.0 | | | | | 75.3 | | 48.2 | | | | | | | | | 1121.8 | |
| | D7 20100621 | 124.7 | | | | | | 14.6 | | | | | | | | | | | 306.9 | |
| | B2 20100609 | | 53.0 | | | | | | | | | | | | | | 188.6 | | 37.4 | |
| D-87 | B11 20100626 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 125.9 | |
| D-89 | J11 20100609 | 189.2 | | | | | | 290.7 | 335.5 | 91.9 | | | | | | | | | 1215.2 | |
| | K11 20100609 | 325.0 | 196.2 | | | | | | 45.0 | 148.5 | | | | | | | 188.8 | | 1092.9 | |
| D-91 | L6 20100609 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 332.7 | |
| D-92 | I11 20100609 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 26.8 | |
| D-93 | G7～7 20100621 | | 43.0 | | | | | 226.1 | | 34.9 | | | | | | | 26.0 | | 499.2 | |

| 遺構番号 | 格子の大きさ（縦×横）マークなし | 縄目 | A：正格子 a | A：正格子 b | B：縦長斜格子 a | B：縦長斜格子 b | B：縦長斜格子 c | I：単格子 C：横長斜格子 a | C：横長斜格子 b | C：横長斜格子 c | D：斜格子・異方向線 | E：アミダ状格子 | F：回転格子 | H：二重格子 G：正格子 | H：二重格子 H：縦長斜格子 | H：二重格子 I：横長斜格子 | 格子分類不明線 | 斜線 | 無文・不明線 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D-94 | F9 20100621 | 58.6 | | | | | | | | | | | | | | | | | 48.6 | |
| D-96 | F9 20100621 | 386.3 | | | | | | | | | | | | | | | | | 6.0 | |
| D-98 | I8 20100621 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 28.1 | |
| D-99 | I8 20100621 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 7.8 | |
| D-102 | I10 20100621 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 90.2 | |
| D-103 | K7 20100624 | | | | | | | | | | | | | | 215.0 | | | | 602.9 | 軽8,96.5 |
| D-104 | I10 20100624 | 109.9 | | | | | | 314.1 | 119.7 | | | | | | | | | | 236.0 | |
| D-106 | I6 20100624 | 36.9 | | | | | | | | | | | | | | | | | 294.2 | |
| | I5 20100624 | | | | | | | 74.4 | | 28.0 | | | | | | | | | 436.0 | |
| D-109 | H12 20100621 | 367.6 | | | | 96.9 | | 113.1 | 44.2 | 416.8 | | | | | | | | | 344.6 | |
| | F12 20100621 | | | | | 72.1 | | 82.1 | 196.4 | | | | | | | | 25.8 | | 1087.9 | |
| | H12 20100702 | | | | | | | | 28.0 | | | | | | | | | | 333.7 | |
| | G12 20100609 | | | | | | | | | 328.5 | | | | | | | | | 297.3 | |
| | G12 20100624 | 305.9 | 159.4 | | | | | | 125.9 | 446.2 | | | | | | | | | | |
| D-109 | H7 20100624 | 146.9 | 391.3 | | | | | 146.4 | 282.7 | 287.8 | 233.9 | | | 57.6 | | | 202.7 | 82.3 | 1921.6 | |
| | G7 20100702 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 371.2 | |
| G-111 | G5.6 20100702 | 495.2 | 495.1 | | 45.8 | 119.0 | | 258.8 | 123.0 | 95.5 | | | 133.1 | | | | 260.4 | | 1864.2 | |
| | G6 20100702 | 390.8 | | | | | | 131.0 | 293.7 | | | | | | | | 93.7 | | 1201.6 | |
| | D6 20100704 | 93.0 | | | | 1216.4 | | | | 196.4 | | | | | | | 79.4 | | 1435.9 | |
| | D6 20100702 | | | | | | | | 82.8 | 89.5 | | | | | | | | | 169.8 | |
| D-112 | G12 20100702 | 52.7 | | | | 103.1 | | 10.6 | 26.8 | | | | | | | | 86.9 | | 73.6 | |
| D-113 | E11 20100702 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 43.2 | |
| D-116 | K8 20100702 | | | | | | | 87.6 | | | | | | | | | | | 140.1 | |
| D-118 | F6 20100706 | | 58.4 | | | | | | | | | | | | | | | | 9.8 | |
| 表黒色土 | I12 K12 20100706 | 380.6 | 462.9 | | 66.3 | 324.8 | | | 1078.4 | 377.5 | | | | | | | | | 946.7 | |
| 暗黒色土 | 20100708 | 211.2 | | | | | | 182.6 | | | | | | | | | 62.9 | | 1776.7 | |
| | C6 20100526 | 178.3 | | | | | | | | | | | | | | | 13.7 | | 546.2 | |
| | C5 20100529 | | | | | | | | | | | | | | | 33.3 | | | 21.7 | |
| | E2 20100529 | | | | | | | 1040.7 | | | | | | | | | 54.3 | | 805.7 | |
| | E5 20100507 | | | | 384.8 | | | | | | | | | | | | 74.6 | | 65.9 | |
| | E7 20100526 | 33.4 | | | | | | | | | | | | | | | | | 504.6 | |
| 灰黒色土 | I10 20100716 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2422.5 | |
| 黒黒色土 | I11 20100630 | 236.4 | | | | | | 211.8 | | 103.0 | | | | | | | | | 838.2 | |
| | K11 20100716 | 36.3 | | | | 160.6 | | 68.3 | | 132.3 | | | | | | | | | 94.6 | |
| 灰褐色土 | B9 20100706 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 軽8,122.2 | |
| | E5 20100511 | 895.3 | | | | | | 1299.2 | 232.9 | | | | | | | 380.9 | 642.8 | | 1226.2 | |
| | E5 20100523 | 407.3 | | | | | | | 144.4 | | | | | | | | | | 311.0 | |
| | E7 20100723 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 153.1 | |
| 灰褐色砂 | L2 20100623 | 156.2 | 306.2 | | 30.8 | 498.6 | | 522.8 | 585.9 | 1251.7 | | | | | | | 285.4 | | 3854.9 | 軽8,67.9 |
| 茶色土 | K8 20100506 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 40.2 | |
| | I8 20100428 | 23.1 | | | | | | 83.2 | | | | | | | | | | | 66.5 | |
| | I12 20100428 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 250.1 | |
| | H8 20100511 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 146.3 | |
| | L8 20100602 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 160.9 | |
| | I7 20100607 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 44.2 | |
| | I7 20100506 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 128.8 | |
| | I11 20100429 | 29.7 | 82.3 | | | | | | | | | | | | | | | | 290.8 | |
| | I8 20100511 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 25.3 | |
| | L6 20100601 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 329.7 | |
| | K5 20100514 | 261.5 | | | | | | | | | | | | | | | | | 96.1 | |
| | I6 20100511 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 165.9 | |
| | I5 20100514 | 15.1 | 57.7 | | | | | | | | | | | | | | | | 321.1 | |
| | L7 20100601 | | | | | | | 157.0 | | | | | | | | | | | 12.7 | |
| | 上層 20100629 | | | | | | | | 6.4 | | | | | | | | | | 142.9 | |
| | 20100716 | 640.1 | 99.3 | | | | | 60.1 | 466.0 | | | | | | 227.1 | 32.9 | 203.5 | | 729.1 | |
| | K11 20100430 | 7.3 | 29.9 | | | | | | | | | | | | | | | | 951.2 | |
| | I12 20100430 | | | | | | | 224.9 | | | | | | | | | | | 665.7 | |
| | I12 20100511 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 39.4 | |
| | I9 20100428 | | | | | | | | 99.9 | | | | | | | | | | 172.9 | |
| | I8 20100511 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 9.3 | |
| | I9 20100511 | 123.4 | | | | | | | | | | | | | | | | | 122.1 | |
| | K8 20100506 | | | | | | | | 13.1 | | | | | | | | | | 668.1 | |
| | K11 20100430 | | | | | | | 62.4 | 237.9 | | | | | | | | | | 143.8 | |

| 遺構番号 | 格子の大きさ(縦×横) / ラベル | 縄目 | I:単格子 A:正格子 a | A:正格子 b | B:縦長斜格子 a | B:縦長斜格子 b | B:縦長斜格子 c | C:横長斜格子 a | C:横長斜格子 b | C:横長斜格子 c | D:斜格子+異方向線 | E:アミダ状格子 | F:田田格子 | II:二重格子 A:正格子 | B:縦長斜格子 | C:横長斜格子 | 格子分類不明瞭 | 斜線 | 無文・不明 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 茶色土 | J13 20100430 | 91.2 | | | | | | | | | | | | | | | 20.7 | | 660.7 | |
| | J15~# 20100621 | 240.7 | | | | 80.0 | | 252.1 | 128.6 | 550.4 | | | | | | | | | 804.4 | |
| | J10 20100428 | 42.4 | | | | | | 68.6 | 84.2 | 153.3 | | | | 44.4 | | | | | 289.1 | |
| | J18 20100430 | 22.8 | 186.2 | | | 114.6 | | 94.2 | 67.5 | | | | | | | | 40.1 | | 735.0 | |
| | J12 20100428 | 67.3 | | | 69.8 | 68.3 | | | | 28.6 | | | | | | | | | 224.3 | |
| | J11 20100430 | 57.2 | | | | | | 121.7 | 295.0 | 82.5 | | | | | | | | | 173.9 | |
| | K7 20100511 | | | | | | | | 47.9 | | | | | | | | | | | |
| | LK.10 20100603 | 404.8 | 26.9 | 28.6 | | | | | 74.5 | | | | | | | | | | 1582.6 | |
| | K10 20100430 | 179.5 | | | | | | 100.3 | 27.9 | | | | | | | | | | 1387.5 | |
| 茶褐色土 | H3 20100621 | | | | 85.7 | | | | 28.8 | 251.9 | | | | | | | | | 217.6 | |
| | H9 20100603 | 22.0 | | | | 99.0 | | | 177.1 | 139.2 | | | | | | | | | 342.8 | |
| | H11 20100603 | 250.3 | | | | | | 19.5 | | | | | | | | | | | 893.3 | |
| | G4 20100521 | 88.8 | | | | | | 337.2 | 124.5 | | | | | | | | 165.6 | | 932.9 | |
| | F6 20100528 | 89.0 | | | | | | 218.5 | | | | | | | | | 42.4 | | 1314.0 | |
| | H13 20100524 | 200.5 | | | | | | 459.1 | 171.5 | | | | | | | | | | 742.2 | |
| | 20100708 | 61.7 | | | | | | 96.2 | | | | | | | | | | 49.0 | 588.1 | |
| | G6 20100701 | | | | 193.2 | | | 155.8 | 222.9 | | | | | | | | 94.1 | | 1737.9 | |
| | H12 20100601 | 61.3 | | | | 199.1 | | 170.4 | 199.3 | | | | | | | | | | 330.8 | |
| | I8 20100524 | 178.7 | | | | | | 271.3 | 274.9 | | | | | | | 69.9 | | | 847.3 | |
| | H17 20100702 | 22.7 | | 451.2 | | 244.0 | | | 125.5 | | | | | | | | 95.4 | | 272.9 | |
| | G7 20100701 | 545.4 | | | | | | | | | | | | | | | | | 71.3 | |
| | G8 20100521 | 146.2 | | | | | | | | | | | | | | | 7.8 | | 375.4 | |
| | 中段 20100511 | 79.7 | 18.5 | 177.1 | | | | | | | | | | | | | 26.3 | | 750.9 | |
| | I4 20100701 | 56.4 | | | | | | | 98.2 | | | | | | | | 144.4 | | 584.2 | |
| | K8.10 20100531 | | | | | | | 40.0 | | | | | | | 69.2 | | 20.5 | | 361.7 | |
| | F5 20100526 | 140.2 | 231.9 | | 361.9 | | | 49.3 | 32.9 | | | | 105.5 | | | | 67.2 | | 1337.1 | |
| | I5 20100704 | 64.8 | | | | | | 143.8 | | | | | | | | | 100.8 | | 290.7 | |
| | G6 20100524 | 118.1 | | | | 88.0 | | | | | | | | | | | | | 805.6 | |
| | E9.10 20100531 | 139.5 | 50.4 | | | | | 188.5 | | 134.4 | | | | | | | | | 1073.2 | |
| | E7 20100528 | | | | | | | 155.3 | 122.4 | 144.3 | | | | | | | | | 318.0 | |
| | G11 20100608 | | 71.3 | | | | | 104.5 | | 29.7 | | | | | | | | | 892.5 | |
| | G5 20100602 | | | | | 70.6 | | | 78.9 | 115.6 | | | | | | | 97.5 | | 265.4 | |
| | H5 20100701 | | | | | 104.4 | | 305.5 | 909.8 | | | | | | | | | | 10.0 | |
| | F8 20100531 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 190.6 | |
| | F7 20100528 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 924.7 | |
| | F7 20100541 | 91.6 | | | | 134.8 | | 358.8 | | | | | | | | | | | 471.1 | |
| | H6 20100701 | | | | | 319.0 | | 721.3 | 67.4 | | | | | | | | | | 91.8 | |
| | D 20100521 | 146.3 | | | | 137.6 | | | | | | | | | | | | | 676.1 | |
| | F5 20100526 | 156.2 | | | | 85.3 | | 308.0 | 170.2 | 33.8 | | | | | | | | | 914.7 | |
| | G6 20100601 | 79.2 | | | | 51.6 | | 316.0 | 77.9 | | | | | | | | | | 330.2 | |
| | G5 20100602 | | | | | 492.7 | | | 131.5 | | | | | | | | | | 368.9 | |
| | H3 20100523 | 79.0 | 72.3 | | | | | 68.4 | | | | | | | | | 33.8 | | 370.6 | |
| | F8 20100524 | 600.0 | | | | 147.7 | | | | 172.0 | | | | | | | 24.5 | | 482.3 | |
| | G7 20100524 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 87.2 | 軒丸102.8 |
| | I8 20100524 | | | | | | | 32.8 | 29.8 | | | | | | | | | | 264.9 | |
| | G9 20100601 | 20.1 | | | | 335.9 | | | | | | | | | | | | | 188.5 | |
| | G9 20100702 | | | | | | | | 147.6 | | | | | | | | | 181.9 | 206.4 | |
| | G7 20100706 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 202.5 | |
| | F10 20100521 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 229.1 | |
| | G4 20100521 | | | | | | | 61.7 | 64.8 | | | | | | | | 95.7 | | 39.1 | |
| | F12 20100524 | | | | | | | | 371.8 | | | | | | | | | | 51.7 | |
| | G6 20100706 | | | | | | | | 493.4 | 170.5 | | | | | | | | | 12.3 | |
| | E7 20100524 | | | | | | | | 12.6 | | | | | | 81.4 | | | | 212.1 | |
| | H8 20100603 | 68.1 | | | | | | 49.9 | | | | | | | | | | | 93.0 | |
| | H9 20100608 | | | | | | | | 25.3 | | | | | | | | | | 213.3 | |
| | K10 20100630 | 34.2 | | | | | | | | | | | | | | | 72.8 | | 50.0 | |
| | H4 20100602 | | | | | | | 123.0 | | | | | | | | | | | 172.0 | |
| | H5.6 20100603 | 49.5 | | | | | | 34.9 | 315.0 | | | | | | | | | | 128.0 | |
| | K10 20100603 | | | | | 20.9 | | 10.6 | | | | | | | | | | | 109.6 | |



| 遺構番号 | 格子の大きさ(縦×横) / ラベル | 縄目 | I:単格子 A:正格子 a | A:正格子 b | B:縦長斜格子 a | B:縦長斜格子 b | B:縦長斜格子 c | C:横長斜格子 a | C:横長斜格子 b | C:横長斜格子 c | D:斜格子+異方向線 | E:アミダ状格子 | F:田田格子 | II:二重格子 A:正格子 | B:縦長斜格子 | C:横長斜格子 | 格子分類不明瞭 | 斜線 | 無文・不明 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黄土 | L8 20100706 | 267.6 | 93.9 | | | 97.0 | | 48.5 | | 173.8 | | | | | | | 30.0 | | 874.8 | |
| | 20100728 | 280.9 | | | | | | 288.6 | 71.4 | 187.1 | | | | | | | | | 1414.5 | |
| | L3 20100706 | 165.6 | | | | | | 274.9 | 491.1 | 725.4 | | | | | | 117.3 | 21.0 | | 1906.9 | |
| | 20100716 | 132.9 | 47.5 | | | 326.1 | | 474.9 | 249.9 | 168.2 | | | | | | | | | 364.9 | |
| | 中段 20100416 | | | | 94.4 | | | | | | | | | | | | | | 871.1 | |
| | 20100526 | | | | | | | 550.9 | 181.2 | 193.6 | | | | | | | | | 694.7 | |
| | 20100514 | | | | | | | | 197.8 | 212.9 | | | | | | | | | 69.1 | |
| | L3 20100609 | | | | | 98.6 | | 30.4 | 80.6 | | | | | | | | | | 307.2 | |
| | 中段 20100428 | | | | | | | 165.4 | | | | | | | | | | | 365.3 | |
| | 20100601 | | | | | | | | 21.9 | | | | | | | | | | 42.3 | |
| | 中段 20100416 | 54.4 | | | | | | 1296.1 | 1108.5 | | | | | | | | | | 1734.8 | 軒平650.8 |
| | 中段 20100609 | 290.9 | | | | 424.7 | | | 2904.9 | | | | | | | | | | 1171.5 | |
| | 20100428 | 116.1 | | | | 65.1 | | | 239.9 | 217.7 | | | | | | | | 43.3 | 771.2 | |
| | 20100702 | | | | | | | | 390.5 | | | | | | | | | | 275.9 | |
| | I4 20100512 | 75.4 | | | 58.9 | | | | | | | | | | | | 98.8 | | 671.8 | |
| | 中段 20100416 | | | | | | | 395.6 | 1250.2 | | | | | | | | | | 412.3 | |
| | 上段 20100409 | | | | | 213.8 | | | 70.2 | | | | | | | | | | 308.1 | 軒丸17.9 |
| | 中段 20100409 | 1002.1 | | | | | | 454.7 | 128.7 | | | | | | | | 26.9 | | 761.8 | |
| | 20100428 | | | | | | | 943.3 | 168.5 | | | | | | 135.4 | | | | 780.1 | |
| | L11 20100621 | 123.5 | | | | | | | 272.1 | | | | | | | | 33.7 | | 995.4 | |
| | 中段 20100409 | | | | 197.8 | | | | 231.7 | | | | | | | | 217.8 | | 1042.9 | |
| | F6 20100526 | | | | | | | | 87.3 | | | | | | | | 342.8 | | 644.2 | |
| | 上段 20100428 | 118.6 | 327.8 | | | | | 398.7 | | 181.4 | | | | | | | | | 475.8 | |
| | 20100728 | | | | | 366.5 | | 112.8 | 193.2 | | | | | | | | | | 486.0 | |
| | 中段 20100416 | | | | | | | | | | | | | | | | 284.4 | | 255.5 | |
| | 20100428 | | | | 82.3 | | | | | | | | | | | | 270.6 | | 123.7 | |
| Aトレンチ | I6 20100719 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 38.8 | |
| Bトレンチ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Cトレンチ | I7 20100716 | | | | | 193.9 | | | | | | | | | | | 11.1 | | | |
| Dトレンチ | G5 20100716 | 298.3 | | | | | | | 257.1 | | 292.3 | | | | | | | | 283.3 | |
| | 計 (g) | 34311.4 | 19473.0 | 3203.5 | 4992.9 | 25438.0 | 408.1 | 57671.4 | 67601.4 | 66466.9 | 1751.0 | 743.6 | 2751.5 | 950.6 | 1647.2 | 1692.4 | 17308.7 | 2080.5 | 273118.4 | 合計 582233.4 |
| | 割合 (%) | 5.9274 | 3.3445 | 0.5504 | 0.8575 | 4.3175 | 0.0701 | 9.9052 | 11.6246 | 11.5643 | 0.2983 | 0.1228 | 0.4443 | 0.1614 | 0.2778 | 0.2907 | 2.9728 | 0.3573 | 46.9084 | 100.0000 |

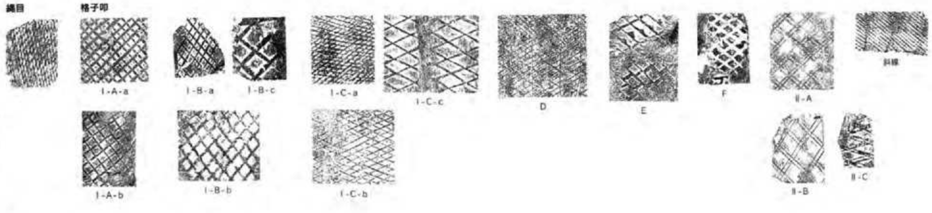



Fig. 33 第42次調査瓦叩き目分類凡例

## 2、第43次調査

### (1) 調査に至る経過

第43次調査地点は太宰府市大字内山883番地の竈門神社境内地にあたり、平成25年度に開催予定の宝満山開山1350年大祭に伴い記念事業が予定され、社務所改築を含む境内整備をすることとなり、平成20（2008）年度より埋蔵文化財の事前協議を行った。工事概要は石垣の解体、土留め工事を伴う境内の造成と、昭和2（1927）年落成の木造平屋の社務所を鉄筋構造の建物への改築であった（Fig.34）。

建物部分の試掘調査は、平成20（2008）年12月25日に社務所西側に1箇所、平成23（2011）年11月1日に社務所下に3箇所のトレンチを設けて行い、建設工事に伴う進入路の整備に伴って、平成23年11月1日にも斎館西と北側で13箇所のトレンチを設けた試掘調査を実施し遺物を回収した。文化財保護法第93条に基づく建物の基礎工事の立会調査は、本殿北西の仮社務所建設時の平成23年7月23日と、新社務所の基礎打設に伴う掘削作業時の平成23年12月19、20日に行い、壁面などから遺物を採集している（Fig.36・37）。また、神社境内の測量、社務所・斎館の家屋調査や石像品の調査は平成23年4月に、文書関係の調査は平成23年5月2日に行った。

### (2) 基本層位

今回の調査では社務所、仮社務所、斎館西・北側の3箇所で掘削による土層観察を行った（Fig.36）。社務所地点では平成23年12月19、20日の立会調査によって、現地表下3mに至っても観察された橙茶色土、黄茶色土等は近代以降の瓦を含む遺物を含み、社殿建設以前の地山には至っておらず、かなり深い谷部を人為的に埋めた箇所であったことが判明した。平成23年7月23日の現在の本殿北西の仮社務所の立会調査では、東側の地表下0.4mで橙褐色を呈す花崗岩風化土の地山が確認されている。本殿は大正15年に造成工事が行われ、江戸時代以来のものが建て替えられたものだが、その基礎工事時の写真が社務所に保管されており、その状況から本殿は花崗岩風化土の地山を掘削して建ったことが理解される。このことから、現在の本殿基壇南側は急に深くなる谷地形であったと考えられる。近代以降に形成された谷の埋没土には中世の土師器、中世後期以降の瓦が含まれており、土壌が周辺の土壌を削って寄せられたのであれば当該時期の遺物包含層があった可能性がある。神社社殿がいつから現在の位置にあったのかを考える上で示唆的である。

平成23年11月1日の斎館西と北側での試掘調査では、ほとんどのトレンチで地表下0.3～0.5mほどで橙茶色の花崗岩風化土壌の地山が観察された。そのうちEとLトレンチでは茶褐色土から土器片や古代の瓦片が見つかっており、この地点より高位置にある斎館側の法面でも土器片や磁器片が散見されることから、この山際に中世から近世にかけての遺物包含層があるものと考えられる。

### (3) 出土遺物

**試掘調査出土遺物**（Fig.37）

ここで紹介するものは平成23年11月1日の試掘調査によって得られた遺物である。

土師器

小皿a（1） 酸化炎焼成で焼かれたもので、淡い橙色を呈す。復原口径10.9cm、器高0.9cm、底径8.2cmに復原される。底部は糸切り後に板状圧痕が残される。11世紀後半以降の所産である。

須恵器

坏c3（2） 暗灰色を呈し硬質な胎土を持ち、口径10.4cm程度、器高2.5＋α cm、底径7.9cmに復元される。高台がやや外に開く形状で、体部下に屈曲部位があり、8世紀でも前半の大宰府土器編年第Ⅱ～Ⅲ期の様相を持つ。



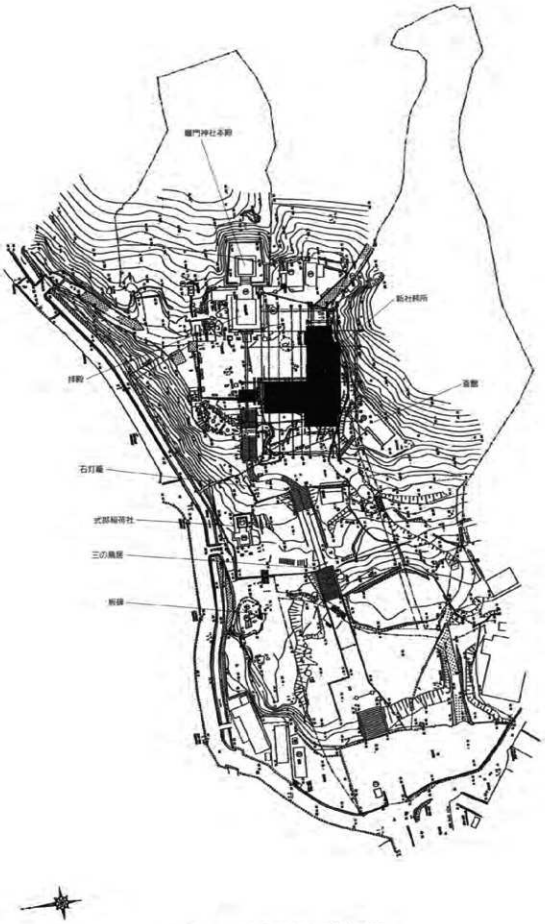



Fig.34 竈門神社境内工事施工図

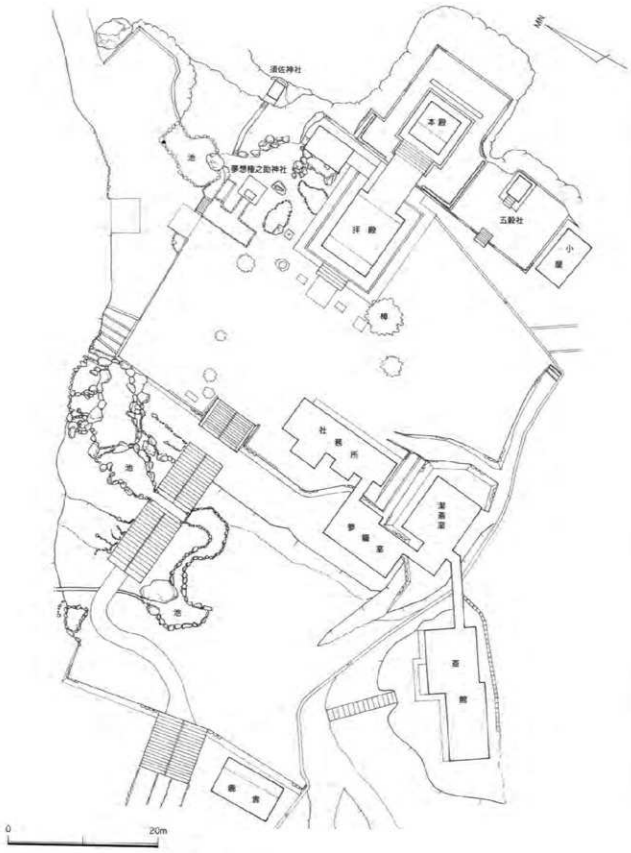



Fig. 35　邇門神社境内東側測量図（1/500）



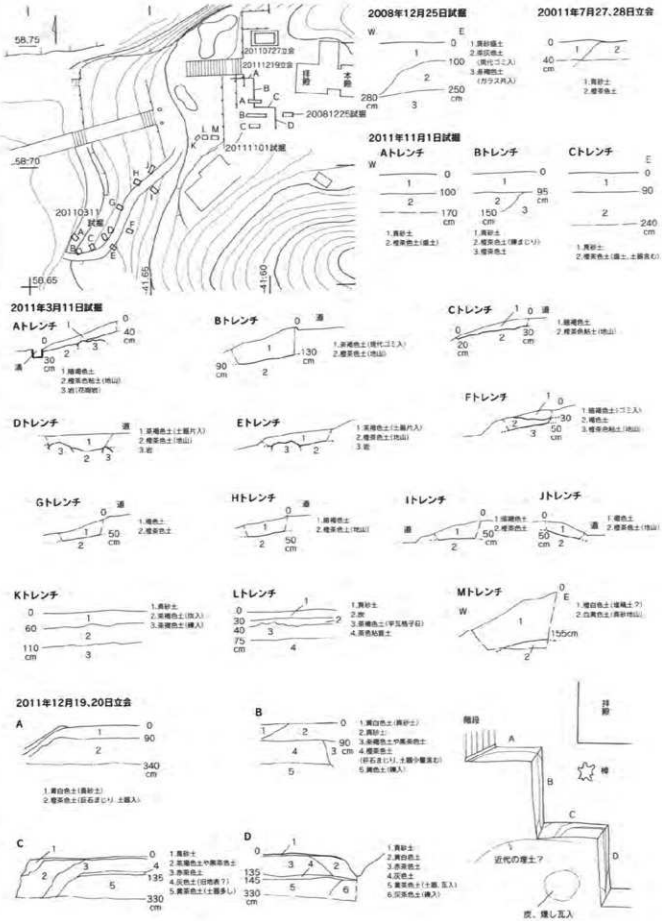



Fig. 36　第43次調査試掘調査・立会調査土層略測図

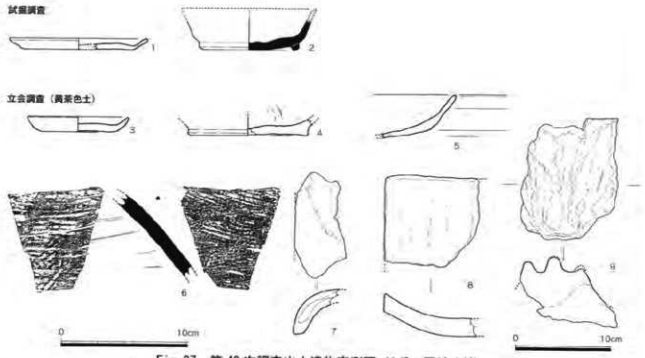



Fig. 37　第 43 次調査出土遺物実測図（1/3、瓦は 1/4）

**立会調査出土遺物**（Fig. 37）

ここで紹介するものは平成 23 年 12 月 19、20 日の立会調査によって得られた遺物である。

土師器

小皿 a（3）　淡灰褐色を呈す軟質な胎土を持ち、底部は糸切りで切り離される。口径 8.0cm、器高 1.2cm、底径 5.8cm に復元される。XIX 期の 14 世紀前半頃の所産か。

坏 a（4）　淡橙褐色を呈す軟質な胎土を持ち、やや厚みのある底部を持つ。底部は糸切りで切り離される。器高 1.4cm を測る。

丸坏 a（5）淡橙褐色を呈す軟質な胎土を持ち、底部付近にヘラ切りの痕跡が見られる。器高 3.4cm を測る。11 世紀中頃の所産か。

須恵質土器

甕（6）　還元焼成で硬質な胎土を持つ。外面のタタキ目と内面の当て具ともに疑似格子目の刻みを持ち、外面は摺り消された状況を呈す。内面には横位の沈線が数条入る。搬入品で産地は不明である。

瓦類

丸瓦（7）　酸化焼成で軟質。芯のみ還元化している。内面に布当ての痕跡があり、端部はヘラ切りか。淡橙色を呈す。形状から中世後期から近世の所産と考えられる。

平瓦（8）　還元焼成気味で表面の大半は淡灰褐色を、表面の一部は燻しにより黒灰色を呈す。内面の縦方向に段状の筋が並行してみられる。作業台の木の合わせ目のずれによるものか。中世後期から近世の所産と考えられる。

道具瓦（9）　残存している部位にやや撥形に開く 3 条の隆起線が残される。鬼瓦の眉間のしわの部分か。焼成は軟質で白灰色を呈す。中世後期から近世の所産と考えられる。

(4) 調査まとめ

①調査の所見

今回の調査は工事に合わせた確認作業が主となったため、埋蔵文化財としての所見は十分得られなかった。少なくとも社務所の建つ位置は花崗岩の傾斜面に中世までの遺物を包含する層があり、その上に多量の近世以降の土壌が載せられて整地され、その前面に石垣が築かれていたと言える。立会調査も



含めて出土した遺物は奈良時代から近世に及ぶもので、これまで下宮地区で行ってきた第 24、27、36、37 次調査などの出土遺物の時代幅にほぼ一致している。奈良時代では前半の時期から人の活動が認められ、広大な山中での祭祀行為の基点としての機能が、この下宮地区にあった可能性がある。現在この竈門神社本殿のある場所に、いつの時代より下宮の社殿が建設されていたのか、文献では確実な資料を見つけ果せてはいない。その意味で、立会調査で鬼瓦を含む中世後期から近世に位置付けられる瓦類が発見されたことは貴重であった。

②境内の変遷

今回の調査においては具体的な社殿の建造時期や規模について知ることが出来なかった。近代に至るまで宝満宮や竈門宮と表記された神社は上宮が本殿であり、山裾の下宮は山頂を遙拝する拝殿的な機能であったと思われる。江戸前期に編まれた『竈門山旧記』には「上宮に対して下宮と号す。大塔、金堂、鐘楼、大講堂、僧房、食堂、文庫、経蔵、神社伽藍所々其跡猶存せり。大塔輪堂の跡は心柱の礎に可知。傍に礼拝石と云有り。山上の宮拝する所也」と記載され、伝聞では一大伽藍が展開していた土地だと説明されている。境内にある下宮礎石がその代表的な遺跡となっているといえようか。江戸後期に編纂された『筑前国続風土記附録』には宝満山の絵図が採用されており、江戸後期の下宮地区の概要を知ることができる（Fig. 40）。それによれば、参道は現在も境内の式部稲荷社近くにある金剛兵衛の板碑（図中では「紹翁石塔」とあり）辺りが境内の入り口であり、鳥居を潜ると数段の階段が設けられており、坂道のすがらの左手に大師堂と祇園社が順に並び、反対の右手には留守坊としての圓光院が描かれる。さらにその奥の最高所に入母屋造りの下宮社殿が描かれている。ここで描かれている社殿は幕末に焼失し、安政元（1854）年に黒田藩によって再建されている。再建された社殿は大正 15 年まで保持され、絵葉書などにより写真でその姿を見ることが出来る（写真 1）。

境内地の近代以降の変遷について、今回の社務所移転に伴う文書調査によって大正 14 年以前、昭和 2 年 4 月、昭和 16 年、昭和 18 年の境内図が発見された。これによれば、大正 14 年までは江戸時代以来の境内の地形を保ち、参道は現在より狭く直線で、現在の式部稲荷社の位置を抜けて境内西側の消防小屋方向に延びていた。下宮礎石建物とは参道を挟んで反対の位置にあたる金剛兵衛の板碑のある辺りには民家が数軒建ち並んでいた。下宮本殿と社務所が建て替えられた昭和 2 年までには民家周辺は解消され、斎館も位置が変更されている。現在の式部稲荷社の位置に石垣が整備され、ここが下宮正面の観を呈すようになった。昭和 16 年には下宮礎石建物のある位置の一部を含む現在の境内西側の土地が編入された。そして昭和 18 年に斎館が現在の位置に建て替えられ、なによりも幅の広い現在の参道が新規に掘削整備され、駐車場東にある階段と石鳥居を正面とする、現在の境内地の形状に至っているようである。

○竈門神社旧下宮境内の近世以降の変遷

慶長 2（1597）年　小早川隆景による諸堂の復興。下宮も再建か。

安永 9（1780）年　参道石鳥居建立。

安政元（1854）年　黒田藩による焼失した社殿の再建。

明治初期頃　仏教系堂社（圓光院、祇園社、大師堂）の廃止・破脚。

明治 27（1894）年　村社から官幣小社へ昇格。

明治 45（1912）年　この頃までに石階段の造作など参道の整備あり。

大正 14（1925）年～昭和 2（1927）年　社殿と社務所の全面改築。社殿は切り土造成して規模が拡張される。

③境内地内のその他の文化財

**石垣**（Fig. 38）

今回の調査では社務所西側斜面上段の石垣を実測した。高さは3mを測る。下から1.6mまでのベースは幅0.4～0.6mの花崗岩を平置きしたものに、左方向に寝せる斜め目地となる石組みをしたものであり、標高175mから上はランダムに花崗岩を積んで目地をモルタルで塗ったごく新しいと思われる石組みを積み足したものである。その上に「昭和63年1月造」とある花崗岩切石による柵が載っている。境内の変遷過程から、下段は江戸時代、上段は昭和のものと考えられる。

**石鳥居**（Fig. 38）

参道中間に建つ三の鳥居で、右柱に「安永九年庚子年一月吉日加藤一敦□建之」、左柱に「下新市□富　昌平」と陰刻されている。笠木は島木先に多生反り増しが見られ、分割は中央位置であり、扁額は束と額が一体の造りで、『蘆門山　宝満宮　下宮」の文字が陰刻されている。中抜きは中央と両脇が別造りの差し込み式である。柱は継ぎ手のない一本作りで、礎石は用いず原石を残して先を太くしたものと考えられる。参道外の地表面から笠木先までの高さは4.7m、笠木の幅5.8m、柱は内側に1度12分転ぶ傾斜を持つ。笠木の接合や継ぎのない1本柱、柱の転びから江戸後期の筑前地方での八幡型鳥居の典型的な形状を持っている。

**石灯籠**（Fig. 38）

参道階段脇に型式の異なる2基の石灯籠がある。北側のものは竿に「奉献　永代常夜燈」「文化十一年甲戌三月吉日」とある。宝珠の受けは輪花状の飾りがあるもので、笠は横に広い形状を呈す。総高2.49m、台座の幅0.88m、火袋の幅0.36m、笠の幅0.8mを測る。南側のものは竿に「献燈」「明治三十五年八月吉日」とあり、総高2.7m、台座の幅0.98m、火袋の幅0.33m、笠の幅0.65mを測る。

**板碑**（Fig. 38）

『筑前国続風土記附録』に「紹鉛石塔」と紹介され、地元では式部稲荷社近くにある刀鍛冶の「金剛兵衛」（宝満山の刀鍛冶師）の石塔として知られる板碑である。花崗岩製で方形の台石にはめ込まれた状態で建っている。頭が三角形で上部に2条の帯を表現した段を有する。碑は上位で斜めに折れたものがコンクリートモルタルで接合された形となっているが、不動明王（カーン）の梵字種子の下に蓮華座が線刻されている。台座は高さ0.28m以上、幅0.7m、碑の高さは1.62m、頭の幅0.34m、下の幅0.38mを測る。現状では銘文は確認できない。太宰府地域では希少な碑伝形を呈す中世後期（鎌倉時代後期～室町時代）の板碑である。

**石塔**（Fig. 38）

境内地の斎館西に五輪塔の空風輪が1点残されている。凝灰岩製とみられる素材で、高さ19cm、幅15.6cmを測るやや高さに対して幅のある形状を呈している。中世後期の所産と見られる。中世から下宮の存在が確実視されるが、このような石造品の残存が、この場所が中世以来の霊地としての信仰の場であったことを示しているのかも知れない。

**建造物**（Fig. 39）

今回建て替えの対象となった建物は社務所、その後に建った社務所南側の参籠室、その南側の潔斎室、そこから渡り廊下で下った西にある斎館である。社務所は台湾からのヒノキ材で大正15年に建てられたもので、斎館は昭和18年に建ったものである。



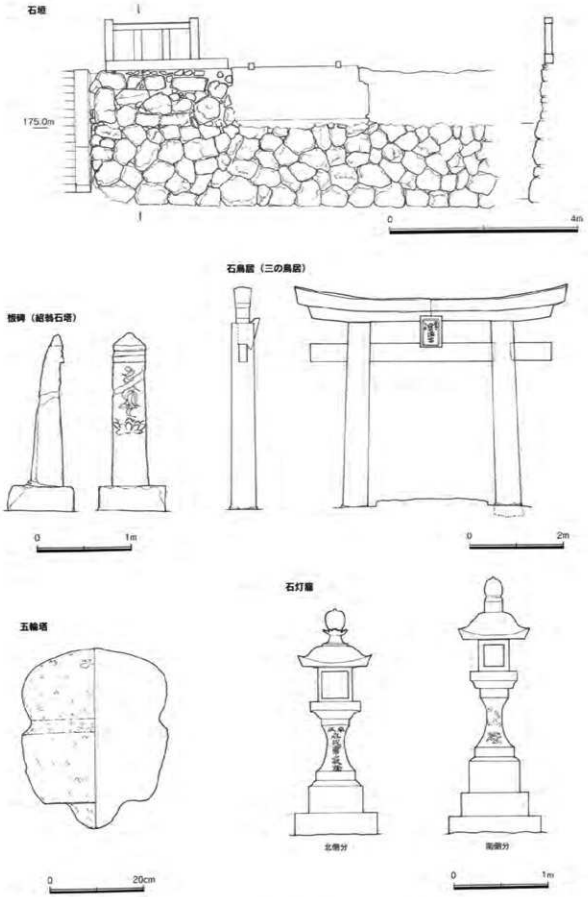



Fig. 38　蘆門神社境内石造物実測図

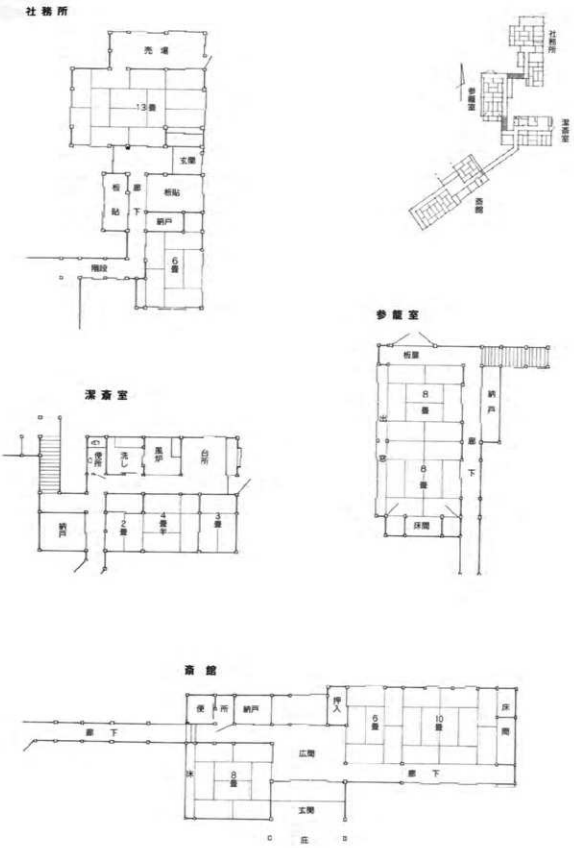



Fig.39　第43次調査　竈門神社境内建造物略測図

Fig. 40　『筑前国続風土記附録』の宝満下宮の境内図（トレース図）

写真1　大正15年改築以前の竈門神社本殿

**表5　第43次調査　出土遺物一覧表**

斎館北側表土

| | | |
|---|---|---|
| 須　恵 | 器 | 供膳具 |
| 白 | 磁 | 皿；IX(1) |

立会調査(黄茶色土)

| | | |
|---|---|---|
| 土　師 | 器 | 坏a(ヘラ)　坏a?(イト)　小皿a(イト) |
| 須 恵 質 土 | 器 | 甕 |
| 瓦 | 類 | 平瓦(瓦質、無文、中世～)　丸瓦(土師質、無文)　道具瓦(瓦質、中世～) |

試掘調査

| | | |
|---|---|---|
| 須　恵 | 器 | 坏c3 |
| 土　師 | 器 | 坏a?　小皿a(イト)　小皿a(ヘラ) |



# 写真図版

写真図版には遺構の主な写真を掲載している。その他の遺構写真および遺物写真は、付録のCDにカラー情報で収録している。

第 42 次調査地全景と宝満山（西から）

第 42 次調査第 1 面全景（上が北）

第 42 次調査第 2 面全景（上が北）

42SB001 建物全景（上が北）

42SX045 石段全景（南から）

42SX040 基壇東辺全景（東から）

42SX040 基壇南辺と SX065（手前）検出状況（南から）

42SX040 西辺検出状況（西から）

42SX040 基壇西辺石列と SX002 整地状況（南から）

42SX090 検出状況（南から）

42SB001 礎石 a 状況（南から）

42SB001 礎石 d 状況（南から）

42SB001 礎石 j 状況（東から）

42SB001 礎石 j 状況（東から）

上段法面の礎石？転落状況（東から）

42SB001c 礎石抜き取り痕状況（南から）

42SB001e 礎石抜き取り痕状況（南から）

42SB001f 礎石抜き取り痕状況（南から）

42SX030 検出状況（北から）

42SX030 転落石除去状況（北から）

42SX030 転落石除去状況（上が東）

42SX030 石敷状況（東から）

42SX020 検出状況（南から）

42SX050 検出状況（南西から）

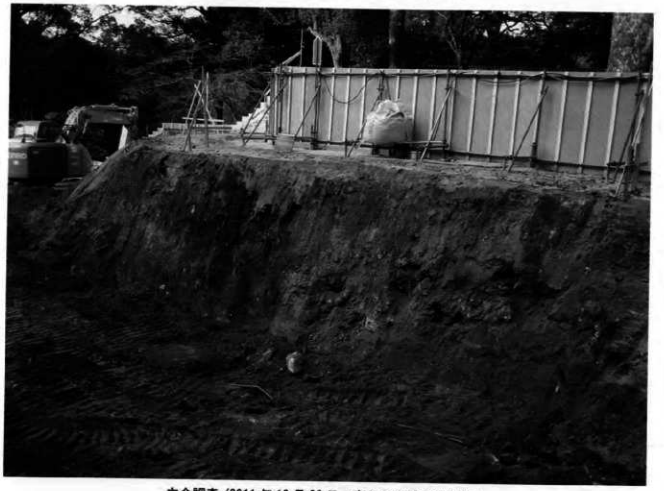
42SX005 検出状況（南から）

42SX015 検出状況（南西から）

42SX025 検出状況（西から）

第 42 次調査地全景と脊振山遠景（東から）

試掘調査全景（2011年3月11日、南西から）



立会調査（2011年12月20日、南からC壁面を望む）

竈門神社拝殿と本殿（南西から）

竈門神社社務所遠景（北東から）

竈門神社本殿正面石垣（北から）

竈門神社境内中段の鳥居（南西から）

竈門神社境内中段北側石灯籠（南西から）

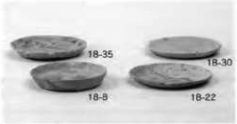
竈門神社境内中段南側石灯籠（北西から）

竈門神社境内の板碑（南から）

竈門神社境内の五輪塔空風輪

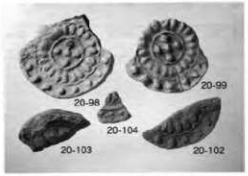
42SX018 出土鬼瓦（Fig. 14）

42SX030 茶灰色土出土土師器（Fig. 17）

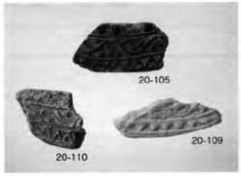



42SX030 灰色粘土出土土師器（Fig. 18）

42SX030 灰色粘土出土瓦製品（Fig. 19-91）

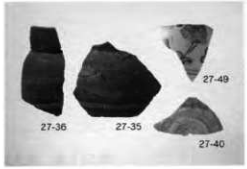



42SX030 灰色粘土出土軒丸瓦（Fig. 20）




42SX030 灰色粘土出土軒平瓦（Fig. 20）

42SX035 出土土製品（Fig. 24-27）




42SX037 出土遺物（Fig. 27）

42SX033 茶灰色土出土
瓦質土器花立（Fig. 28-71）

第 43 次立会調査出土鬼瓦（Fig. 36-7）

## 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | ほうまんざんいせきぐん |
| 書名 | 宝満山遺跡群　7 |
| 副書名 | 宝満山遺跡群　第42・43次調査 |
| シリーズ名 | 太宰府市の文化財 |
| シリーズ番号 | 117集 |
| 編著者 | 宮崎亮一　山村信榮 |
| 編集機関 | 太宰府市教育委員会 |
| 所在地 | 福岡県太宰府市観世音寺1丁目1番1号 |
| 発行年月日 | 2012（平成24）年12月28日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | 条坊<br>【観山推定案】 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | <br>遺跡番号 | 座標<br>X | <br>Y | 調査期間<br>開始 | <br>終了 | 調査面積<br>㎡ | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ほうまんざんいせきぐん<br>宝満山遺跡群　第42次 | 条坊外 | 太宰府市<br>大字内山 | 402214 | 210187 | 58190.0 | −41900.0 | 20100420 | 20100731 | 877 | 造成 |
| ほうまんざんいせきぐん<br>宝満山遺跡群　第43次 | 条坊外 | 太宰府市<br>大字内山 | 402214 | 210187 | 58350.0 | −41385.0 | 20081225 | 20111220 | 939.39 | 社務所建設 |
| | | | | | | | | | | |

| 所収遺跡名 | 遺跡種別 | 時代 | 主要遺構 | 主要遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 宝満山遺跡群　第42次 | 社寺跡 | 中世、近世 | 礎石建物、基壇<br>石垣 | 瓦、土師器 | |
| 宝満山遺跡群　第43次 | 社寺跡 | 中世、近世 | 整地 | 鬼瓦、土器 | 建造物や文書の調査も行う。 |


太宰府市の文化財　第117集

宝満山遺跡群 7

−第42・43次調査−

平成24（2012）年12月

編集　太宰府市教育委員会

発行　太宰府市観世音寺1-1-1

印刷　有限会社 システム・レコ
福岡市東区多の津一丁目14番1号
FRCビル

宝満山遺跡群７
―第42・43次調査―
太宰府市の文化財　第117集
太宰府市教育委員会
平成２４年
（２０１２）